2016 希望郷 いわて国体

第71回国民体育大会　広げよう 感動。伝えよう 感謝

東日本大震災復興の架け橋

第71回国民体育大会

セーリング競技会

平成28年10月2日(日)～10月5日(水)

会場／リアスハーバー宮古

主催／公益財団法人 日本体育協会
文部科学省
岩手県
公益財団法人 日本セーリング連盟
宮古市

国民体育大会マーク

昭和２２年に国民体育大会のシンボルとして制定され、第２回大会から使用されています。３０度右傾斜した赤色の火炎を直径の１０分の１幅の紺青色の円帯で囲んでいます。

総合開会式・総合閉会式会場

北上総合運動公園北上陸上競技場（北上市）

大会愛称・冠称

東日本大震災復興の架け橋

2016 希望郷 いわて国体

大会愛称は、東日本大震災からの復興を「希望」をもって目指し、両大会を成功に導き、県民が一丸となって「希望郷いわて」を創り上げていく、という思いを込めています。

冠称は、岩手県出身の偉人新渡戸稲造にちなみ、全国と被災地の結びつきを架け橋に例え、また、第７１回国民体育大会が復興のシンボルとなり、復興及びその先の明るい未来への架け橋となる願いが込められています。

スローガン

広げよう 感動。伝えよう 感謝。

スポーツを通じて感動を全国に広げたい、全国からの東日本大震災復興に対する感謝を伝えたい、という想いを込めています。

マスコット　「わんこきょうだい」

こくっち　とふっち　そばっち　おもっち　うにっち

岩手県で人をもてなす象徴といわれる「わんこそば」と国内生産量日本一を誇る漆を使った岩手の「漆器」を掛け合わせたメインキャラクターの「そばっち」と、県内４つのエリアをそれぞれ代表する食材を盛り付けたキャラクターが、雑穀をモチーフにした「こくっち」、おとうふの「とふっち」、おもちの「おもっち」、うにの「うにっち」です。この５つのキャラクター「わんこきょうだい」で、岩手の魅力を発信し、おもてなしの心で希望郷いわて国体を盛り上げていきます。

目　次

―あいさつ―

第71回国民体育大会会長　公益財団法人 日本体育協会会長　張　富士夫…… 1
文部科学大臣　松野　博一…… 2
公益財団法人 日本セーリング連盟会長　河野　博文…… 3

―歓迎のことば―

希望郷いわて国体・希望郷いわて大会実行委員会会長　岩手県知事　達増　拓也…… 4
希望郷いわて国体宮古市実行委員会会長　宮古市長　山本　正徳…… 5
岩手県ヨット連盟会長　榊　顕治…… 6

国民体育大会天皇杯・皇后杯授与規程 …… 7
国民体育大会会長トロフィー授与規程 …… 8
大会役員 …… 9
競技会役員 …… 13
競技役員 …… 15
競技運営支援 …… 18
競技補助員 …… 19
宮古市実施本部・医療スタッフ …… 20
競技会補助員・運営ボランティア・宮古市実行委員会事務局 …… 21
総則 …… 23
セーリング競技実施要項 …… 38
帆走指示書 …… 47
式典次第 …… 59
セーリング競技の見方 …… 61
都道府県別参加人数一覧表 …… 66
監督・選手一覧表 …… 67
プログラム記載事項訂正届 …… 78
過去の成績（種目別成績・総合成績） …… 79
セーリング競技会会場全体図 …… 85
セーリング競技会会場周辺図 …… 86
大会関係連絡先一覧 …… 87

あ　い　さ　つ

第71回 国民体育大会会長
公益財団法人 日本体育協会
会長　張　富士夫

はじめに、4月に発生した熊本地震によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

46年ぶりに岩手県において行われる第71回国民体育大会は、本年1月から2月にかけて行われた冬季大会と併せ「東日本大震災復興の架け橋」の冠称のもと、「完全国体」として開催いたします。

本大会が、平成23年3月に発生した東日本大震災により、未曽有の災害に見舞われた岩手県において、天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、開催されますことは、大変感慨深いものがあります。

スポーツを通して広く国民に夢と希望を与え、明るく豊かな国づくりを目指しスタートした国体は、今日まで多くの関係者のたゆまぬ努力と情熱に支えられ、わが国最大のスポーツの祭典として充実、発展を遂げてまいりました。

全国から厳しい予選を勝ち抜き、栄えある郷土の代表として参加された選手の皆さんには、「広げよう 感動。伝えよう 感謝。」のスローガンのもと岩手県の皆さんが一丸となって諸準備に万全を尽くされたこの大会において、フェアプレー精神のもと、日頃鍛えた力と技を存分に発揮されることを期待しております。

また、選手の皆さんが全力で競技に取り組む姿が、東日本大震災ならびに熊本地震により被災された方々の力となることを、大会関係者とともに主催者の一員として強く願っております。

さらに、全国から参集する大会関係者と岩手県の皆さんとの出会い、交流が、岩手県と全国を、また現在と未来をつなぐ架け橋となり、本大会が実り多い大会となることを切望いたします。

結びに、復興のさなかにもかかわらず、大会の開催にご理解を賜りました岩手県をはじめ、関係各位のご尽力に対しまして心から感謝の意を表し、併せて大会の成功を祈念しご挨拶といたします。

あ　い　さ　つ

文部科学大臣
松野博一

はじめに、４月に発生した熊本地震によって、お亡くなりになられた方々に深く哀悼の意を表しますとともに、御遺族と被害に遭われた方々に心からのお見舞いを申し上げます。

奥羽山脈などに代表される緑豊かな山々、三陸復興国立公園などの変化に富んだ海岸等、豊かな自然環境に恵まれ、世界遺産「平泉」「橋野鉄鉱山・高炉跡」や無形文化遺産「早池峰神楽」など歴史と文化が息づくここ岩手県において、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、東日本大震災復興の架け橋第７１回国民体育大会「希望郷いわて国体」が盛大に開催されますことを、誠に喜ばしく存じます。

国民体育大会は、我が国最大のスポーツの祭典として、広く国民に親しまれるとともに、今日に至るまで、スポーツの振興・発展に極めて重要な役割を果たしてまいりました。

岩手県では４６年ぶりの開催となる本大会は、「東日本大震災復興の架け橋」を冠称に、岩手県全域を舞台に熱戦が繰り広げられます。「希望郷いわて国体」が国民に夢と感動を与え、全国と被災地域のつながりと復興及びその先の未来への架け橋となるすばらしい大会となりますことを心から願っております。

郷土の代表として参加される選手の皆さん、これまで積み重ねてこられた練習の成果を思う存分発揮されるとともに、この機会に全国の仲間や岩手県民の皆さんとの交流の輪を広げられ、思い出に残る大会となりますことを期待しております。

今年はリオデジャネイロにおいて、オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、国民のスポーツへの関心がますます高まっているところです。そのような中、開催まで４年となった２０２０年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向け、オールジャパン体制で大会準備や選手強化などに取り組んでいるところであり、引き続き皆様からの御理解、御支援をお願いいたします。

結びに、東日本大震災からの復興に取り組んでいる中、「希望郷いわて国体」の開催に当たり御尽力された地元岩手県、会場となる各市町村をはじめとする関係の皆様の御支援、御協力に対し、心から敬意と感謝の意を表しまして、御挨拶といたします。

あ　い　さ　つ

公益財団法人日本セーリング連盟
会長　河　野　博　文

第71回国民体育大会「希望郷いわて国体」セーリング競技大会が、リアスハーバー宮古で開催されることをお慶び申し上げます。大会開催に御尽力いただきました宮古市及び岩手県、また本大会にご支援、ご協力いただきます海上自衛隊大湊地方隊大湊警備隊、宮古海上保安署など、関係各位に心からお礼申しあげます。

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から5年、しっかりと復旧したリアスハーバー宮古に、全国からセーラーが集うことが出来て誠に感慨深いところがあります。

あの日、津波で破壊されたハーバーに驚愕する一方で、海上で練習中の高校生を無事に避難させることができたことは世界から賞賛されました。そして、大災害に挫けることなく復旧、復興に立ち上がった地元の皆さんの努力、および全国のセーラーの皆さんの支援にあらためて敬意を表する次第です。

さて、昨年から国際420級とレーザーラジアル級は国体の正式種目になりました。国際的に普及している艇種の採用で、世界に羽ばたくセーラーが育つことを大いに期待しています。

本大会では、参加選手諸君は日頃培ってきた技を発揮してフェアな精神で力いっぱい帆走し、素晴らしいレースを展開してください。海では互いに切磋琢磨し、陸に上がってきたときは、お互いの友情を育んでください。

このご挨拶文の寄稿時点では、リオデジャネイロ・オリンピックは始まっていませんが、本大会では嬉しい結果がご報告できていると期待しています。リオが終わるといよいよ2020年の東京オリンピック・パラリンピックです。2020年に向けて、セーリング・スポーツが広く国民の皆さんへ普及していくようにしていきたいと思っています。

終わりに、選手諸君の健闘とこの大会が好天に恵まれ、安全に運営され、参加選手が存分に活躍されますことを祈念してご挨拶といたします。

歓迎のことば

希望郷いわて国体・希望郷いわて大会
実行委員会会長
岩手県知事　達増拓也

はじめに、平成28年熊本地震で犠牲になられた方に対し、心からお悔やみ申し上げますとともに、被害に遭われた全ての皆様に御見舞い申し上げます。

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、全国から多くの選手及び役員の皆様をお迎えして、自然豊かで情緒あふれるここ岩手県において、東日本大震災復興の架け橋第71回国民体育大会「希望郷いわて国体」を盛大に開催できますことは、この上ない喜びであり、岩手県民を代表して心から歓迎申し上げます。

本県における国民体育大会の開催は、昭和45年以来46年ぶり、また、本大会と冬季大会の全競技を同一県で開催するいわゆる「完全国体」としては、全国でも21年ぶりの開催となります。本国体は、復興のシンボルとして「広げよう感動。伝えよう感謝。」をスローガンに、これまでいただいた御支援への感謝を伝えるとともに、復興に取り組む過程で生まれた多くの「つながり」をより広く、より強くする機会ともとらえ「オール岩手」で準備を進めてまいりました。

郷土の誇りをかけて全国から参加される選手の皆様におかれましては、日頃のたゆまぬ努力の成果を遺憾なく発揮され、熱戦を繰り広げられますことを願っております。

本県は海と山に囲まれた雄大な自然や二つの世界遺産、風土に根ざした食文化など多彩な魅力にあふれております。復興に向かって力強く前進する本県の姿を是非御覧いただくとともに、こうした岩手の魅力にも触れていただければ幸いです。

結びに、各都道府県選手団の皆様の御健闘、御活躍を心からお祈り申し上げますとともに、本大会の開催にあたり、多大な御支援と御協力をいただきました関係者の皆様に心から感謝申し上げ、歓迎のことばといたします。

歓迎のことば

希望郷いわて国体宮古市実行委員会会長
宮古市長　山　本　正　徳

はじめに、４月に発生した熊本地震によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。
東日本大震災復興の架け橋　第７１回国民体育大会「希望郷いわて国体」セーリング競技会が、全国から選手、監督並びに役員の皆様をお迎えして宮古市で開催できますことは誠に喜ばしく、市民を代表して心から歓迎申しあげます。

宮古市は岩手県の沿岸部ほぼ中央にあり、北上山地を仰ぐ内陸部からリアス式海岸の景観が特徴的な沿岸部までの広い面積を有し、森・川・海の豊かな自然に恵まれた本州では最東端に位置する街です。

平成２３年３月１１日に東北地方を襲った東北日本大震災では、宮古市でも津波により多くの尊い命が失われました。かつて経験したことの無い大規模な災害に遭遇した中、全国の皆様からいただいた温かいご支援や励ましの言葉は我々を支え、勇気づけてくれました。おかげさまで、宮古市の復興も着実に進んでおります。大変ありがとうございました。

本競技会で本市を訪れる皆様には、復興が進む宮古の現状をご覧いただきながら、豊かな自然に育まれた文化、海の幸、山の幸を楽しんでいただきたいと思います。

本競技会に出場される選手の皆様には、日頃の厳しい練習により培われた心身と技術の全てを遺憾なく発揮され、郷土の代表として素晴らしいレースを繰り広げていただきますよう期待しております。また、全国の仲間との親睦を深め、お互いの健闘を称え、心に残る大会となりますことを願っております。

結びに、本競技会の開催にあたり、多大なるご尽力を賜りました公益財団法人日本セーリング連盟及び岩手県ヨット連盟はじめ、関係者の皆様に心から感謝を申し上げますとともに、本競技会の成功とセーリング競技の今後ますますの発展を祈念いたしまして、歓迎の言葉といたします。

歓迎のことば

岩手県ヨット連盟
会長 榊　顕治

東日本大震災復興の架け橋　第71回国民体育大会「希望郷いわて国体」セーリング競技会を開催するにあたり、全国各地から参加いただきました監督・選手の皆様、並びに大会役員の皆様方を心より歓迎申し上げます。

宮古市でのセーリング競技は昭和45年「みんなの国体、のびゆく岩手」以来46年ぶりの開催で、今回の国体は復興のシンボルとして「広げよう感動。伝えよう感謝。」をスローガンに、これまでに全国から頂きましたご支援に対して開催地として感謝申し上げる大会でもあります。

先の東日本大震災では宮古市も甚大な被害を蒙り、国内はもとより世界中の方々からたくさんの援助を頂き、回復の途上にあります。

会場でありますこの「リアスハーバー宮古」は国内でも数少ないディンギー専用のハーバーで普段は高校生ヨット部の活動拠点となっており、施設とレース海面には多少の狭隘さを感じると思われますが、郷土の誇りをかけて参加される選手の皆様には日頃のたゆまぬ努力の成果を発揮して素晴らしいレースを繰り広げますことを願っております。

皆様ご承知のとおり、リオデジャネイロオリンピックでは女子470クラスが5位に入賞しました。2020年東京オリンピック・パラリンピックでは今回の大会に集う仲間から日本代表選手が選考され、そしてメダリストになることを願ってやみません。

選手の皆様には、この大会の目的がセーリングの素晴らしさを多くの人々に伝えるためである事をご理解頂き、スポーツマンシップに溢れた競技を繰り広げて頂くことをお願い致します。

また、平成25年に区域が拡張されて名称が「三陸復興国立公園」となり、その中心部に位置する宮古市とその周辺の景色と海の幸を味わって、お土産話にお持ち帰り頂きたいと思います。

結びとなりますが、大会開催にあたり、多大なご支援とご協力を頂きました関係者の皆様に深く敬意と感謝の意を表しますとともに、本大会の成功を記念いたしまして歓迎のことばと致します。

国民体育大会天皇杯・皇后杯授与規程

第１条　天皇杯は、男女総合成績第１位の都道府県、皇后杯は、女子総合成績第１位の都道府県に授与する。

２　第１位が２都道府県以上の場合は、当該都道府県で共有する。

第２条　天皇杯及び皇后杯は、総合閉会式に授与し、次回の総合開会式において返還する。

第３条　天皇杯又は皇后杯を授与された都道府県は、次の各項の義務を有する。

（１）　信託会社又は確実な金庫に保管する。

（２）　破損、紛失等の場合は、当該都道府県の責任とする。

（３）　公益財団法人日本体育協会が優勝都道府県名刻印のため又はその他の必要により一時返還を求めた場合は、これに応じなければならない。

附　則　　本規程は昭和４１年　４月　１日制定

昭和４５年　１月２２日一部改訂

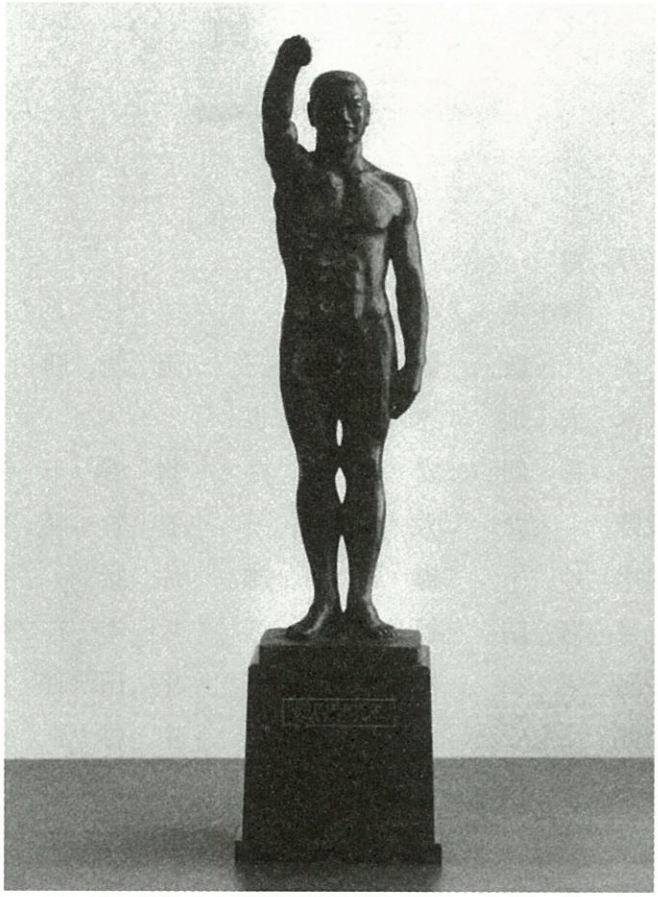
昭和４８年　７月１０日一部改訂

昭和５４年　５月　９日一部改訂

平成１７年　６月１６日一部改訂

平成２２年　３月１７日一部改訂

本規程は、公益財団法人日本体育協会の設立の登記の日（平成２３年４月１日）から施行する。



国民体育大会会長トロフィー授与規程

第１条　国民体育大会会長トロフィー（以下「大会会長トロフィー」という。）は、正式競技別男女総合成績第１位の都道府県に授与する。

２　第１位が２都道府県以上の場合は、当該都道府県で共有する。

第２条　大会会長トロフィーは、競技会表彰式に授与し、次回競技会において返還する。

第３条　大会会長トロフィーを授与された都道府県は、次の各項の義務を有する。

（１）　責任をもって保管する。

（２）　破損、紛失等の場合は、当該都道府県の責任とする。

（３）　優勝の刻印を次回大会までに行うものとする。ただし、第１条第２項の場合は、当該都道府県で協議して決めるものとする。

（４）　公益財団法人日本体育協会が必要により一時返還を求めた場合は、これに応じなければならない。

附　則　　本規程は昭和４１年　４月　１日制定

昭和４５年　１月２２日一部改訂

昭和４８年　７月１０日一部改訂

昭和５４年　５月　９日一部改訂

平成１７年　６月１６日一部改訂

本規程は、公益財団法人日本体育協会の設立の登記の日（平成２３年４月１日）から施行する。

◇大会役員◇

平成２８年８月８日現在

（順不同・敬称略）

【名誉会長】	松野博一			
【会長】	張　富士夫			
【副会長】	岡本　毅	監物永三	岡崎助一	泉　正文
	鈴木大地	達増拓也		
【顧問】	森　喜朗	安西孝之	猪谷千春	帖佐寛章
	日比野　弘	大野敬三	有竹隆佐	市村　仁
	宇津木妙子	梅野哲雄	片野　裕	勝田　隆
	葛目憲昭	坂本和彦	坂本祐之輔	佐久間重光
	竹田恆和	樋口久子	平田竹男	不老浩二
	松井　守	山下郁夫	中村正彦	村田芳子
	青木　剛	松崎康弘	菱沼信夫	木村　新
	中村康夫	山根　明	林　孝彦	二木英徳
	弘田充宏	堀内光一郎	藤澤信雄	鈴木　修
	篠宮　稔	市原則之	大島研一	笠井達夫
	前原正浩	宗像豊巳	田中英壽	春田恭彦
	山本正秀	山下泰裕	髙橋清生	今井茂満
	柴田　猛	田村恒彦	福本修二	浪越信夫
	眞下　昇	尾形好雄	山口徹正	宮﨑利帳
	栗原茂夫	建部彰弘	片山幸太郎	本戸歳知
	中村ゆり子	齋藤良太郎	荒井久也	野端啓夫
	早坂義弘	井上　弘	遠藤容弘	岡﨑　温
	永田圭司	浪岡正行	宮本英尚	村越　真
	園山和夫	山倉和彦	衣笠　剛	知念かおる
	伊部廣明	田邊哲人	京極　努	中村節夫
	碓井　進	霜觸　寛	田澤俊明	佐藤博俊
	鈴木斌次郎	小川　潔	遠藤　均	堀口卓司郎
	荒川政利	野本彰一	青木　寛	並木一夫
	小野　力	岩波輝明	阿部　徹	丸山隆義
	横嶋信生	向田和義	宮塚和彦	加藤訓義
	村木啓作	東地隆司	木村孝一郎	山本誠三
	桂　千惠子	濱田浩嗣	福井基雄	志場紀之

【顧問】

油野利博	下岡博司	梶川政文	久保田文也
野村雅史	原田　俊	分木秀樹	濱田征男
森下博輝	東島敏隆	荒木健治	平田浩一
井上倫明	川﨑重雄	髙城国昭	山田登志夫
菊山直幸	黒川光隆	高橋眞琴	岡田正治
大東和美	久保　博	吉田和憲	寺澤正孝
日枝　久	森　保彦	森　正博	佐藤　広
金子正子	水落敏栄	田野瀬太道	前川喜平
小松親次郎	佐野　太	髙橋道和	階　猛
鈴木俊一	黄川田　徹	小沢一郎	高橋ひなこ
橋本英教	藤原　崇	平野達男	木戸口英司
田村　誠	高橋嘉行	雫石禮子	谷藤裕明
民部田幾夫	菊田　隆	昆　暉雄	宗岡正二
河野博文	佐藤浩市	笹川　堯	遅塚研一
北野貴裕	横田　努	畔柳信雄	田嶋幸三
八田英二	福田康夫	木村憲治	福田富昭
北川　薫	坂本剛二	木下宗昭	岡村　正
徳田　寛	小池百合子	松尾新吾	小野清子
橋本聖子	千　玄室	高橋義博	大久保尚武
渡辺佳英	八木原圀明	藤重貞慶	星野正史
安道光二	島田晴男	横川　浩	竹田恆正
秋山　肇	國分孝雄	綿貫民輔	三屋裕子
堀　達也	蝦名　武	小笠原直樹	吉村美栄子
須佐喜夫	角田芳夫	福田富一	児玉三郎
上田清司	森田健作	山本　博	鴻　義久
後藤　斎	馬場潤一郎	石井隆一	谷本正憲
西川一誠	阿部守一	小野木孝二	川勝平太
大村秀章	竹林武一	河本英典	武田　暹
牧野明次	井戸敏三	橋本隆史	仁坂吉伸
溝口善兵衛	越宗孝昌	神出　亨	村岡嗣政
飯泉嘉門	多田野　榮	大亀孝裕	青木章泰
小川　洋	山口祥義	中村法道	甲斐隆博
広瀬勝貞	佐藤勇夫	伊藤祐一郎	翁長雄志

【参与】

木村徹也	平井明成	澤川和宏	井上　仁
仙台光仁	千葉絢子	小西和子	斉藤　信

【参与】
吉田敬子　髙橋但馬　福井せいじ　樋下正信
小野寺好　軽石義則　阿部盛重　伊藤勢至
佐々木宣和　城内よしひこ　木村幸弘　川村伸浩
佐々木順一　名須川晋　佐藤ケイ子　関根敏伸
髙橋元　髙橋孝眞　中平均　嵯峨壱朗
工藤勝子　神﨑浩之　佐々木朋和　高田一郎
飯澤匡　千葉進　佐々木茂光　岩崎友一
小野共　五日市王　工藤誠　千葉伝
工藤勝博　千田美津子　佐々木努　郷右近浩
渡辺幸貫　菅野ひろのり　ハクセル美穂子　柳村一
柳村岩見　臼澤勉　田村勝則　工藤大輔
千葉茂樹　八重樫勝　小平忠孝　村井三郎
芳沢茎子　藤井克己　杉村孝　保和衛
風早正毅　大平尚　津軽石昭彦　佐々木信
菊池哲　紺野由夫　及川隆　木村卓也
佐藤博　浅沼康揮　堀江淳　小向正悟
八重樫一洋　八重樫幸治　菅原伸夫　大友宏司
石田知子　佐藤新　菊池寛　堀誠司
桐田教男　井上馨　阿部繁弘　谷村邦久
長山洋　藤井公博　星野勝利　柳村栄
菅原正弘　平賀信二　松井端巧　山形守平
三船俊光　佐藤勝士　鎌田英樹　熊谷俊巳
髙橋富一　谷村久興　佐藤安紀　高橋真裕
伊藤文洋　松田恵美子　瀬川愛子　長澤茂
菊池透

【委員長】
原博実

【副委員長】
河内由博　先﨑卓歩　岩間隆

【総務委員】
荒川昇　林辰男　飯坂尚登　石川惠一朗
稲垣公雄　川原貴　菊幸一　坂井利郎
三戸一嘉　柴田益孝　菅原哲朗　鈴木浩二
友永義治　萩原美樹子　松丸喜一郎　山口香
山本浩　ヨーコ ゼッターランド　髙田勉　秋和政一
土居忠博　藤原惠　三井勉　野上文敏
国久敏弘　丹羽治夫　金沢敬　岩田史昭
小友善衛　泉裕之　八木浩之　髙橋光彦

【　委　員　】

大嶋康弘	髙橋聖一	植田昌利	冨田政利
野﨑拓哉	山本伊知郎	杉原　治	樋山　茂
小泉芳孝	佐久間裕司	野村俊郎	入澤孝一
末柄　勝	末木創造	江成元伸	松倉信裕
柳下秋久	金﨑正久	小松勝彦	藤熊　昇
伊藤一人	松井　勲	三宅　豊	丹藤勇一
中野秀也	奥島快男	磯村幸二	西原斗司男
津田博司	日下修次	木野内　毅	衛藤敬輔
山下久雄	中段亜由美	佐藤直亮	関根宏一
竹中雅彦	東　敏昭	佐々木健治	東野眞理子
吉田優子	佐野俊輔	佐藤慎也	小泉律紗
川井寿裕	平野博紀	日下光彦	関　伸夫
成瀬幸宏	大石幸司	中村陽介	薄葉拓樹
平林秀彦	篠澤尚人	安藤喜章	石川俊文
小澤　陽	中村惣一	粒來幸次	安部光一
藤澤敦子	中島　新	工藤啓一郎	浅川　伸
長谷川浩幸	相坂　譲	松本文弘	鈴木俊一
百瀬克浩	武田浩一	藤田知巳	田代哲郎
藪原　博	古垣　玲	山﨑成夫	内藤典子
浦邊　哲	赤岡重人	池嶋聖也	老月　守
徳田伸一	西川　聡	小野沢弘夫	林　泰章
藤掛賀津博	都築直哉	霊池恵量	川原三男
岩出　卓	中嶋義基	角井弘之	田中　実
小比賀忠和	八木康文	荒木一聡	村上　健
小西慎太郎	後藤裕明	佐藤正範	有澤　寛
石井孝典	石井道代	永富直樹	佐川英之
渡辺浩三	加藤哲也	寺崎雅巳	原　恒久
森　栄二	古木克浩	鹿倉　貢	瑞慶覧康博
渡嘉敷通之			

◇競技会役員◇

平成２８年９月１日現在

（順不同・敬称略）

【名誉会長】	山本正徳			
【会長】	河野博文			
【副会長】	上居勝弘	植松　眞	中川千鶴子	桑原啓三
	榊　顕治			
【顧問】	駒井吉位	山崎達光	齋藤　威	児玉萬平
	上野　保	小田切満寿雄	戸田邦司	秋山雄治
	森山雄一	佐藤　正	菊池浩太郎	中野正志
	高橋　基	後藤憲二	緑川幹朗	錦織孝一
	船田　元	須藤昭男	新藤義孝	千葉滋胤
	北住威彦	貝道和昭	堀内光一郎	細井房明
	横山　真	四方正治	大西治夫	岡本正治
	中島量敏	豊田鐵郎	原田佳幸	森　正弘
	山田將人	名倉　孝	岩崎清彦	森田豊三
	堀井康弘	中井國雄	安田優子	大西和彦
	竹内宣昭	山根恒弘	秋野哲範	中　博史
	石井良直	宮崎光彦	文野順夫	進藤龍一
	江上徹也	小早川宗弘	堀井伸一	樋口宗司
	熊谷輝雄	有銘兼一	高橋順一	棚橋善克
	前川昌登	佐々木敏美		
【参与】	大谷たかを	鈴木保夫	青山　篤	小山泰彦
	石村幸久	菊池長右エ門	三浦　勝	佐藤　司
	加藤俊郎	今村　正	小島直也	佐々木清明
	白石雅一	鳥居　晋	中島清吾	伊藤　清
	内舘勝則	北村　進	佐々木重勝	須賀原チエ子
	髙橋秀正	古舘章秀	工藤小百合	坂本悦夫
	長門孝則	佐々木　勝	落合久三	竹花邦彦
	松本尚美	坂下正明	茂市敏之	藤原光昭
	田中　尚	荒谷榮子	橋本美紀	平井亮吉
	刈屋　徹	澤田三夫	山口公正	鈴木貴詞
	伊藤晃二	上野三郎	濱道秀人	佐藤　尚
	高橋正浩	及川晃貴	熊谷正樹	佐藤　有

【参与】	森　真	植田眞弘	小澤敬二	朝田　学
	村上晶彦	藤田芳男	田名場善明	白旗牧人
	玉澤賢一	皆川　啓	阿部章夫	大井誠治
	佐藤雅夫	倉田英生	澤田克司	赤沼利彦
	細越雅佐浩	澤田　惇	鈴木光子	小林昭二
	山崎政典	岩田直司	松館仁志	山根正敬
	小前　繁	長沢雅彦	芳賀直樹	野崎仁也
	飯岡健志	白鳥定良	田崎義孝	
【委員長】	鈴木　修			
【副委員長】	伊藤重行	松下　寛	橋本久夫	
【委員】	斎藤　渉	坂谷定生	平松　隆	中澤信夫
	川北達也	天辻康裕	宮野幹弘	関　一人
	富田三和子	相澤孝司	菊池邦仁	末木創造
	平井昭光	森　信和	大島茂樹	馬場益弘
	中村和哉	井川史朗	黒川重男	岡村勝美
	宇都光伸	鈴木邦雄	駒井　博	坂本　晋
	長塚奉司	佐々木義春	佐々木幸夫	田中寛之
	関村雅夫	小野寺　隆	佐々木貴浩	佐藤裕典
	川口　進	山下　亮	伊奈一美	加藤　恵
	橋本洋平			

公益財団法人　日本アンチ・ドーピング機構　検査員

◇競技役員◇

平成２８年８月１０日現在

（順不同・敬称略）

※印は兼務

【競技委員会】

委員長　末木創造

副委員長　森　信和　榊　顕治

【レース委員会】

委員長　川上　宏

副委員長　岡田　彰

委　員　※山本俊貴　※奥村俊宣　※古屋勇人　※小礒紀明
※中村光恵　※東島和幸　※黒川重男　松下　寛

【レース委員会事務局】

局　長　山下　亮

次　長　※山本俊貴　※黒川重男

局　員　※中村光恵　外尾竜一　鈴木規之　加藤　恵
相原正敏　高嶋笑子

【記録部】

部　長　皆野川　徹

副部長　※小礒紀明

部　員　坂本　晋　合田光毅　昆　直人　駒井多恵
直江正一

【総務・報道部】

部　長　長塚奉司

副部長　柳澤康信　篠遠満里子　橋本久夫

部　員　滝澤　肇　濱田　賢　相澤孝司　佐藤利秋
広田喜世人　斉藤　威　高橋正彦　桑野安史
吉留容子　石橋　顕　加藤　明　上部荘子
富田三和子　長田美香子　尾形依子　沼崎はるか
中島恵美　澤田和嘉子　山下綾子　清水愛美
富田真由美　長洞みな子

【プロテスト委員会】

委員長	増田　開			
副委員長	前園　昇			
委　員	柴沼克己	川北達也	中野佐多子	加藤圭二
	林　健太	渡邉範夫	福田　久	細川義明
	間下正司	兼田幸治	黒木信治	高野由美子
	山本憲一	斎藤和久	岡嶋圭治	佐藤久哉
	高谷　智	東谷和一		

【プロテスト委員会事務局】

局　長	石川雅之			
次　長	加藤恵美			
局　員	吉田愛美	久保田美津穂	湊　友希	増田知恵
	堀　千秋			

【発着水路部】

部　長	橋本洋平	沼崎敦司		
副部長	※奥村俊宣	岡村勝美		
部　員	※古屋勇人	笠木伸平	穂積洋平	篠宮元子
	津野　洋	倉持隆一	土岡正治	佐々木憲一
	田口真一	菊池　透	福田慎之介	福田　衛
	武者裕之	濱野　文	小田桐俊亮	会津友稀
	木村真也	兼平祐斗	我満龍真	神　圭祐
	山本千文	立石仁美	東谷和香	加藤則夫
	高橋　弘	岡崎真一郎	木村公英	加藤繁幸
	※伊藤大貴	角田　渉	田中浩貴	鈴木実頼
	阿部　力	田中博志	加賀智博	岡部佳久
	保科　昇	岩淵太一	佐藤　駿	土田みか
	大堀志絵莉	石村幸久	関山修司	伊藤克宏
	佐藤龍男	三河　清	佐藤　司	田村雄喜
	中村逸生	佐藤裕典	中澤公晴	佐香敏彦
	小野寺　隆	中西秀彦	※山崎義剛	※佐々木貴浩
	伊藤　隆	古舘善彦	小野岳登	荒木田大貴
	小成朋志	佐々木　敦	芳賀正輝	伊奈一美
	大久保　誠	早野孝幸	佐々木雄太	鈴木辰徳
	岡本桂太	伊藤純一	新井田あゆみ	※東　知英

部　員　北村恵美子　鳥居郁海　上田育美　妙川沙玖良
福山英昭　三浦恵樹　加藤　治　宮本大毅
※三浦啓花　菅原鷹嶺　長谷川　碧　※石崎泰成
島田高志　三浦　勝　長鈴知樹　木立洋平
小島輝夫　三浦俊介　金澤友美　畑中一希
伊藤未波　阿部俊介　落合貴穂　伊藤優希
※鈴木李奈　※清水琴音

【計測・競艇部】

部　長　柳原聡明

副部長　※東島和幸

部　員　恒川好信　大庭秀夫　西野隆文　宮野幹弘
二瓶誠志　三浦由希子　久保田麻美　小笠原知彦
橋本洋明　※伊藤大貴　※山崎義剛　※佐々木貴浩
※赤羽啓朗　※森山啓花　※石崎泰成　※東　知英
白石潤一郎　巽　美則　小林　隆　粟野和昭
伊藤大貴　※鈴木李奈　※清水琴音

【運航・通信部】

部　長　村井俊和

副部長　※前田正浩

部　員　杉田　洋　赤羽啓朗　熊谷圭祐　湯浅敏郎

【海上安全部】

部長　関村雅夫

副部長　佐藤竜介

部員　大久保寿人　高坂泰行　渡部孝悦　刈田　栄
香川昂亮　鈴木邦雄　北村多美夫　早野幸雄
山崎佳一　金澤隼太　橘内　修　佐藤英晴
高橋英夫　北村　誠　菊池俊介　三浦幸也
川端昭弘　河原輝宙　北島　優　片田晃輔
横山大星　千葉一輝

◇ 競技運営支援 ◇

平成２８年９月１日現在

（順不同・敬称略）

特別支援
海上自衛隊　大湊地方総監部
海上自衛隊　大湊警備隊

【海上安全部】

上田晃平	水津直太郎	田中　智	市川朋昌
村上　崇	阿保　匠	髙橋大輔	磯沼　淳
佐々木義彦	髙橋亮太	東谷真也	佐川大樹
中山雅輝	舞草裕輝	山形幸記	高松直樹
北村裕弥	中谷敬太郎	山本孝太	畑山晃一
津田川悟史	植松哲太		

特別支援
宮古海上保安署

競技運営支援
国立宮古海上技術短期大学校

【総務・報道部】

髙石守人	山本奈々	島﨑謙三	金澤英司
影田久保博			
伊藤文也	岩船涼太	浮田知之	宇田周介
櫻井雄一	佐藤麗斗	島田長治	竹内大起
長谷川雄吾	村塚卓弥	米澤裕平	

【発着水路部】

佐々木直人	田中伸也	野﨑恭史	木村正彦

◇競技補助員◇

順不同・敬称略

【県立宮古高等学校】

佐々木　茜　莉	中　平　亮　吾	山　根　茉　弘	堀　合　光　希
山　崎　暢　太	大　程　由依子	大　谷　航　心	山　根　宏　貴
長　澤　侑　里	若　狭　郁　実	加　藤　美　久	田　中　真　琴
中　平　亮　吾	山　根　茉　弘		

【県立宮古商業高等学校】

岡　澤　佑　紀	飛　澤　大　樹	佐々木　　龍	前　川　翔　太
向　口　瑠　袈	山　内　　裕	加　藤　　卓	木　村　佑　大
三　浦　ありさ	宮　澤　望　来	伊　藤　澪　史	佐々木　麗　羅
木　村　境　吾	佐々木　祐　哉	千　田　直　人	深　戸　大　雅
加　村　　竜	伊　東　瑞　季	尾　形　龍　希	大　下　亜梨沙
木　村　泰　智	今　野　榛　真	鈴　木　涼　介	村　上　真　海
高　橋　知　華	乙　戸　日　向	越　田　匠　哉	佐々木　爽　汰
山　根　元　気	長屋敷　美　彩	盛　合　汀　紗	熊　谷　志　泉
田　中　敦　也	佐々木　雄　大	岩　見　俊　太	下河原　瞬　人
佐々木　悠　夏	小笠原　康　太	川　上　優　輝	吉　川　冬　真
藤　岡　優　希	星　川　太　一	水　野　僚　太	山　根　大　弥
坂　本　周　彌	大　黒　広　樹	髙屋敷　龍太郎	舘　洞　　諒
赤　間　海　斗	梅　澤　　海	金　澤　大　智	池　上　翔　太
久保田　郁　也	田　中　公　康	蛇　石　渓　太	伊　藤　真　衣
森　谷　祐　希	佐々木　竜　星	宇都宮　　渉	小笠原　健　介
佐々木　賢　央	佐　藤　龍　哉	岩　見　健　人	太　田　琉　聖
佐　藤　　怜	高　梨　　隼	内　藤　　廉	堀　合　悠　斗
佐々木　健　人	仲　田　慎二郎	古　舘　　壌	畠　山　結　菜
岡　田　莉々花	桐　田　鷹　大	佐々木　郁　飛	山　崎　裕　也
川　田　真　生	佐々木　善　崇	野　崎　竜　也	

【県立宮古水産高等学校】

細　越　祐依子	丑　木　沙　良	恩　田　典　子	佐々木　莉　瑚
藤　原　千　奈	吉　田　愛　音	加　藤　唯　希	下　窪　菜　々
佐々木　陽　菜	田　中　咲　菜	坂　本　千　嘉	澤　田　彩　花
金　澤　茉　子	山　口　百　香	佐　藤　美　玖	中　洞　夏　風

◇ 宮古市実施本部 ◇

（順不同・敬称略）※印は兼務

セーリング競技会場

セーリング競技会場部長	伊藤重行			
総務班長	三田地環			
総務係長	盛合正寛			
総務係員	久保田英明	若江奈津子	芳賀俊介	山口由香理
	上川原のぞみ	※福徳智望	※根木淑子	
受付案内係長	渡邊伸也			
受付案内係員	畠山忍	山根亜彩美	小本菜那	畑中志美
弁当係長	久保田亮二			
弁当係員	大須賀健	日蔭丈朗		
消防警備係長	蒲野栄樹			
消防警備係員	関口憲史			
医療救護係長	伊藤喜代子			
医療救護係員	富田郁美			
シャペロン係	※福徳智望	※根木淑子		
競技式典班長	木村剛			
競技式典係長	堀合北斗			
競技式典係員	平井純	大向守	柾家真由美	島崎愛子
	盛合理紗	山崎大悟	橋場沙穂里	清水加奈子
	長門優汰			
会場おもてなし班長	埜崎一茂			
休憩所係長	大越公			
休憩所係員	吉田美津代			
環境美化係長	石垣達也			
環境美化係員	田道秀一			
輸送交通係長	高山弘二			
輸送交通係員	久保田貴裕	齋藤公誉	小林康弘	山本恭彦
	小笠原雅明	鳥居徹男	小野寺直	田頭達也
	伊藤修人			

◇ 医療スタッフ ◇

（順不同・敬称略）

【医師】	豊島秀浩	橋本祥弘	盛合直樹
【看護師】	山内美紀	佐々木由美子	滝野昌子

◇競技会補助員◇

順不同・敬称略

【県立宮古商業高等学校】

中嶋梨乃	橋田未来	山﨑美来	村上奈都美
小川愛叶	藤原凜	伊藤鞠	金丸千春
工藤萌	野村彩月	菊池史奈	小松灯
後藤いづみ	砂合優夏	粟津成未	佐々木烈弥
君澤ひかり	佐々木りの	山根あかり	吉田繭
熊谷咲希	古里舞那	吉田留美生	

【県立宮古水産高等学校】

成ヶ澤翼	前川澪	尾形楓	山内いちず
佐藤ななみ	田川日花里	松谷玲	佐藤菜々花
白土栞	尾形鈴	北舘芽依	佐藤江里那
佐々木七望	長洞美咲	熊谷媛香	佐々木つぐみ
城内紗希	髙坂枝里	田鎖汐音	山﨑美波
尾形美空	佐藤若菜	浦川玲菜	川村光
下川りな	舘野悠亮	山口涼太	尾形奈保
滝野育美	三河なつみ		

◇運営ボランティア◇

順不同・敬称略

坂下真紀子	大槌聡子	佐藤昭子	長塚由美子
山根一美	山根勝	昆俊之	鈴木陽
伊藤洋子	高瀬屋幸子	大黒康	横田初惠
坂本みゆき	大越一喜	下野眞智子	武藤歩子
花坂仁	影田久保輝子	鈴木清華	梅津信和
吉田弘子	小向由起子	小林美紀子	勝山久美子
成田千代	小笠原温子	熊谷和子	馬場邦子
北館陽佳	大平歩実	橋本一愛	船山祐花子
吉田愛香	野邑愛海	藤原萌々香	岩下昌子
甲斐谷江里香	松本理恵	宇都宮由紀子	中野繁子
若狭亜月	長澤実花		

（企業・団体）

千鶴会　　連合岩手宮古地域協議会
宮古信用金庫　　パンチ工業（株）宮古工場
明治安田生命保険（相）宮古営業所　　東北銀行（株）
岩手県東部地区郵便局長婦人会　　宮古市内郵便局
特定非営利活動法人いわてマリンフィールド

宮古市スポーツ推進委員協議会　　一般財団法人宮古市体育協会

◇ 希望郷いわて国体宮古市実行委員会 ◇

順不同・敬称略

【事務局長】　上居勝弘
【事務局次長】　伊藤重行
【事務局員】　佐々木雅明　長塚奉司　埜崎一茂　藤澤宏和
澤田満穂　関口清貴　福徳智望　根木淑子
畠山　勝

2　総　　則

開催の趣旨

国民体育大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにしようとするスポーツの祭典である。

岩手県で開催する第71回国民体育大会「希望郷いわて国体」は、東日本大震災津波からの復興の取組を進める中で、「広げよう感動。伝えよう感謝。」のスローガンのもと、「復興の力となる国体」、「岩手のスポーツ振興に寄与する国体」、「岩手の魅力発信と県民総参加による手づくりの国体」という3つの大きな柱を掲げ、県民の総力を結集して、夢と感動を与え、復興のシンボルとなる大会を目指して開催する。

実施方針

1　実施競技

正式競技	特別競技
陸上競技、水泳、サッカー、テニス、ボート、ホッケー、ボクシング、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、ハンドボール、自転車、ソフトテニス、卓球、軟式野球、相撲、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、山岳、カヌー、アーチェリー、空手道、クレー射撃、なぎなた、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン	高等学校野球

2　会期及び会場地

会期	会場地	会場地数
平成28年10月1日（土）～10月11日（火）〔11日間〕	盛岡市、宮古市、花巻市、北上市、久慈市、遠野市、一関市、釜石市、二戸市、八幡平市、奥州市、滝沢市、雫石町、葛巻町、岩手町、紫波町、金ケ崎町、山田町、岩泉町、普代村、軽米町、野田村、九戸村、洋野町、一戸町	12市10町3村
※　水泳競技会は下記日程内で実施 平成28年9月4日（日）～9月11日（日）〔8日間〕	盛岡市、釜石市	2市

3　競技方法

各競技実施要項に示す方法とし、正式競技は都道府県対抗で実施する。

4　ドーピング検査の実施

大会におけるアンチ・ドーピング活動（ドーピング検査及びアンチ・ドーピング教育・情報提供・啓発活動）は、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構が定める「日本アンチ・ドーピング規程」及び別に定める「国民体育大会アンチ・ドーピング活動に関するガイドライン」に基づき実施する。

なお、治療の目的で禁止物質・禁止方法を用いる必要がある場合は、事前に「治療使用特例」（TUE）の手続きを行うこと。

各都道府県の代表選手は、大会期間中は常に「国民体育大会ドーピング検査同意書」を所持しなければならない。選手が未成年者（20歳未満）の場合、親権者及び本人が署名、捺印した同意書を所持すること。

5　参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準

選手及び監督の参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準は、次のとおりとする。

なお、参加資格については、「第71回国民体育大会参加資格、所属都道府県及び年齢基準等の解釈・説明」を併せて確認すること。

【　公益財団法人日本体育協会ホームページ　http://www.japan-sports.or.jp/　】

(1)　参加資格

ア　日本国籍を有する者であることとするが、選手及び監督のうち、次の者については、日本国籍を有しない者であっても、大会に参加することができる。

(ｱ)　「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうち「永住者」（「日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法」に定める「特別永住者」を含む。）

(ｲ)　少年種別年齢域に該当し、次の要件をいずれも満たす者

a　「学校教育法」第１条に規定する学校に在籍する学生又は生徒で、「８　参加申込方法」で定めた参加申込締切時に１年以上在籍していること。

b　「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうち、「留学」又は「家族滞在」（中学３年生）に該当していること。

(ｳ)　成年種別年齢域に該当し、次の要件をいずれも満たす者

a　少年種別年齢域にあった時点において前号(ｲ)に該当していた者であること。

b　「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうち、大会参加時から終了時まで「留学」に該当しないこと。

［注］上記(ｳ)b について、大学及び専修学校等に在籍する成年種別の年齢域に該当する者は、「出入国管理及び難民認定法」に定める「留学」以外の在留資格を有する場合も「留学」と同等に扱う。

イ　選手及び監督は、所属都道府県の当該競技団体会長（代表者）と体育（スポーツ）協会会長（代表者）が代表として認め、選抜した者であること。

ウ　第69回又は第70回大会（都道府県大会及びブロック大会を含む。）において選手又は監督として参加した者は、次の場合を除き、第69回又は第70回大会と異なる都道府県から参加することはできない。

(ｱ)　成年種別

a　「学校教育法」第１条に規定する学校を卒業した者

b　結婚又は離婚に係る者

［注］a 及び b は当該要件発生後、初めて参加するものに限る。

c　ふるさと選手制度を活用する者（別記１「国民体育大会ふるさと選手制度」による。）

［注］別記３「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」の適用を受け、ふるさと選手として参加する者を含む。

d　東日本大震災に係る参加資格特例措置を活用する者（別記５「東日本大震災に係る選手及び監督の国民体育大会参加資格の特例措置」による。）

(ｲ)　少年種別

a　「学校教育法」第１条に規定する学校を卒業した者

b　結婚又は離婚に係る者

c　一家転住に係る者（別記２「『一家転住等』に伴う特例措置」による。）

［注］a から c は当該要件発生後、初めて参加するものに限る。

d　JOC エリートアカデミーに在籍する者（別記３「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」による。）

e　東日本大震災に係る参加資格特例措置を活用する者（別記５「東日本大震災に係る選手及び監督の国民体育大会参加資格の特例措置」による。）

エ　選手と監督の兼任は、同一種別内に限る。

オ　選手及び監督は、回数を同じくする大会において、冬季大会及び本大会にそれぞれ１競技に限り参加できる。

カ　選手及び監督は、回数を同じくする大会において、異なる都道府県から参加することはできない。

キ　上記のほか、選手については次のとおりとする。

(ｱ)　都道府県大会及びブロック大会に参加し、これを通過した者であること。

(ｲ)　健康診断を受け、健康であることが証明された者であること。

(ｳ)　ドーピング検査対象に選定された場合は、検査を受けなければならない。

ク　上記のほか、監督については公益財団法人日本体育協会（以下「日本体育協会」という。）公認スポーツ指導者制度に基づく競技別指導者資格を有する者とし、各競技における対象資格については当該競技実施要項によるものとする。

(2)　所属都道府県

所属都道府県は、当該競技団体が限定する場合を除き、次のいずれかが属する都道府県から選択することができる。

ア　成年種別

(ｱ)　居住地を示す現住所

(ｲ)　勤務地

(ｳ)　ふるさと（別記１「国民体育大会ふるさと選手制度」による。）

［注］別記３「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」の適用を受け、ふるさと選手として参加する者を含む。

イ　少年種別

(ｱ)　居住地を示す現住所

(ｲ)　「学校教育法」第１条に規定する学校の所在地（以下「学校所在地」という。）

(ｳ)　勤務地

(ｴ) 別記３「JOCエリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」に定める小学校の所在地

※ 「居住地を示す現住所」、「勤務地」、「学校所在地」のいずれかから参加する場合は、平成28年4月30日以前から本大会終了時(平成28年10月11日)まで、引き続き当該地に、それぞれ居住、勤務、又は通学していなければならない。ただし、次の者はこの限りではない。

［成年種別］

a 別記４「トップアスリートの国民体育大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

b 別記５「東日本大震災に係る選手及び監督の国民体育大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

［少年種別］

a 一家転住に係る者

b 別記４「トップアスリートの国民体育大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

c 別記５「東日本大震災に係る選手及び監督の国民体育大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

(3) 選手の年齢基準

ア 選手の年齢基準については、下記を原則とする。

(ｱ) 成年種別に参加する者は、平成10年4月1日以前に生まれた者とする。

(ｲ) 少年種別に参加する者は、平成10年4月2日から平成13年4月1日までに生まれた者とする。

(ｳ) 年齢を区分している種別へ参加する者の年齢計算は、平成28年4月1日を基準とする。

イ 日本体育協会が特に認める場合は、上記アにかかわらず、競技ごとに年齢区分を設定することができる。ただし、年齢の下限は中学３年生（平成13年4月2日から平成14年4月1日までに生まれた者）とする。

(4) 前記の各事項に疑義のあるときは、日本体育協会及び当該競技団体が調査・審議のうえ、日本体育協会がその可否を決定する。

別記１【国民体育大会ふるさと選手制度】

(1) 成年種別年齢域の選手は、国民体育大会開催基準要項細則第３項〔国民体育大会開催基準要項第８項第１号及び第10項第４号（参加資格及び年齢基準等）〕に基づき、下記のいずれかを拠点とした都道府県から参加することができる。

ア 居住地を示す現住所

イ 勤務地

ウ ふるさと

(2) 「ふるさと」とは、卒業中学校又は卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県とする。

ただし、JOCエリートアカデミーに係る選手については、別記３「JOCエリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」第３項により取り扱うものとする。

(3) 我が国の競技力向上を支援する観点より、日本国籍を有する者及び「永住者」については、日本における滞在期間に関わらず、本制度を活用できるものとする。

(4)　「ふるさと選手制度」を活用し参加を希望する選手は、予め所定の方法により「ふるさと」を登録しなければならない。

なお、一度登録した「ふるさと」は変更できないものとする。

(5)　「ふるさと」から参加する選手は、国民体育大会開催基準要項細則第３項－（１）－１）－③（国内移動選手の制限）に抵触しないものとする。

(6)　ふるさと選手制度の活用については、原則として、１回につき２年以上連続とし、利用できる回数は２回までとする。

(7)　参加都道府県は「ふるさと選手」を別に定める様式により、当該大会実施要項で定めた参加申込締切期日までに、日本体育協会宛に提出する。

別記２【「一家転住等」に伴う特例措置】

転校への特例

１　以下の内容をすべて満たすことにより、国内移動選手の制限（国民体育大会開催基準要項細則第３項－（１）－１）－③）（国内移動選手の制限）に抵触しないものとする。

(1)　この特例の対象は、少年種別年齢域への参加者に限る。

(2)　本特例を受けることができるのは、一家転住等やむを得ない理由に限ることとする。

なお「一家転住等」とは概ね次のことを言う。

ア　親の転勤による一家の転居

イ　親の結婚、離婚による一家の転居

ウ　上記以外に、やむを得ない理由による一家の転居

(3)　転居した時点に応じて、以下の手続きを終了していること。

ア　本特例を受けようとする参加者は、下記２(1)の場合は転居元、下記２(2)の場合は転居先が属する都道府県体育（スポーツ）協会（以下「都道府県体育協会」という。）及び都道府県競技団体に対し、その旨報告すること。

イ　報告を受けた都道府県体育協会及び都道府県競技団体は、下記２(1)の場合は転居先、下記２(2)の場合は転居元が属する都道府県体育協会及び都道府県競技団体に対し、その旨報告し了承を得ること。

２　本特例を受ける当該大会において、参加することができる都道府県は以下のとおりとする。

(1)　転居した時点において、以下に該当する場合は転居元が属する都道府県から参加することができる。

ア　転居先が属する都道府県の代表が既に決定している場合

イ　当該参加者が、転居元が属する都道府県の代表として既に決定している場合

ウ　当該参加者が、転居元が属する都道府県の代表選考過程にある場合

(2)　転居した時点において、以下に該当する場合は転居先が属する都道府県から参加することができる。

ア　転居元が属する都道府県において、当該大会における都道府県代表の選考が開始されていない場合

別記３【JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置】

公益財団法人日本オリンピック委員会が実施する「JOC エリートアカデミー」に係る選手のうち、次の(1)に該当する者については、国民体育大会開催基準要項細則第３項〔国民体育大会

開催基準要項第８項第１号及び第10項第４号（参加資格及び年齢基準等）〕及び別記１「国民体育大会ふるさと選手制度」に関し、次の(2)～(4)の特例を適用する。

(1)　対象者

ア　少年種別年齢域の選手でJOCエリートアカデミーに在籍する者

イ　成年種別年齢域の選手でJOCエリートアカデミーを修了した者、または同アカデミーに在籍する者

(2)　少年種別年齢域の選手の所属都道府県

(1)アに定める少年種別年齢域の選手は、その所属都道府県について、「居住地を示す現住所」、「学校所在地」、「勤務地」のほか、卒業小学校の所在地が属する都道府県を選択することができる。

なお、同アカデミーへの入校時において小学生であった場合には、入校する直前まで通学していた小学校の所在地が属する都道府県を選択することができる。

(3)　成年種別年齢域の選手の「ふるさと」

(1)イに定める成年種別年齢域の選手は、別記１「国民体育大会ふるさと選手制度」(2)に定める卒業中学校又は卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県のほか、卒業小学校の所在地が属する都道府県を「ふるさと」とすることができる。

なお、同アカデミーでの入校時において小学生であった場合には、入校する直前まで通学していた小学校の所在地が属する都道府県を「ふるさと」とすることができる。

(4)　国内移動選手の制限に係る例外適用

(1)アに定める少年種別年齢域の選手が前回の大会（都道府県大会を含む）と異なる都道府県から参加する場合、国民体育大会開催基準要項細則第３項－（１）－１）－③（国内移動選手の制限）に抵触しないものとする。

［注］(1)イに定める成年種別年齢域の選手については、国民体育大会開催基準要項細則第３項－（１）－１）－③（国内移動選手の制限）の規定に従い取り扱うものとする。

別記４【トップアスリートの国民体育大会参加資格の特例措置】

我が国の競技力向上を支援する観点より、一定の競技力を有する選手に対して、「トップアスリートの国民体育大会参加資格の特例措置（以下「本特例」という。）」を下記のとおり定める。

１　特例の対象となる選手

本特例の対象となる選手は、下記の条件のいずれかを満たす者とする。

(1)　第30回オリンピック競技大会（2012年・ロンドン）に参加した者

(2)　平成28年４月30日時点で、下記のいずれかに該当し、各中央競技団体が本特例の対象として認めた者

ア　JOCアスリートプログラム強化指定選手

イ　各競技（種目）における国内ランキング上位10位以内の者

ウ　中央競技団体が定めた強化指定選手

※　強化指定ランクについては、各競技における全日本選手権大会入賞レベル以上のカテゴリーを対象とする。

２　特例の内容

(1)　予選会の免除

本特例の対象となる選手については、都道府県予選会及びブロック大会を経ずに国民体

育大会本大会に参加することができるものとする。ただし、ブロック大会実施競技種目・種別においては、当該都道府県代表選手又はチームがブロック大会に参加し、本大会参加枠を獲得している場合とする。

(2) 資格要件（日数要件の緩和）

本特例の対象となる選手が所属都道府県として「居住地を示す現住所」又は「勤務地」を選択する場合は、日数に関する要件を定めないこととし、以下のとおりとする。

ア 居住地を示す現住所

次の要件をいずれも満たすものとする。

(ア) 平成28年4月30日以前から大会終了時（平成28年10月11日）まで引き続き、住民票記載の住所に存する都道府県において生活している実態があり、当該都道府県以外（海外を含む）において生活している実態がないこと。

なお、生活の実態については、下記要件により判断する。

a 自ら所有する住居、又は自らの名義で住居を賃借していること

b 当該住居に生計を一にする家族と共に住んでいること

c 当該住居の水道光熱費など費用を自ら負担していること

d 当該住居に主要な家財道具が存すること

(イ) 合宿、試合等により当該都道府県外で活動を行う場合、当該都道府県を移動の起点としていること。

イ 勤務地

次の要件をいずれも満たすものとする。

(ア) 平成28年4月30日以前から大会終了時（平成28年10月11日）まで引き続き、雇用主と雇用契約を締結した上で、当該都道府県内に存する雇用主の会社や事業所等に現実に通勤し、勤務していること。

(イ) 当該都道府県内で、競技普及活動等の事業に参加すること。

3 国内移動選手の制限

本特例の対象となる選手の国内移動選手の制限については、国民体育大会開催基準要項細則第3項－（1）－1）－③のとおりとする。

別記5【東日本大震災に係る選手及び監督の国民体育大会参加資格の特例措置】

1 特例の対象となる被災地域都道府県

震災による被害状況及び影響等を総合的に勘案し、青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県の6県を本特例の適用対象となる被災地域都道府県（以下「特例対象県」という。）とする。

なお、特例対象県以外の都道府県において対応が必要となった場合は、個別に取り扱うこととする。

2 特例の内容

(1) 特例対象県を所属都道府県とする場合の要件緩和

ア 以下の選手及び監督は、「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」の各要件を満たしていなくとも、当該特例対象県から参加することができる。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県における「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」の各要件を満たすこ

とができなくなった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

(ｱ) 平成 23 年 3 月 11 日（震災発生時）時点において、当該特例対象県内に居住又は勤務していた者。もしくは当該特例対象県内の学校教育法第 1 条に規定する学校に在籍していた者であること。

(ｲ) 災害が発生しなかったと仮定した場合、平成 28 年 4 月 30 日以前から各競技会終了時まで継続して当該特例対象県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする要件を満たしていたと合理的に推測される者であること。

(2) 避難等による移動先の都道府県を所属都道府県とする場合の要件緩和

ア 被災地域からの避難等により、当該特例対象県と異なる都道府県に移動した以下の選手及び監督については、移動先の都道府県から参加することができる。

なお、この場合、第 69 回及び第 70 回大会に当該特例対象県から参加していても、国民体育大会開催基準要項細則第３項－（１）－１）－③（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県から移動せざるを得なかった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

(ｱ) 平成 23 年 3 月 11 日時点において、当該特例対象県内に居住又は勤務していた者。もしくは当該特例対象県内の「学校教育法」第 1 条に規定する学校に在籍していた者であること。

(ｲ) 移動先の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする要件を満たしていること。

なお、移動が生じた時期が平成 28 年 4 月 30 日以降の場合は、移動先の都道府県の予選会開始までに要件を満たしていることとする。

［注］「居住地を示す現住所」及び「学校所在地」として参加を希望する者については、当該自治体への住所に関する届出又は学籍に係る要件を満たしていなくとも、それに準ずる公的な証明書類を提出でき、かつ移動先の都道府県に居住あるいは通学している実態を有していると日本体育協会が認めた場合、移動先の都道府県から出場することができる。

イ 本項アを適用して避難等による移動先の都道府県から第 71 回大会に参加した者が、第 72 回大会において、以下のような震災にかかる理由により再度都道府県を移動して参加する場合は、国民体育大会開催基準要項細則第３項－（１）－１）－③（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

＜例＞ ○ 避難先を離れ、当該特例対象県に戻る場合

○ 避難先を離れ、他の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする場合

○ 他の都道府県に避難先を移す場合

(3) 避難等による移動先の属する都道府県において学校を卒業した場合の「ふるさと」選択要件の緩和

避難等による移動先の属する都道府県において中学校または高等学校を卒業した者が、

成年種別年齢域に達した際、「国民体育大会ふるさと選手制度」を活用して参加する場合、以下のいずれかを「ふるさと」として登録することができる。

① 卒業中学校または卒業高等学校の所在地

② 災害の発生した時点で在籍していた中学校または高等学校の所在地

なお、本特例を適用して上記②の学校所在地を「ふるさと」登録した場合についても、卒業中学校または卒業高等学校の所在地を「ふるさと」とする場合と同様、一度登録した「ふるさと」は変更できない。

【特例の対象者】

平成 23～24 年度に、避難等による移動先の属する都道府県において中学校または高等学校を卒業した者。

6 各正式競技の総合成績決定方法

各正式競技の総合成績決定方法は次のとおりとする。

(1) 次のア、イの得点を合計したものを男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）とする。

ア 競技得点

競技得点は、各種別、種目などの第１位から第８位までの都道府県に与え、次のとおりとする。ただし、同順位の場合は、次の順位のものを加え、当該都道府県で等分し、割り切れない場合は、小数第３位以下を切り捨てる。

		１位	２位	３位	４位	５位	６位	７位	８位
種別	４人以下	24 点	21 点	18 点	15 点	12 点	９点	６点	３点
	５人以上７人以下	40 点	35 点	30 点	25 点	20 点	15 点	10 点	５点
	８人以上	64 点	56 点	48 点	40 点	32 点	24 点	16 点	８点
種目	――――――	８点	７点	６点	５点	４点	３点	２点	１点

〔注〕「種別」：種別などに与える競技得点　　「種目」：種目などに与える競技得点

イ 参加得点

参加得点は 10 点とし、大会（ブロック大会を含む。）に参加した都道府県に与える。

ただし、ブロック大会で本大会の出場権を獲得しながら、本大会に参加しなかった場合は与えない。

(2) 各競技の総合成績は、当該競技団体が決定する。

ただし、天候その他の事情により一部競技が中止になった場合は、当該競技団体と大会総務委員会が協議する。

(3) 参加資格違反等に関わる得点等の取り扱いについては、「国民体育大会における違反に対する処分に関する規程」によるものとする。

7 表　彰

(1) 冬季大会及び本大会で実施した全正式競技の男女総合成績第１位の都道府県に天皇杯を、同じく女子総合成績第１位の都道府県に皇后杯をそれぞれ授与する。

(2) 冬季大会及び本大会で実施した全正式競技の男女総合成績及び女子総合成績の第１位から第８位までの都道府県に、それぞれ表彰状を授与する。

(3)　各正式競技の男女総合成績第１位の都道府県に、国民体育大会会長トロフィーを授与する。

(4)　各正式競技の男女総合成績及び女子総合成績の第１位から第８位までの都道府県に、それぞれ表彰状を授与する。

(5)　各競技の各種別及び各種目などの第１位から第８位までに賞状を授与する。団体競技の場合は、その都道府県名とチーム全員（監督を含む。）の氏名を記載したものを都道府県用に１枚、更にその都道府県名と個人名を記載したもの、又は都道府県名とチーム全員（監督を含む。）の氏名を記載したものをチーム全員に授与する。

8　参加申込方法

(1)　都道府県の体育協会会長（代表者）及び各競技団体会長（代表者）は、連署の上、都道府県大会又はブロック大会において選抜された者及び公益財団法人日本高等学校野球連盟が選出したチームを、大会会長宛に申込むものとする。

(2)　参加申込は、定められた締切日までに国民体育大会参加申込システムにより行う。

(3)　参加申込締切日

締　切　日	競　　技
①　平成 28 年 8 月 17 日（水）	水泳、セーリング、自転車、相撲、カヌー、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン
②　平成 28 年 9 月 1 日（木）	陸上競技、サッカー、テニス、ボート、ホッケー、ボクシング、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、ウエイトリフティング、ハンドボール、ソフトテニス、卓球、軟式野球、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、山岳、アーチェリー、空手道、クレー射撃、なぎなた、高等学校野球

(4)　参加申込様式は、日本体育協会が実施競技団体と協議の上、作成する。

(5)　参加申込締切後の選手の交代は、特別な事情がない限り認めない。特別な事情で選手を交代する場合は、次のア～ウ宛に所定の様式にて届け出なければならない。

ア　全国を統轄する各中央競技団体事務局

イ　希望郷いわて国体・希望郷いわて大会実行委員会事務局

ウ　希望郷いわて国体各競技会場地市町村実行委員会事務局

なお、日本体育協会に対しては、大会終了後、所定の手続きにより参加申込情報を修正すること。

9　棄権手続

参加申込締切後から競技初戦までの間において、特別な事情で選手が競技会を棄権する場合には、所定の棄権手続きをとらなければならない。

なお、棄権手続きに係る届出については選手交代届と同じ様式を用いること。

10　大会参加負担金

(1)　本大会に選手団（視察員を除く。）を派遣する都道府県体育協会は、一人当たり次のとおり参加負担金を納入する。

区　　分	負　担　金
少年の種別に参加する選手	１，５００円
上記以外の者（本部役員、監督、成年の種別に参加する選手等）	２，０００円

(2)　大会参加負担金は、各都道府県体育協会で取りまとめ、次のとおり納入する。

ア　納入期限

平成 28 年 9 月 1 日（木）

イ　納入先

みずほ銀行　渋谷支店　普通預金口座　513729

公益財団法人日本体育協会

11　宿泊申込

大会参加者は、希望郷いわて国体・希望郷いわて大会実行委員会が指定した所定の様式により、定められた締切日までに申込む。

12　都道府県選手団本部役員編成及び視察員

(1)　都道府県選手団本部役員は、次のとおりとする。

ア　参加選手 500 名以上の場合は、団長、総監督及び総務ほか、計 20 名以内とする。

イ　参加選手 300 名以上 500 名未満の場合は、団長、総監督及び総務ほか、計 15 名以内とする。

ウ　参加選手 300 名未満の場合は、団長、総監督及び総務ほか、計 10 名以内とする。

(2)　上記役員のほか、５名以内の顧問を設けることができる。

(3)　上記(1)及び(2)による本部役員総数の範囲内で、スポーツドクターを帯同するものとする。なお、帯同するスポーツドクターは日体協公認スポーツドクター資格を有する者とする。

(4)　上記(1)及び(2)による本部役員総数の範囲内で、アスレティックトレーナーを帯同できる。なお、帯同できるアスレティックトレーナーは日体協公認アスレティックトレーナー資格を有する者とする。

(5)　都道府県選手団本部役員の１日あたりの編成人数については、上記(1)及び(2)による人数を上限とする。

(6)　視察員は、１都道府県３名以内とする。ただし、平成 29 年以降の国民体育大会の開催が決定又は内定している県については、愛媛県 100 名以内、福井県及び茨城県 60 名以内、鹿児島県及び三重県 40 名以内とする。

(7)　都道府県選手団本部役員及び視察員の参加申込は、平成 28 年 9 月 1 日（木）までに国民体育大会参加申込システムにより行う。

13　大会参加章、大会参加記念章及び視察員章の交付

大会参加章、大会参加記念章及び視察員章は、次の者に交付する。

(1)　大会参加章

都道府県選手団本部役員、監督及び選手並びに大会役員、競技会役員及び競技役員

(2)　大会参加記念章

公開競技・デモンストレーションスポーツ参加者

※　公開競技参加者への交付は、中央競技団体との協議による。

(3)　視察員章

視察員

14　参加上の注意

(1)　大会期間中は、交付された大会参加章、大会参加記念章又は視察員章を携帯しなければならない。

(2)　各都道府県の代表選手は、競技に際し、所属都道府県を明示したユニフォームを着用しなければならない。

15　個人情報及び肖像権に関わる取り扱い

日本体育協会、希望郷いわて国体・希望郷いわて大会実行委員会、希望郷いわて国体各競技会場地市町村実行委員会及び国民体育大会実施競技中央競技団体（以下「国体関係機関・団体」という。）は、参加申込等を通じて取得する個人情報及び肖像権の取り扱いに関して以下のとおり対応するものとする。

(1)　個人情報の取り扱い

ア　利用目的

大会参加申込として国民体育大会参加申込システムへ登録された個人情報は、国体関係機関・団体において、参加資格の確認や競技組合せなどをはじめとする大会運営業務のために利用し、目的以外に利用しない。

イ　公表の範囲と方法

個人情報のうち、所属都道府県、氏名、性別、年齢、学校名、チーム名等、所属と個人を識別するために必要な情報については、以下の方法等により公表することがある。

(ｱ)　総合プログラム及び競技別プログラムへの掲載

(ｲ)　競技会場内におけるアナウンス等による紹介

(ｳ)　競技会場内外の掲示板等への掲載

(ｴ)　大会関連ホームページへの掲載

ウ　競技結果（記録）等

競技結果（記録）については、上記イで定めた個人情報とともに、以下の方法等により公表することがある。

(ｱ)　希望郷いわて国体・希望郷いわて大会実行委員会が設置する記録本部を通じた公開

(ｲ)　国体関係機関・団体及び報道機関等による新聞・雑誌及び関連ホームページ等への掲載

(ｳ)　国体関係機関・団体が作成する大会報告書等への掲載

(ｴ)　次回以降の大会プログラムへの掲載【新記録、優勝及び上位入賞結果（記録）等】

(2)　肖像権に関する取り扱い

ア　写真

国体関係機関・団体又はこれらに認められた報道機関等によって撮影された写真が、新聞・雑誌・報告書及び関連ホームページ等で公開されることがある。

イ　写真（写真撮影企業等）

国体関係機関・団体に認められた写真撮影企業等によって撮影された写真等が販売されることがある。なお、各競技・会場における販売の有無等の詳細は、当該中央競技団体を中心に対応する。

ウ　映像

国体関係機関・団体又はこれらに認められた報道機関等によって撮影された映像が、中継・録画放映及びインターネットによって配信されることがある。また、DVD 等に編集され、販売・配付されることがある。なお、各競技における販売の有無等の詳細は、当該中央競技団体を中心に対応する。

(3)　対応

ア　承諾の確認

大会参加申込として国民体育大会参加申込システムへ登録された時点で、上記取り扱いに関する承諾を得たものとして対応する。

なお、各競技会における取り扱いに伴い、別途、当該中央競技団体等によって個別に承諾を確認することがある。

イ　役員等

大会役員、競技役員、運営役員、その他各種委員や補助員、国体関係機関・団体と大会に関する契約をしている者及び大会運営関係者については、上記取り扱いに関する承諾を得たものとして対応する。

16　都道府県大会及びブロック大会

正式競技については、本大会の予選として次のとおり都道府県大会（ブロック大会）を開催しなければならない。

(1)　都道府県の主催団体は、必要に応じて日本体育協会及び中央競技団体等関係団体と協議の上、本要項に基づき実施要項を作成する。

なお、日本体育協会及び中央競技団体は、その内容に不備がある場合、適宜指導を行うものとする。

(2)　都道府県大会の実施にあたり、当該都道府県主催団体は、適正な手続きに則り決定した代表選手の選抜方法・選考基準について、予め関係者に周知徹底を図るものとする。

(3)　参加者は、実施要項に基づき当該主催団体に申込む。なお、参加は１人１競技に限る。

(4)　ブロック大会の申込みは、原則として国民体育大会参加申込システムにより行い、様式は日本体育協会及び当該主催団体が協議の上、作成する。

なお、参加申込システムを使用しない場合の様式については、当該主催団体において別途作成する。

(5)　都道府県大会の参加申込様式は、当該主催団体において作成する。

(6)　参加料を徴収する場合の金額は、当該主催団体が中央競技団体と協議の上、定める。

(7)　競技運営に差し支えない限り、岩手県選手は当該競技ブロック大会を経ることなく本大会に参加することができる。

17　国民体育大会参加者傷害補償制度

日本体育協会及び都道府県体育協会は、国民体育大会参加者に対する社会的責任体制を整えるとともに、大会参加者の相互扶助の精神に基づいた補償制度として大会参加者による国民体

育大会参加者傷害補償制度を運営する。

(1)　本制度の対象となる参加者は、ブロック大会及び本大会に参加する本制度給付規定に定められた選手、監督、選手団本部役員(顧問を含む)、視察員並びにその他選手団役員とする。

(2)　大会参加の都道府県体育協会は、国民体育大会参加者傷害補償制度の対象となる参加者数に応じた制度負担金（一人あたり 1,000 円）を、日本体育協会に納入する。

(3)　納入締切日及び納入先については別途日本体育協会から都道府県体育協会へ通知する。

18　文化プログラム（省略）

19　公開競技

公開競技は、次表のとおりとし、実施については、「国民体育大会公開競技実施基準」に基づく実施要項による。

公　開　競　技	会 場 地
綱引	花巻市
ゲートボール	花巻市
パワーリフティング	平泉町
グラウンド・ゴルフ	大船渡市

20　デモンストレーションスポーツ

デモンストレーションスポーツは、次表のとおりとし、実施については、「国民体育大会デモンストレーションスポーツ実施基準」に基づく実施要項による。

デモンストレーションスポーツ		会　場　地
ビリヤード		盛岡市
武術太極拳		盛岡市
シーカヤックマラソン		宮古市
ウォーキング		大船渡市
マラソン		大船渡市
リレーション３		花巻市
エアロビック		北上市
ヒルクライム		北上市
フライングディスク	ディスクゴルフ	北上市
	アルティメット	
ペタンク		北上市
スポーツ吹矢		一関市
バウンドテニス		一関市
ビーチバレー		陸前高田市
オリエンテーリング		八幡平市
ダンススポーツ		滝沢市
３Ｂ体操		雫石町
ネオホッケー		葛巻町
少年少女ホッケー		岩手町
スポーツチャンバラ		矢巾町
ラジオ体操		矢巾町
室内雪合戦		西和賀町
インディアカ		平泉町
クッブ		住田町
ソフトバレーボール		大槌町
マレットゴルフ		田野畑村
ウォークラリー		野田村
サーフィン		洋野町
パークゴルフ		洋野町
ターゲット・バードゴルフ		一戸町

※会場地数は９市、10町、２村

21　その他

(1)　参加申込及び宿泊申込が、定められた締切日までに行われない場合、又は、参加負担金が定められた納入期限までに納入されない場合は、本大会への参加を認めない。

(2)　その他の事項については、国民体育大会開催基準要項及び同細則による。

〔12〕セーリング競技

1　期　　日　　平成28年10月2日（日）から 10月5日（水）まで（4日間）

［ 計測　9月30日（金）・ 10月1日（土）、トライアルレース 10月1日（土）］

月　日	時　間	内　容
9月30日（金）	9:00～17:00	計　測（リアスハーバー宮古）
10月1日（土）	8:30～11:30	
	17:00～18:00	監督会議（リアスハーバー宮古）

月 日	スタート時 刻	A海面		スタート時 刻	B海面	
10月1日（土）	12:00	成年男子４７０級	トライアルレース	12:10	成年男子国体ウインドサーフィン級	トライアルレース
	12:10	少年男子４２０級	トライアルレース	12:20	成年女子国体ウインドサーフィン級	トライアルレース
	12:20	成年男子レーザー級	トライアルレース	13:10	成年女子レーザーラジアル級	トライアルレース
	13:00	成年女子セーリングスピリッツ級	トライアルレース	13:20	少年女子レーザーラジアル級	トライアルレース
	13:10	少年女子４２０級	トライアルレース	14:00	少年男子レーザーラジアル級	トライアルレース
10月2日（日）	9:30	成年男子４７０級	第１レース	9:40	成年男子国体ウインドサーフィン級	第１レース
	9:40	少年男子４２０級	第１レース	9:50	成年女子国体ウインドサーフィン級	第１レース
	9:50	成年男子レーザー級	第１レース	10:30	少年男子レーザーラジアル級	第１レース
	引続き	成年男子４７０級	第２レース	引続き	少年男子レーザーラジアル級	第２レース
		少年男子４２０級	第２レース			
		成年男子レーザー級	第２レース			
	13:00	成年女子セーリングスピリッツ級	第１レース	13:10	成年男子国体ウインドサーフィン級	第２レース
	13:10	少年女子４２０級	第１レース	13:20	成年女子国体ウインドサーフィン級	第２レース
				14:00	成年女子レーザーラジアル級	第１レース
				14:10	少年女子レーザーラジアル級	第１レース
	引続き	成年女子セーリングスピリッツ級	第２レース	引続き	成年女子レーザーラジアル級	第２レース
		少年女子４２０級	第２レース		少年女子レーザーラジアル級	第２レース
10月3日（月）	9:30	成年女子セーリングスピリッツ級	第３レース	9:40	成年男子国体ウインドサーフィン級	第３レース
	9:40	少年女子４２０級	第３レース	9:50	成年女子国体ウインドサーフィン級	第３レース
				10:30	成年女子レーザーラジアル級	第３レース
				10:40	少年女子レーザーラジアル級	第３レース
	引続き	成年女子セーリングスピリッツ級	第４レース	引続き	成年女子レーザーラジアル級	第４レース
		少年女子４２０級	第４レース		少年女子レーザーラジアル級	第４レース
	13:00	成年男子４７０級	第３レース	13:10	成年男子国体ウインドサーフィン級	第４レース
	13:10	少年男子４２０級	第３レース	13:20	成年女子国体ウインドサーフィン級	第４レース
	13:20	成年男子レーザー級	第３レース	14:00	少年男子レーザーラジアル級	第３レース
	引続き	成年男子４７０級	第４レース	引続き	少年男子レーザーラジアル級	第４レース
		少年男子４２０級	第４レース			
		成年男子レーザー級	第４レース			
10月4日（火）	9:30	成年男子４７０級	第５レース	9:40	成年男子国体ウインドサーフィン級	第５レース
	9:40	少年男子４２０級	第５レース	9:50	成年女子国体ウインドサーフィン級	第５レース
	9:50	成年男子レーザー級	第５レース	10:30	少年男子レーザーラジアル級	第５レース
	引続き	成年男子４７０級	第６レース	引続き	少年男子レーザーラジアル級	第６レース
		少年男子４２０級	第６レース			
		成年男子レーザー級	第６レース			
	13:00	成年女子セーリングスピリッツ級	第５レース	13:10	成年男子国体ウインドサーフィン級	第６レース
	13:10	少年女子４２０級	第５レース	13:20	成年女子国体ウインドサーフィン級	第６レース
				14:00	成年女子レーザーラジアル級	第５レース
				14:10	少年女子レーザーラジアル級	第５レース
10月5日（水）	9:30	成年女子セーリングスピリッツ級	第６レース	9:40	成年女子レーザーラジアル級	第６レース
	9:40	少年女子４２０級	第６レース	9:50	少年女子レーザーラジアル級	第６レース

(1)　各海面の引続き行うレースは、その前のレースの各種目終了後引続き行う。

(2)　天候等の事情により、競技日程及びレース海面は、レース委員会において変更することがある。

2　会　　場　　宮古市　リアスハーバー宮古

3　種別（種目）及び参加人員、参加規程

<table>
<tr><th>種　別</th><th>種　目</th><th>1艇当りの
乗員数</th><th>艇数</th><th>監督</th><th>選手</th><th>参加
都道府県</th><th>計
（人）</th></tr>
<tr><td rowspan="3">成年男子</td><td>４７０級</td><td>2</td><td>1</td><td rowspan="6">1</td><td>2</td><td rowspan="9">４７</td><td rowspan="9">７０３</td></tr>
<tr><td>レーザー級</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr>
<tr><td>国体ウインドサーフィン級</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr>
<tr><td rowspan="3">成年女子</td><td>セーリングスピリッツ級</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td></tr>
<tr><td>レーザーラジアル級</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr>
<tr><td>国体ウインドサーフィン級</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr>
<tr><td rowspan="2">少年男子</td><td>４２０級</td><td>2</td><td>1</td><td rowspan="4">1</td><td>2</td></tr>
<tr><td>レーザーラジアル級</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr>
<tr><td rowspan="2">少年女子</td><td>４２０級</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td></tr>
<tr><td>レーザーラジアル級</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr>
</table>

(1)　各都道府県セーリング連盟は、別途定める手続きにより公益財団法人日本セーリング連盟（以下「日本セーリング連盟」という。）へ予備エントリーを期限までに行わなければならない。

予備エントリーの参加人数が 703 名を超える場合は、日本セーリング連盟にて調整を行うとし、調整の結果を各都道府県セーリング連盟に通知する。

(2)　成年種別は選手が監督を兼任することができる。

(3)　各種目で使用する艇及びボードは選手の所有するもの、都道府県が所有するもの、またはチャーターしたもので、参加都道府県が持参するものとする。

会場に持ち込める各級の艇体数は、４７０級１、レーザー級１、国体ウインドサーフィン級２、セーリングスピリッツ級１、４２０級２、レーザーラジアル級３以内とする。なお、各種別（種目）の計測で受付した艇及びセール等は変更（乗り換え）することはできない。ただし、損傷等によりレース委員会が認めた場合を除く。

また、支援艇の持込みは参加都道府県毎に１艇とし、参加申込時に登録（記載）しなければならない。

(4)　個人用浮揚用具（ライフジャケット）

参加都道府県は、個人用浮揚用具（ライフジャケット）に関する規程に適合するものを持参する。

4　競技上の規程及び方法

(1)　2013-2016 セーリング競技規則（以下「規則」という。）に定義された規則を適用する。

なお、本実施要項は、規則におけるレース公示に該当するものである。

各クラス規則のセール番号及び艇体番号の同一性に関する条項並びに個人会員登録（艇及びセール登録は除く。）に関する条項は適用しない。

本大会は、公益財団法人日本体育協会の「国民体育大会企業協賛に関するガイドライン」（平成 22 年 12 月 16 日制定）に基づき、日本セーリング連盟の承認を得て一切の広告を制限

する。

(2)　本大会のプロテスト委員会は、規則91(a)による。

(3)　天候その他の事情により各種目６回のレースが実施できなかった場合でも、それぞれの種目でレースが１回以上完了していれば、その種目は成立とする。

(4)　本大会の上告の権利は、規則 70.5 及び日本セーリング連盟規程 4.3 に基づきプロテスト委員会の判決をもって最終とする。

(5)　セーリングスピリッツ級、国体ウインドサーフィン級、レーザー級及びレーザーラジアル級の艇を除き、各種目に使用する艇は、所定の計測証明書（艇体とセール番号が異なる場合は、それぞれの計測証明書）を持参するものとする。

４７０級及び４２０級のセールについては、基本計測を終了しクラス規則に適合していることを示す公式計測員のサインと計測を行った日付が記載されていること。

(6)　レースに使用する艇は、レース前に計測部が行う計測等の検査を受け、その承認を得たものに限られる。

各種目共、各レース終了後に任意に抜き取り、海上または陸上で計測を行うことがある。

(7)　計測を受けられるセールの数は、参加種目毎に１セットとし、４７０級１、レーザー級１、セーリングスピリッツ級１、４２０級２、レーザーラジアル級３ 以内とする。

(8)　国体ウインドサーフィン級は、１つのボードに２枚のセールの使用が許可され、マストの本数は制限しない。

(9)　計測時に艇は出来る限り乾燥した状態であること。

(10)　計測済みの艇及びボード等に、破損その他事故が生じたときは、レース委員会の承認により、改めて計測を受けたものに限り、使用を許されることがある。

(11)　レース艇の損傷等については、レース委員会の承認後、各都道府県の責任において対応する。

(12)　艇及びボードの計測後の改造は許されない。

(13)　各種目のセールには、クラスや国籍を示す記号、セール番号の他に県名と県番号を付けていなければならない。県名（片面･スターボード側）は、４７０級、セーリングスピリッツ級、４２０級は１字 450 ㎜×450 ㎜で太さ 40 ㎜、国体ウインドサーフィン級、レーザー級、レーザーラジアル級は１字 380 ㎜×380 ㎜ で太さ 32 ㎜ 、県番号（両面・スターボード側上位）は、１字 270 ㎜ ×150 ㎜ で太さ 40 ㎜とし、色は黒色でほぼ一定の太さのラインで書かれたものであること。

ただし、国体ウインドサーフィン級及びセーリングスピリッツ級（マイラーセール使用）のセールは、実行委員会が用意する白地のセールクロスの上に、県番号を貼付しなければならない。

または、県番号が表示してある場合はセールの裏面に白地のセールクロスを貼ってもよい。白地のセールクロスは受付時に配布する。

(14)　成年女子国体ウインドサーフィン級、成年女子レーザーラジアル級、少年女子４２０級は、開催地実行委員会が用意する赤色でひし形（一辺 150㎜ 以上）の識別マークを両面の同じ位置に表示しなければならない。赤色でひし形の識別マークは、受付時に配布する。

(15)　少年男子レーザーラジアル級は、開催地実行委員会が用意する青色でひし形（一辺 150㎜ 以上）の識別マークを両面の同じ位置に表示しなければならない。青色でひし形の識別マークは受付時に配布する。

(16)　選手は、乗艇する際に着用する上着（個人用浮揚用具:ライフジャケット、ハーネス、その

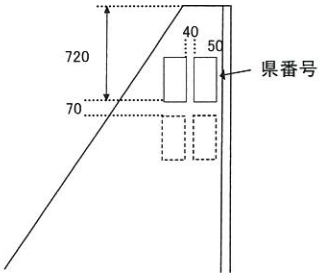
他の衣類等）には、その背面に地色と明確に識別できうる単色の文字で所属都道府県名をつけなければならない。文字は漢字とし、１文字の大きさは縦 100mm 以上、横 80mm 以上とする。

(17)　県名、県番号及び識別マークの表示位置

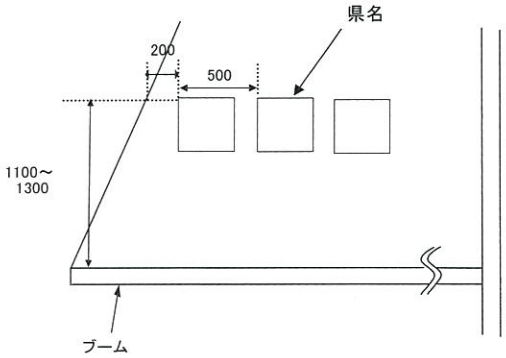
表示位置は、原則として次図による。ただし、クラスや国籍を示す記号及びセール番号と重ならないこと。

１桁の県番号の場合は、２桁県番号表示位置の中間に貼り付けること。また、多少の変更は許される。（単位：mm）

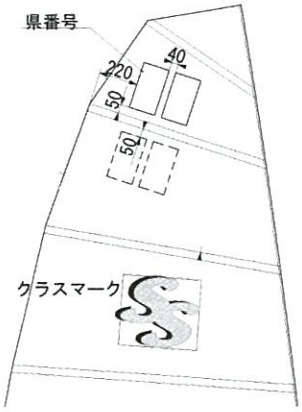
470級　県番号表示位置

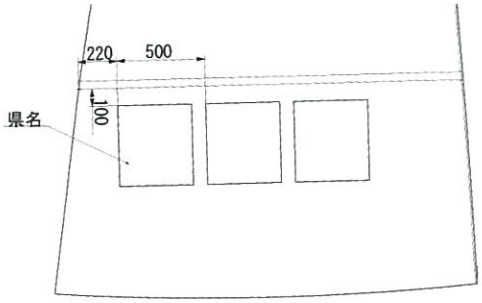


470級 ・ セーリングスピリッツ級ダクロンセール　県名表示位置

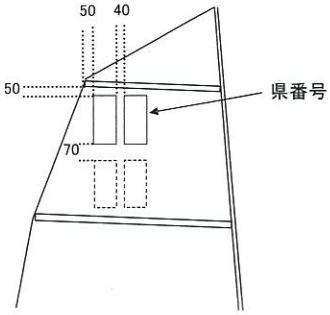


セーリングスピリッツ級マイラーセール　県番号・県名表示位置

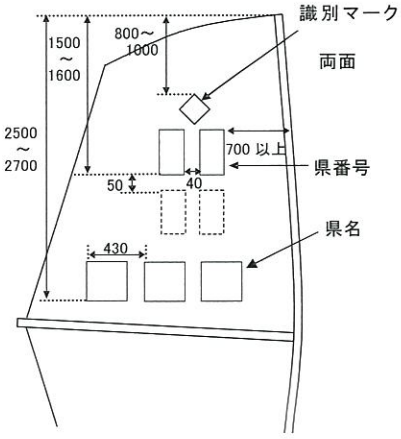




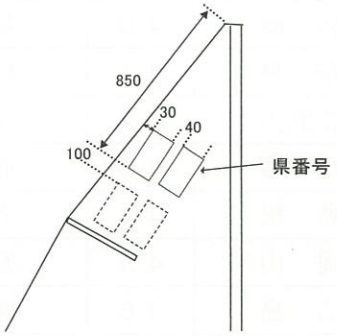
セーリングスピリッツ級ダクロンセール　県番号表示位置



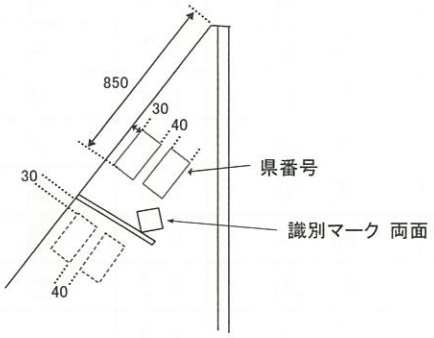
国体ウインドサーフィン級　県番号・県名表示位置



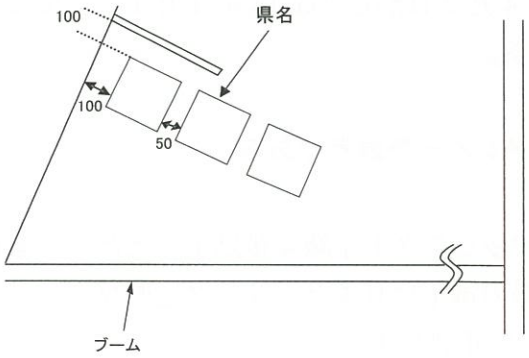
レーザー級　県番号表示位置



レーザーラジアル級　県番号表示位置



レーザー級・レーザーラジアル級　県名表示位置

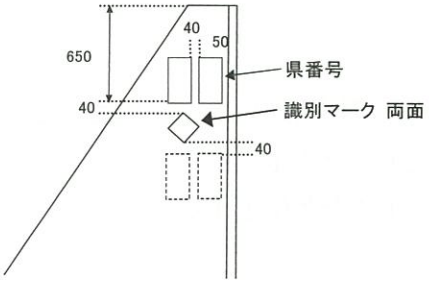


※レーザー級（成年男子）県名表示位置

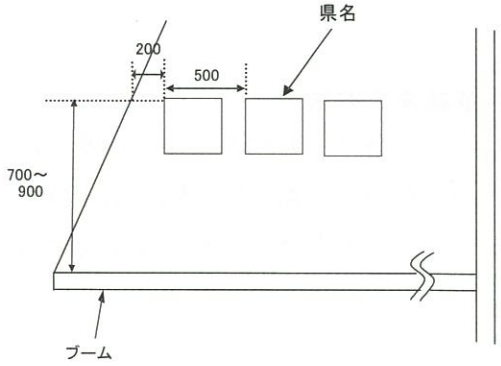
第３バテン下部に JPN が貼ってある場合は、セールナンバー（ポート側）下端と第３バテンの間に県名を貼ることができる。

（スターボード側に貼付け）

420級　県番号表示位置



420級　県名表示位置



(18)　各種目のセールに付ける県番号は、下記のとおりとする。

1	北海道	13	東　京	25	滋　賀	37	徳　島
2	青　森	14	神奈川	26	京　都	38	愛　媛
3	岩　手	15	山　梨	27	大　阪	39	高　知
4	宮　城	16	新　潟	28	兵　庫	40	福　岡
5	秋　田	17	長　野	29	奈　良	41	佐　賀
6	山　形	18	富　山	30	和歌山	42	長　崎
7	福　島	19	石　川	31	鳥　取	43	熊　本
8	茨　城	20	福　井	32	島　根	44	大　分
9	栃　木	21	静　岡	33	岡　山	45	宮　崎
10	群　馬	22	愛　知	34	広　島	46	鹿児島
11	埼　玉	23	三　重	35	山　口	47	沖　縄
12	千　葉	24	岐　阜	36	香　川		

5　参加資格、所属都道府県及び選手の年齢の基準

(1)　総則５に定めるものとする。

なお、少年種別に参加できる選手には、平成 13 年 4 月 2 日から平成 14 年 4 月 1 日までに生まれた中学３年生を含むものとする。

(2)　同一人の参加は、１都道府県の１種目に限る。

(3)　監督、選手は日本セーリング連盟の有効な 2016 年メンバー登録者であること。

(4)　当該種別選手は、次の有資格者であること。

成年男子・成年女子　　日本セーリング連盟バッジテスト中級４級以上、ただし、国体ウインドサーフィン級の選手は日本セーリング連盟ウインドサーフィン・バッジテスト中級以上

少年男子・少年女子　　日本セーリング連盟バッジテスト初級５級以上

(5)　選手は、ISAF 資格規定 19.2.1 (a)、(b)の競技者の ISAF 資格規則に従うこと。

(6)　監督は、公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者資格制度に基づく公認セーリングコーチ、公認セーリング上級コーチまたは公認セーリング指導員、公認セーリング上級指導員のいずれかの資格を有する者とする。

6　総合成績決定方法

男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）は、競技得点と参加得点の合計とし、その得点の多い都道府県順に第１位から第８位までを決定する。

ただし、同点の場合は、その順位を共有し、次の順位を欠位とする。

(1)　競技得点

天皇杯対象種別	皇后杯対象種別	競　技　得　点
成　年　男　子 成　年　女　子 少　年　男　子 少　年　女　子	成　年　女　子 少　年　女　子	４７０級、セーリングスピリッツ級及び４２０級の各種目に１位 24 点、２位 21 点、３位 18 点、４位 15 点、５位 12 点、６位９点、７位６点、８位３点の競技得点を与える。 レーザー級、国体ウインドサーフィン級及びレーザーラジアル級の各種目に１位８点、２位７点、３位６点、４位５点、５位４点、６位３点、７位２点、８位１点の競技得点を与える。 ただし、同順位の場合は、その順位を共有し、次の順位を欠位とする。なお、得点は次の順位のものを加え、当該都道府県で等分する。

(2)　参加得点

大会に参加した都道府県に 10 点を与える。

(3)　各種目のレース得点方法と順位

規則付則Ａ４低得点方式を適用する。

各種目とも成立したレースが３レース以下の場合は、艇の得点は全レースの合計得点として順位を決定する。４レース以上成立した場合は、最も悪いレースの得点を除外したレースの得点合計として順位を決定する。

(4)　参加艇数

各種目の参加艇数は、平成 28 年 10 月 1 日（土）午後 3 時の時点における艇数を参加艇数とする。

7　表　　彰

(1)　男女総合成績及び女子総合成績第１位から第８位までの都道府県に、表彰状を授与する。

(2)　男女総合成績第１位の都道府県に、大会会長トロフィーを授与する。

(3)　各種目の第１位から第８位までに、賞状を授与する。

8　参加申込み方法

(1)　国民体育大会参加申込システムにより、必要項目を入力の上、所属都道府県体育協会を通じて、平成 28 年 8 月 17 日（水）までに申込手続きを完了すること。

(2)　締切期限以降は国民体育大会参加申込システムへのアクセスができなくなるため、締切期限を厳守すること。

(3)　下記の書類は、平成 28 年 8 月 10 日(水)までに送付すること。

申　込　先	必　要　書　類
公益財団法人日本セーリング連盟 〒150-8050 東京都渋谷区神南一丁目１番１号 岸記念体育会館内 TEL 03-3481-2357 FAX 03-3481-0414 E-mail:jimukyoku@jsaf.or.jp	参加資格証明書（所定のファイルに添付） 1. 監督・選手は 2016 年日本セーリング連盟メンバーズカードの写し 2. 監督は公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者登録証（裏面）の写し 3. 選手は日本セーリング連盟バッジテスト認定証の写し

(4)　参加申込締切後の選手の交代は、疾病、傷害等の特別な場合にのみ認めるものとし、１種目１名とする。

選手・監督の交代及び棄権については、所定の様式により下記の提出先に届けなければならない。

ア　提出期日　平成 28 年 10 月 1 日（土）　午後 3 時まで

イ　提 出 先

(ｱ)　公益財団法人日本セーリング連盟

〒150-8050　東京都渋谷区神南一丁目 1 番 1 号　岸記念体育会館内

TEL　03-3481-2357　FAX　03-3481-0414

(ｲ)　希望郷いわて国体・希望郷いわて大会実行委員会事務局

(岩手県国体・障がい者スポーツ大会局競技式典課競技担当)

〒020-0023 岩手県盛岡市内丸 11 番 1 号

TEL　019-629-6487　FAX　019-629-6284

(ｳ)　希望郷いわて国体宮古市実行委員会事務局

〒027-0038 岩手県宮古市小山田二丁目 1 番 1 号　宮古市民総合体育館内

TEL　0193-77-5117　FAX　0193-77-5118

なお、公益財団法人日本体育協会に対しては、大会終了後、別途所定の手続きにより参加申込情報を修正すること。

9　参加上の注意

(1)　参加艇の会場への搬入は、平成 28 年 9 月 27 日（火）午前 9 時から受入れる。

また、搬出は 10 月 5 日（水）に随時行う。

(2)　計測の順番は、平成 28 年 9 月 30 日（金）午前 8 時 30 分に計測会場において、各都道府県代表者により抽選し決定する。未到着分については、その後受付順とする。

計測の受付は、平成 28 年 9 月 30 日（金）午後 3 時までに終えなければならない。

(3)　9 月 30 日（金）以降は、計測が完了した艇に限り出艇することができる。

ただし、10 月 1 日（土）は、午前 8 時 30 分から午前 10 時 30 分までの間、出艇を認める。

10　そ の 他

(1)　帆走指示書は平成 28 年 7 月 31 日（日）までに「希望郷いわて国体宮古市実行委員会」のホームページに公開する。

帆走指示書についての質問は平成 28 年 8 月 31 日（水）までに文書で受け付ける。

質問の送り先は、日本セーリング連盟宛とする。質問についての回答は、大会会場の公式掲示板に掲示する。

(2)　開始式（大会会長トロフィー返還）は、次のとおり行う。

日　時　　平成 28 年 10 月 1 日（土）　午後 4 時 30 分

場　所　　リアスハーバー宮古

(3)　監督会議は、次のとおり行う。

日　時　　平成 28 年 10 月 1 日（土）　午後 5 時

場　所　　リアスハーバー宮古

(4)　表彰式

ア　種目別表彰式

（10月4日までに終了した種目）

日　時　　平成28年10月5日（水）　午前11時30分

場　所　　リアスハーバー宮古

（10月5日に終了した種目）

日　時　　平成28年10月5日（水）　午後2時30分

場　所　　リアスハーバー宮古

イ　総合表彰式

日　時　　平成28年10月5日（水）　午後3時

場　所　　リアスハーバー宮古

(5)　個人用浮揚用具（ライフジャケット）に関する規程

①　自分の体重を支えるに充分な浮力があること。

②　適当な工作方法及び材料で作られたものであること。

③　着用した状態でセーリング等を行うのに支障がなく、かつ誤った方法で着用されないように作られたものであること。

④　非常に見えやすい色のものであること。

⑤　通常の環境条件及び油または油性品により急激な強度劣化及び浮力変化のないものであること。

⑥　水中において、顔面を水面上で支持できるものであること。

⑦　浮力体の抜き取り等の改造を施したり、自作したものでないこと。

セーリング競技 帆走指示書

1　適用規則

1.1　2013-2016 セーリング競技規則（以下、「規則」という。）に定義された規則を適用する。

1.2　規則 P1 の「セール番号」を「県番号」に置き換え適用する。

1.3　国体ウインドサーフィン級について、付則 B を適用する。ただし、規則 B5 中の規則 61 の変更及び B8 は適用しない。

1.4　参加資格に係る違反およびドーピング防止規則に対する違反の得点等の取り扱いについては、第 71 回国民体育大会実施要項総則 6(3)「国民体育大会における違反に対する処分に関する規程」による。

2　広告

本大会は、公益財団法人日本体育協会の「国民体育大会企業協賛に関するガイドライン」（平成 22 年 12 月 16 日制定）に基づき、日本セーリング連盟の承認を得て一切の広告を制限する。

3　競技者への通告

競技者への通告は、陸上本部棟前に設置された公式掲示板に掲示する。

4　帆走指示書の変更

4.1　帆走指示書（以下、「指示」という。）の変更は、それが発効する当日の当該クラスの予告信号予定時刻の 60 分前までに掲示する。

4.2　レース海面の変更は、当該レースの「D旗」掲揚までに掲示する。

4.3　レース日程の変更は、それが発効する前日の 19 時 00 分までに掲示する。

5　陸上で発する信号

5.1　陸上で発する信号は、陸上本部棟２階に設置された信号柱に掲揚する。

5.2　音響１声とともに掲揚される「D旗」は、「予告信号は、D旗掲揚後 30 分以降に発する。」ことを意味する。艇は、この信号が発せられるまで、離岸してはならない。この指示は、10 月 1 日（土）10 時 30 分以降に適用される。

5.3　指示 6.1 に示された個別のレースに対して、「回答旗」は掲揚しない。予告信号予定時刻の 30 分前までに「D旗」が掲揚されない場合、そのレースのスタートは、時間の定めなく延期されている。

5.4　「Y旗」が陸上で掲揚された場合、水上にいる間は常に規則 40 を適用する。この項は、第 4 章前文を変更している。

6　レース日程

6.1　レースの日程は、以下のとおりとする。

月　日	予告信号 予定時刻	A海面		予告信号 予定時刻	B海面	
10月1日 (土)	11:55 12:05 12:15 12:55 13:05	成年男子４７０級 少年男子４２０級 成年男子レーザー級 成年女子セーリングスピリッツ級 少年女子４２０級	トライアルレース トライアルレース トライアルレース トライアルレース トライアルレース	12:05 12:15 13:05 13:15 13:55	成年男子国体ウインドサーフィン級 成年女子国体ウインドサーフィン級 成年女子レーザーラジアル級 少年女子レーザーラジアル級 少年男子レーザーラジアル級	トライアルレース トライアルレース トライアルレース トライアルレース トライアルレース
10月2日 (日)	9:25 9:35 9:45	成年男子４７０級 少年男子４２０級 成年男子レーザー級	第１レース 第１レース 第１レース	9:35 9:45 10:25	成年男子国体ウインドサーフィン級 成年女子国体ウインドサーフィン級 少年男子レーザーラジアル級	第１レース 第１レース 第１レース
	引続き	成年男子４７０級 少年男子４２０級 成年男子レーザー級	第２レース 第２レース 第２レース	引続き	少年男子レーザーラジアル級	第２レース
	12:55 13:05	成年女子セーリングスピリッツ級 少年女子４２０級	第１レース 第１レース	13:05 13:15 13:55 14:05	成年男子国体ウインドサーフィン級 成年女子国体ウインドサーフィン級 成年女子レーザーラジアル級 少年女子レーザーラジアル級	第２レース 第２レース 第１レース 第１レース
	引続き	成年女子セーリングスピリッツ級 少年女子４２０級	第２レース 第２レース	引続き	成年女子レーザーラジアル級 少年女子レーザーラジアル級	第２レース 第２レース
10月3日 (月)	9:25 9:35	成年女子セーリングスピリッツ級 少年女子４２０級	第３レース 第３レース	9:35 9:45 10:25 10:35	成年男子国体ウインドサーフィン級 成年女子国体ウインドサーフィン級 成年女子レーザーラジアル級 少年女子レーザーラジアル級	第３レース 第３レース 第３レース 第３レース
	引続き	成年女子セーリングスピリッツ級 少年女子４２０級	第４レース 第４レース	引続き	成年女子レーザーラジアル級 少年女子レーザーラジアル級	第４レース 第４レース
	12:55 13:05 13:15	成年男子４７０級 少年男子４２０級 成年男子レーザー級	第３レース 第３レース 第３レース	13:05 13:15 13:55	成年男子国体ウインドサーフィン級 成年女子国体ウインドサーフィン級 少年男子レーザーラジアル級	第４レース 第４レース 第３レース
	引続き	成年男子４７０級 少年男子４２０級 成年男子レーザー級	第４レース 第４レース 第４レース	引続き	少年男子レーザーラジアル級	第４レース
10月4日 (火)	9:25 9:35 9:45	成年男子４７０級 少年男子４２０級 成年男子レーザー級	第５レース 第５レース 第５レース	9:35 9:45 10:25	成年男子国体ウインドサーフィン級 成年女子国体ウインドサーフィン級 少年男子レーザーラジアル級	第５レース 第５レース 第５レース
	引続き	成年男子４７０級 少年男子４２０級 成年男子レーザー級	第６レース 第６レース 第６レース	引続き	少年男子レーザーラジアル級	第６レース
	12:55 13:05	成年女子セーリングスピリッツ級 少年女子４２０級	第５レース 第５レース	13:05 13:15 13:55 14:05	成年男子国体ウインドサーフィン級 成年女子国体ウインドサーフィン級 成年女子レーザーラジアル級 少年女子レーザーラジアル級	第６レース 第６レース 第５レース 第５レース
10月5日 (水)	9:25 9:35	成年女子セーリングスピリッツ級 少年女子４２０級	第６レース 第６レース	9:35 9:45	成年女子レーザーラジアル級 少年女子レーザーラジアル級	第６レース 第６レース

(1) 各海面の引き続き行うレースは、その前のレースの各種目終了後、引き続き行う。

(2) 天候等の事情により、競技日程およびレース海面は、レース委員会において変更することがある。

6.2　1つのレースまたは一連のレースが間もなく始まることを艇に注意を喚起するために、予告信号を発する最低5分以前に音響1声とともに「オレンジ色のスタート・ライン旗」を掲揚する。

6.3　10月5日（水）には、11時00分より後に予告信号を発しない。

7　クラス旗

クラス旗は、以下のとおりとする。

競　技　種　目	クラス旗	旗色
成年男子		
４７０級	４７０級　クラス旗	白地に青記章
レーザー級	レーザー級　クラス旗	白地に赤記章
国体ウインドサーフィン級	国体ウインドサーフィン級　クラス旗	白地に青記章
成年女子		
セーリングスピリッツ級	セーリングスピリッツ級　クラス旗	白地に黒記章
レーザーラジアル級	レーザーラジアル級　クラス旗	ピンク色に赤記章
国体ウインドサーフィン級	国体ウインドサーフィン級　クラス旗	ピンク色に青記章
少年男子		
国際４２０級	４２０級　クラス旗	白地に青記章
レーザーラジアル級	レーザーラジアル級　クラス旗	黄色地に赤記章
少年女子		
国際４２０級	４２０級　クラス旗	黄緑色に青記章
レーザーラジアル級	レーザーラジアル級　クラス旗	黄緑色に赤記章

8　レース海面

8.1　宮古市宮古湾の「添付資料１」に示す海面に、Ａ、Ｂの２海面を設定する。

8.2　「添付資料１」どおりのレース海面にならなくても、艇からの救済要求の根拠とはならない。この項は、規則 62.1(a)を変更している。

9　コース

9.1　「添付資料２」の見取り図は、レグ間の概ねの角度、通過するマークの順序、それぞれのマークをどちら側に見て通過するかを含むコースを示す。

9.2　予告信号以前に、レース委員会の信号艇に「艇の帆走すべきコース」および「最初のレグのおおよそのコンパス方位」を掲示する。

10　マーク

10.1　Ａ海面　マーク１、4s および 4p は、黄色の円柱形ブイとする。
　　マーク２、3s および 3p は、緑色の円柱形ブイとする。
　Ｂ海面　マーク１、4s および 4p はオレンジ色の三角錐形ブイとする。

10.2　スタート・マークは、スタート・ラインのスターボードの端となるレース委員会の信号艇とポートの端にあるレース委員会艇とする。

10.3　フィニッシュ・マークは、フィニッシュ・ラインの両端にあるレース委員会艇とする。

10.4　指示 13 に定める新しいマークは、Ａ海面ではピンク色の円柱形ブイ、Ｂ海面では赤色の三角錐形ブイを使用する。

11　スタート

11.1　スタート・ラインは、スタート・マーク上に「オレンジ色旗」を掲揚しているポールまたはマ

ストの間とする。

11.2　他のレースのスタート手順の間、予告信号が発せられていない艇は、スタート・ラインから概ね50m以内の範囲およびコースサイドから離れていなければならない。

11.3　スタート信号後４分より後にスタートする艇は、審問なしに「スタートしなかった（DNS）」と記録される。この項は、規則A4を変更している。

11.4　ゼネラル・リコールの際、艇に速やかに知らせるため、レース委員会の信号艇以外のレース委員会艇にも「第１代表旗」を掲揚する場合がある。ただし、レース委員会の信号艇以外の当該レース委員会艇が行う「第１代表旗」の掲揚・降下については、規則レース信号「予告信号は、降下の１分後に発する」の意味を持たないものとし、また音響の有無も無視されるものとする。この項は、規則レース信号および規則29.2を変更している。

11.5　「U旗」が準備信号として掲揚された場合には、スタート信号前の１分間に、艇体、乗員または装備の一部でも、スタート・ラインの両端と最初のマークとで作られる三角形の中にあってはならない。艇がこの規則に違反して特定された場合には、その艇は審問なしに失格とされる。ただし、レースが再スタートもしくは再レース、またはスタート信号前に延期もしくは中止された場合には、失格とはされない。これは規則 26 を変更している。この規則が適用される場合には、規則 29.1 は適用されない。これは規則 29.1 を変更している。「U旗」による失格の得点は、「UFD」と記録される。これは規則A11を変更している。

12　規則30.3適用に伴う掲示

規則30.3の「セール番号」を「県番号」に置き換える。

13　コースの次のレグの変更

コースの次のレグを変更するために、レース委員会は新しいマークを設置し（または、フィニッシュ・ラインを移動し）、実行できれば直ぐに「元のマーク」を除去する。その後の変更で新しいマークを置き換える場合、そのマークは「元のマーク」で置き換える。

14　フィニッシュ

フィニッシュ・ラインは、フィニッシュ・マーク上に「オレンジ色旗」を掲揚しているポールまたは、マストの間とする。

15　スタート後の短縮または中止

15.1　レース委員会は、規則 32.1 に基づくほか競技の公平性に影響を及ぼすと考えられる大幅な風向・風速の変化が発生した場合および指示 16 に定めるマーク 1 のタイム・リミット内に 1 艇もマーク 1 を通過できそうもない場合、レースを中止することができる。この項は、規則 62.1(a)を変更している。

15.2　スタート信号後にレースを中止する場合、艇に速やかに知らせるため、レース委員会の信号艇以外のレース委員会艇にも、「N旗」「H旗の上にN旗」あるいは「A旗の上にN旗」を掲揚することがある。ただし、レース委員会の信号艇以外の当該レース委員会艇が行う「N旗」の掲揚・降下については、規則レース信号「予告信号は、降下の１分後に発する」の意味は持たないものとし、また音響の有無も無視されるものとする。この項は、規則レース信号および 32.1 を変更している。

16　タイム・リミットとターゲット・タイム

16.1　タイム・リミットとフィニッシュ・ウィンド及びターゲット・タイムは、次のとおりとする。

クラス	ﾀｲﾑ・ﾘﾐｯﾄ	ﾏｰｸ１のﾀｲﾑ・ﾘﾐｯﾄ	ﾌｨﾆｯｼｭ・ｳｲﾝﾄﾞ	ﾀｰｹﾞｯﾄ・ﾀｲﾑ
４７０級	55 分	20 分	15 分	40 分
セーリングスピリッツ級	55 分	20 分	15 分	40 分
４２０級	55 分	20 分	15 分	40 分
レーザー級	55 分	20 分	15 分	40 分
レーザーラジアル級	55 分	20 分	15 分	40 分
国体ウインドサーフィン級	30 分	10 分	10 分	20 分

16.2　規則 30.3 および指示 11.5 に違反しないでスタートした先頭艇が、コースを帆走してフィニッシュから起算されるフィニッシュ・ウィンド内にフィニッシュしない艇は、審問なしに「フィニッシュしなかった（DNF）」と記録される。この項は、規則 35、A4 および A5 を変更している。

16.3　各クラスのターゲット・タイムどおりとならなくても、艇からの救済要求の根拠とはならない。この項は、規則 62.1(a)を変更している

17　抗議と救済要求

17.1　抗議および救済または審問再開の要求は、締切時間内に「プロテスト委員会事務局」に提出しなければならない。用紙は「プロテスト委員会事務局」で入手できる。

17.2　抗議締切時刻は掲示する。その日の当該クラスの抗議締切時刻は、その日の最終レースに最終艇がフィニッシュした後、またはレース委員会が「本日はこれ以上レースを行わない」という信号を発した後、どちらか遅い方から 60 分とする。ただし、プロテスト委員会の裁量により、この時刻を延長することがある。

17.3　プロテスト委員会は、ほぼ受付順に審問を行う。審問の当事者及び証人として指名された競技者に審問のことを知らせるため、抗議締切時刻後 30 分以内に通告を掲示する。

17.4　レース委員会またはプロテスト委員会による抗議の通告を、規則 61.1(b)に基づき伝えるために掲示する。

17.5　指示 1.2 に基づき、規則 42 違反に対するペナルティーを課せられた艇のリストは示される。

17.6　実施要項 4(13)～(18)、10(5)、指示 2、5.2、11.2、19、23 の違反は、艇による抗議の根拠とはならない。この項は、規則 60.1(a)を変更している。これらの違反に対するペナルティーは、プロテスト委員会が決めた場合には、失格より軽減することができる。

17.7　審問再開は、判決を通告された日の翌日の 9 時 00 分までの間に限り求めることができる。ただし、10 月 5 日（水）に判決を通告された場合には、判決を通告されてから 15 分以内とする。この項は、規則 66 を変更している。

17.8　10 月 5 日（水）のプロテスト委員会の判決に基づく救済要求は、判決の掲示から 15 分以内に提出されなければならない。これは、規則 62.2 を変更している。

17.9　日本セーリング連盟規定 4.3 に基づきプロテスト委員会の判決をもって最終とする。

18　得点

18.1　本大会は各クラスとも６レースが予定され、それぞれ１レースの完了をもって成立する。

18.2　艇の得点は、完了したレースが３レース以下の場合は全レースの合計得点とし、４レース以上成立した場合は、最も悪いレースの得点を除外したレース得点の合計とする。

18.3　指示 19 の申告に関する手続きに誤りのあった艇に対して、レース委員会は審問なしに「PTP」と記録し、確定順位＋３点の得点を与えることができる。ただし、その艇は「フィニッシュしなかった艇」より悪い得点が与えられることはない。この項は、規則 63.1、A4 および A5 を変更している。なお、引き続きのレースが行われた場合には、指示 19.3 の手続きの誤りについてはその直後のレースに、指示 19.4 の手続きの誤りについてはその直前のレースにペナルティーを課す。

18.4　参加艇数とは、実施要項 6(4)に示す艇数とする。なお、第 71 回国民体育大会実施要項総則 6(3)「国民体育大会における違反に対する処分に関する規程」による違反艇は、参加艇数から除外する。

18.5　掲示されたレースまたはシリーズの成績結果の中に誤りがあるとして訂正を要請する場合、艇は「レース委員会事務局」に用意されている「得点照会申請書」に所定の事項を記入の上、「レース委員会事務局」に提出し、訂正を要請しなければならない。

18.6　各種目とも、上記得点方法に従い順位を決定し、下記の種目別の競技得点を与える。

４７０級、セーリングスピリッツ級、４２０級

順位	競技得点	順位	競技得点	順位	競技得点	順位	競技得点
１位	24 点	２位	21 点	３位	18 点	４位	15 点
５位	12 点	６位	９点	７位	６点	８位	３点

レーザー級、レーザーラジアル級、国体ウインドサーフィン級

順位	競技得点	順位	競技得点	順位	競技得点	順位	競技得点
１位	８点	２位	７点	３位	６点	４位	５点
５位	４点	６位	３点	７位	２点	８位	１点

18.7　総合成績決定方法は、下記のとおりとする。

(1) 大会に参加した都道府県に参加得点 10 点を与える。

(2) 男女総合成績（天皇杯得点）および女子総合得点（皇后杯得点）は、指示 18.6 の種目別の競技得点と参加得点（10 点）を合計し、その合計得点が多い都道府県を上位とし第１位から第８位を決定する。ただし、同点の場合は順位を共有し、その次の順位を欠位とする。

18.8　参加資格違反およびドーピング規則違反が確定した艇は、順位を取り消され、違反艇より下位の艇の順位を繰り上げる。また参加艇数からも削除され、各レースの艇の順位および得点も変更する。

19　申告

19.1　出艇および帰着申告は、署名方式で行う。署名用紙は、「レース申告受付所」に用意される。

19.2　署名は艇の艇長が行わなければならないが、レース委員会が正当と認めた場合、その代理人でもよい。

19.3　出艇しようとする艇の艇長は、その日の８時 30 分から当該クラスの「D旗」掲揚 10 分後までに署名用紙に署名をしなければならない。引き続きレースが予定されている場合、上記受付時間内に引き続き予定されているレースの分も併せて申告しなければならない。出艇申告をした艇で、当日の出艇を取り消す艇の艇長は、上記時間内に「レース申告受付所」で出艇申告の取り消しをしなければならない。

19.4　帰着した艇の艇長は、帰着後直ちに署名用紙に署名しなければならない。署名用紙は当該種目

のレース終了後（引き続きのレースが行われた場合、そのレース終了後）、またはレース委員会が、「本日はこれ以上レースを行わない」という信号を発した後、どちらか遅い方から 60 分後までに署名用紙に署名をしなければならない。ただし、レース委員会の裁量により、この時間を延長することがある。

19.5　レースの中止または延期により帰着した場合も、帰着申告を行わなければならない。中止または延期されたレースが再開される場合、指示 19.3 に従い、再度出艇申告を行なわなければならない。

19.6　リタイアしようとする艇および引き続き行われるレースに出走しない艇は、リタイアの意思を近くのレース委員会艇に伝え、速やかにレース海面を離れなければならない。当該艇の艇長は、帰着後直ちに指示 19.4 の帰着申告を行ったうえ、「リタイア報告書」を「レース申告受付所」に提出しなければならない。

20　安全規定

20.1　レース委員会は、危険な状態にあると判断した艇に対し、リタイアの勧告および強制救助を行うことができる。この項は、艇による救済要求の根拠にはならない。この項は、規則 62.1(a)を変更している。

20.2　成年男子４７０級、少年男子４２０級、少年女子４２０級を除き、艇は自らの安全のために、マスト・トップに浮力体を取り付けることができる。

21　装備の交換と計測のチェック

21.1　損傷または紛失した装備の交換は、レース委員会の承認なしでは許可されない。装備の交換要請は、最初の妥当な機会に、「計測・競艇部」で入手できる用紙に記入の上、「計測・競艇部」に提出しなければならない。

21.2　艇、ボードまたは装備は、規則に従っていることを確認するため、いつでも検査されることがある。

22　運営艇

22.1　運営艇の識別旗は、以下のとおりとする。

運　営　艇	識　別　旗
競技委員会	白地に赤字「ＶＩＰ」
レース委員会	白地に赤字「ＲＣ」
プロテスト委員会	赤地に白字「ＰＲＯＴＥＳＴ」
救助艇	緑地に白字「ＲＥＳＣＵＥ」
報道艇	白地に緑文字「ＭＥＤＩＡ」
計測艇	白地に赤字「ＭＥＡＳＵＲＥＭＥＮＴ」

22.2　紛失等による運営艇の識別旗の非掲揚は、艇からの救済要求の根拠とはならない。これは規則 62.1(a)を変更している。

23　支援艇

23.1　支援艇は、「レース委員会事務局」で入手できる「支援艇許可申請書」に記入のうえ、9 月 30 日（金）の 9 時 00 分から 10 月 1 日（土）の 11 時 00 分までに「レース委員会事務局」に提出し

許可を受けることにより、9月30日（金）から10月5日（水）まで使用できる。

23.2　出艇から帰着するまでの間、都道府県名を両サイドに明示のうえ、「ピンク色旗」を明確に掲揚しなければならない。「ピンク色旗」はレース委員会で用意され、10 月 5 日（水）までに返却しなければならない。

23.3　大会期間中は、リアスハーバー宮古内の指定場所に設置（係留）しなければならない。

23.4　支援艇の出艇および帰着申告は、署名方式で行う。署名用紙は、「レース申告受付所」に用意される。支援艇の出艇申告は、8時30分から受け付ける。なお、指示4に規定するいずれのクラスの「D旗」が掲揚されていない場合、支援艇もこれに従うものとする。支援艇の帰着申告は、その日の最終レースの最終艇がフィニッシュした後、またはレース委員会が、「本日はこれ以上レースを行わない」という信号を発した後、どちらか遅い方から60分までとする。

23.5　艇および運営艇の運航を妨げてはならない。また最初にスタートするクラスの予告信号時刻からすべての艇がフィニッシュするか、もしくはリタイアするか、またはレース委員会が延期、ゼネラル・リコールもしくは中止の信号を発した後２分間までは、艇がレースをしているエリアの外側にいなければならない。

23.6　引き続きレースが行われる場合、支援艇は、艇がフィニッシュしてから次の予告信号が発せられるまでの間、艇がレースをしているエリアの外側で競技者への飲食物およびごみの授受支援を行うことができる。ただし、レース委員会からの要請に基づく場合を除き、その他の物品の授受や、艇の曳航等の支援行為を行ってはならない。

23.7　天候等の状況により、レース委員会から支援艇に対する救助要請を行う場合、レース委員会艇に「ピンク色旗」を掲揚する。この場合、指示23.5、23.4のなお書きおよび23.6のただし書き以下は適用されない。この救助要請はレースエリア毎に掲揚され、クラス旗の上に掲揚された場合は、そのクラスのみに当該信号が適用される。

23.8　指示 23 に違反するか、またはレース委員会艇の指示に従わない支援艇は、以後の出艇が許可されないほか、当該支援艇が関わるチームの艇は、レース委員会またはプロテスト委員会から抗議されることがある。

24　ごみの処分

ごみは、支援艇または運営艇に渡してもよい。

25　無線通信とトラッキングシステム

25.1　緊急の場合を除き、艇は無線送信も、すべての艇が利用できない無線通信の受信もしてはならない。この制限は、携帯電話およびGPSにも適用する。ただし、レース委員会が用意するトラッキングシステムは含まない。

25.2　レース委員会に指定されたクラスの艇は、レース委員会により準備されたトラッキングシステムの端末機器を指定された位置に搭載しなければならない。端末機器は午前に予定されているクラスは、指示 19.1 で行われる出艇申告時にレース申告受付所で受け取ることができる。午後に予定されているクラスはD旗掲揚予定時刻のおよそ 15 分前からレース申告受付所で受け取ることができる。端末機器は、帰着申告時に返却しなければならない。なお、クラスの指定は、毎朝7時30分までに公式掲示板に掲示する。

26　賞

26.1　男女総合成績および女子総合成績の第１位から第８位までの都道府県に賞状を授与する。

26.2　男女総合成績第１位の都道府県に大会会長トロフィーを授与する。

26.3　各種目の第１位から第８位までに賞状を授与する。

27　責任の否認

本大会は、競技者が自分自身の責任（規則 4「レースをすることの決定」参照。）において参加することが条件であることから、主催団体は大会前、大会期間中、大会後に生じた物的損傷または身体傷害もしくは死亡に対するいかなる責任も負わない。

28　規則違反によって生じた損害の補償

主催団体は、規則等に違反した艇の乗員に対して、その規則違反によって生じたすべての損害の補償を命じることができる。その損害の補償に関しては、競技委員会の査定に従うものとする。

29　帆走指示書に関する質問

29.1　帆走指示書に関する質問は、8 月 31 日（水）までに文書で受け付ける。

29.2　質問の送り先は、次のとおりとし、質問についての回答は大会会場の公式掲示板に掲示する。

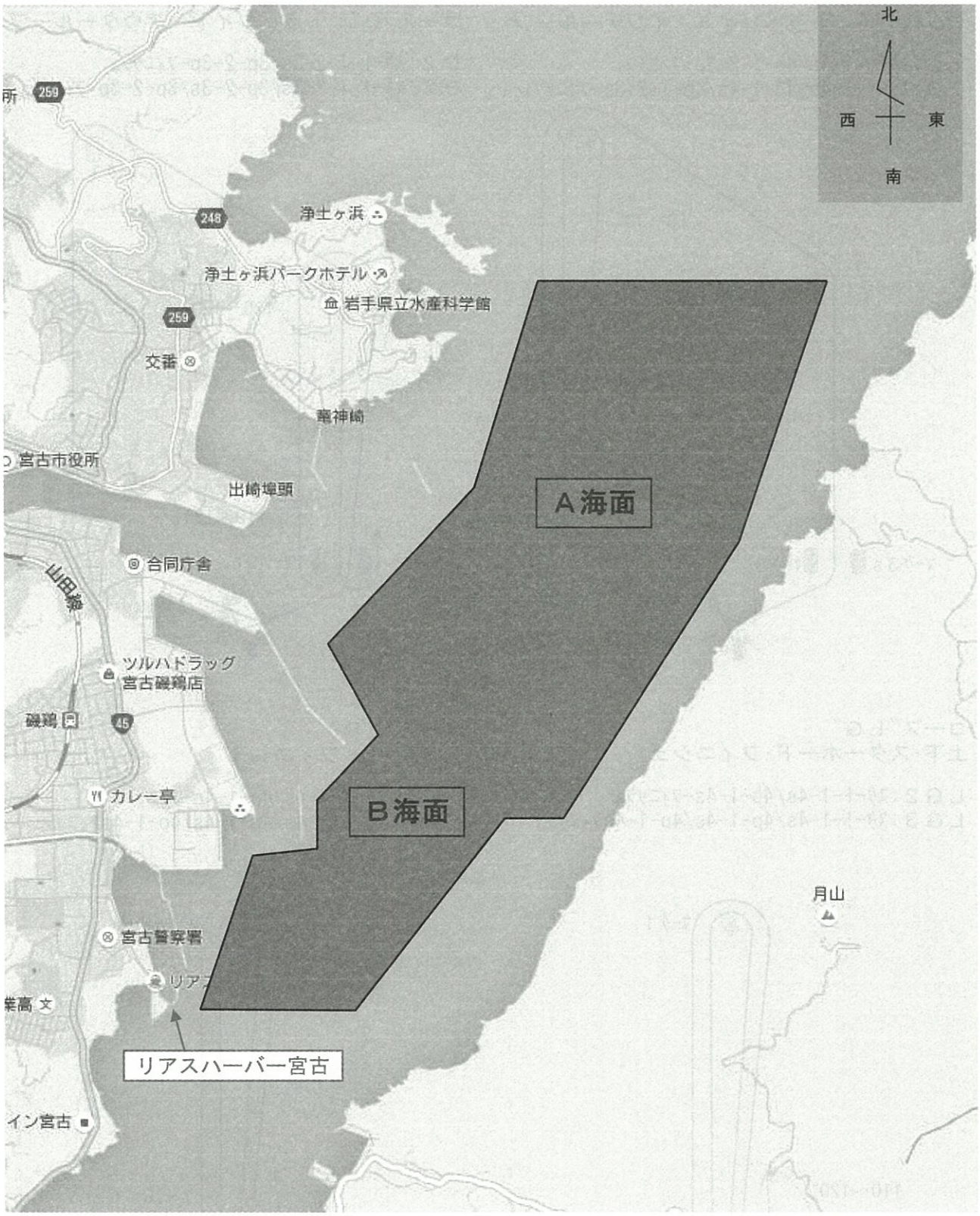
〈送付先〉　公益財団法人日本セーリング連盟

〒150-8050 東京都渋谷区神南 1-1-1　岸記念体育会館内

TEL(03)3481-2357、FAX(03)3481-0414

E-mail : jimukyoku@jsaf.or.jp

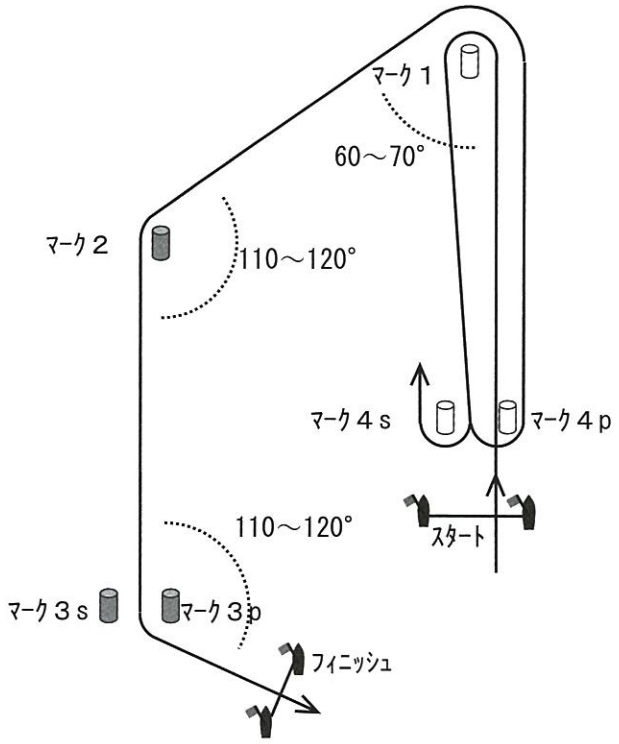
添付資料１ － レースエリア



Ａ海面とＢ海面の位置は重ならない範囲で、天候等の事情を勘案してエリアを設定する。

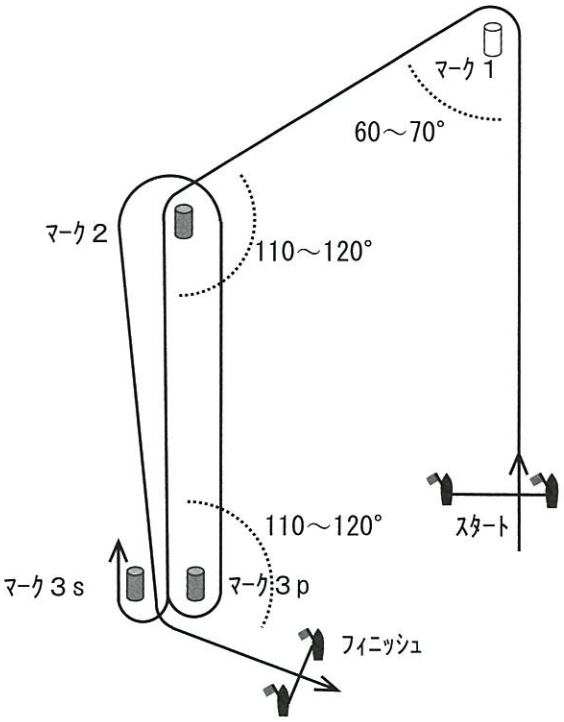
コース″Ｉ″　トラペゾイド　インナーループ

Ｉ２：ｽﾀｰﾄ-1-4s/4p-1-2-3p-ﾌｨﾆｯｼｭ
Ｉ３：ｽﾀｰﾄ-1-4s/4p-1-4s/4p-1-2-3p-ﾌｨﾆｯｼｭ



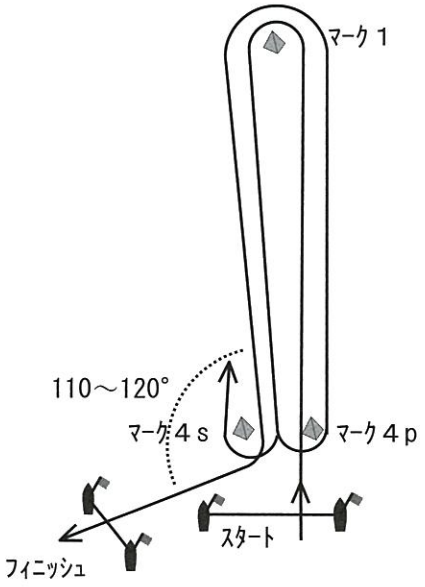
コース″Ｏ″　トラペゾイド　アウターループ

Ｏ２：ｽﾀｰﾄ-1-2-3s/3p-2-3p-ﾌｨﾆｯｼｭ
Ｏ３：ｽﾀｰﾄ-1-2-3s/3p-2-3s/3p-2-3p-ﾌｨﾆｯｼｭ



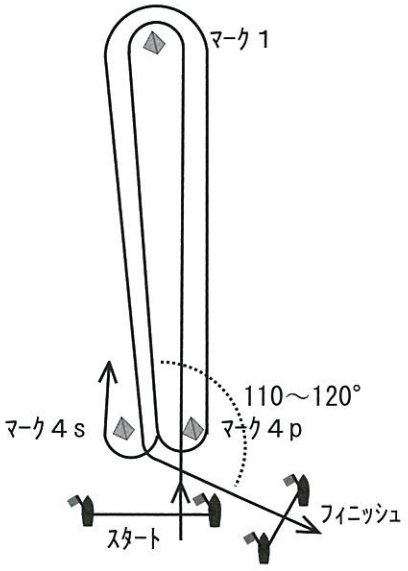
コース″ＬＧ″
上下･スターボード･フィニシュ

ＬＧ２：ｽﾀｰﾄ-1-4s/4p-1-4s-ﾌｨﾆｯｼｭ
ＬＧ３：ｽﾀｰﾄ-1-4s/4p-1-4s/4p-1-4sﾌｨﾆｯｼｭ



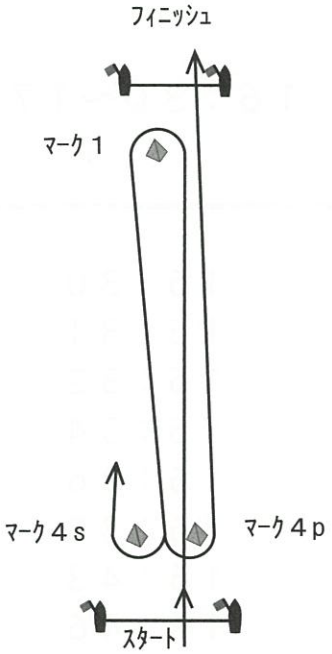
コース″ＬＲ″
上下･ポートフィニシュ

ＬＲ２：ｽﾀｰﾄ-1-4s/4p-1-4p-ﾌｨﾆｯｼｭ
ＬＲ３：ｽﾀｰﾄ-1-4s/4p-1-4s/4p-1-4pﾌｨﾆｯｼｭ



コース"W"　上下・上フィニシュ

Ｗ２：ｽﾀｰﾄ-1-4s/4p-ﾌｨﾆｯｼｭ
Ｗ３：ｽﾀｰﾄ-1-4s/4p-1-4s/4p-ﾌｨﾆｯｼｭ



式典次第

【開始式】

1．日　　時　　平成２８年１０月1日（土）１６：３０～１７：００
2．会　　場　　リアスハーバー宮古
3．式 次 第

開　式　通　告	１６：３０
競技会開始宣言	１６：３１
国　旗　儀　礼	１６：３２
大 会 旗 儀 礼	１６：３４
大会会長トロフィー返還	１６：３６
競技会会長あいさつ	１６：３８
歓迎のことば	１６：４３
登壇者の紹介	１６：４６
選　手　宣　誓	１６：４８
閉　式　通　告	１６：５０
役員・選手退席	１６：５１

【種目別表彰～午前の部～】

1．日　　時　　平成２８年１０月５日（水）１１：３０～１２：１０
2．会　　場　　リアスハーバー宮古
3．対象種目　　平成２８年１０月４日（火）までに終了した種目
4．式 次 第

開　始　予　告	１１：００
役員・選手着席	１１：２５
開　式　通　告	１１：３０
種目別成績発表	１１：３１
種 目 別 表 彰	１１：３７
閉　式　通　告	１２：０９
役員・選手退席	１２：１０

【種目別表彰～午後の部～】

1．日　　時　　平成２８年１０月５日（水）１４：３０～１５：００
2．会　　場　　リアスハーバー宮古
3．対象種目　　平成２８年１０月５日（水）に終了した種目
4．式 次 第

開　始　予　告	１４：００
役員・選手着席	１４：２５
開　式　通　告	１４：３０
種目別成績発表	１４：３１
種 目 別 表 彰	１４：３５
閉　式　通　告	１４：５７
役員・選手退席	１４：５９

【総合表彰式】

1．日　　時　　平成２８年１０月５日（水）１５：００～１６：００
2．会　　場　　リアスハーバー宮古
4．式 次 第

開　式　予　告	１５：００
開　式　通　告	１５：００
総合成績発表	１５：０１
表 彰 状 授 与	１５：０５
大会会長トロフィー授与	１５：２０
講　　評	１５：２５
競技会会長あいさつ	１５：３２
感 謝 状 贈 呈	１５：３８
歓送のことば	１５：４２
国　旗　儀　礼	１５：５３
大 会 旗 儀 礼	１５：５５
競技会終了宣言	１５：５７
閉　式　通　告	１５：５９
役員・選手退席	１６：００

◇セーリング競技の見方◇

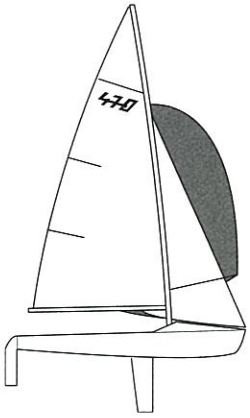
セーリング競技について

　セーリング競技は、ジュニアから高齢者まで幅広い年齢層で楽しめる生涯スポーツであり、自然を相手に風と波だけを動力として船を走らせる、環境に優しいスポーツです。

　セーリング競技大会は、オリンピック競技を始めアジア大会、世界選手権等多くの大会が国内外で開催され国民体育大会においては、昭和２１年の第１回大会から採用されています。

国体で採用しているヨットの種類　　≪２人乗り≫

４７０級(成年男子)



【全長】：4.7m　【幅】：1.68m
【セール面積】：26.6㎡

　４７０級は３枚の帆を使って走るプレーニングタイプ（滑走）のヨットで、オリンピック種目に採用されていることから、実業団、大学生、一般等で幅広く普及しています。

　乗員の適正体重は2人の合計で130㎏前後とされ、オリンピック種目の中でも最も軽量なクラスで、比較的に日本人向きであると言われています。

セーリングスピリッツ級(成年女子)

【全長】：4.3m　【幅】：1.74m
【セール面積】：27.6㎡

　セーリングスピリッツ級は、世界の流れに合わせて日本セーリング連盟が開発したハイ・パフォーマンスな２人乗りヨットで、風下に向けてジェネカーセール(先頭にある帆)を展開すると、ハイスピードでパワフルなセーリングを楽しむことができます。

４２０級(少年男子・少年女子)

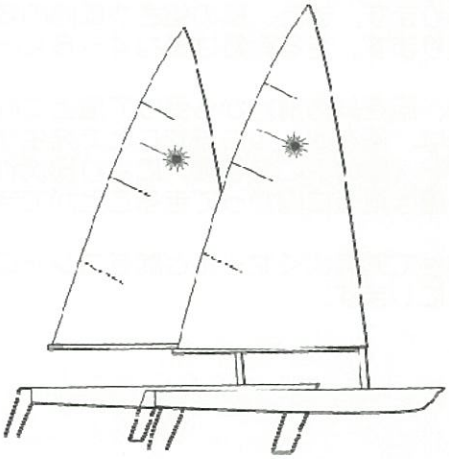
【全長】：4.2m　【幅】：1.63m
【セール面積】：22.05㎡

　４２０級は、ISAF認定されたインターナショナルクラスで、世界的に普及しています。

　大きな浮力タンクがあり、転倒状態でも艇は非常に安全です。世界中でユース世代のトレーニングボートとして活用され、平成27年高校総体和歌山インターハイ、和歌山国体から導入された種目です。

≪１人乗り≫

レーザー級(成年男子)
レーザーラジアル級(成年女子・少年男子・少年女子)



【全長】：４.２３ｍ　【幅】：１.３７ｍ
【レーザー級セール面積】：７.０６㎡
【レーザーラジアル級セール面積】：５.７㎡

レーザー級とレーザーラジアル級は同じ艇体を使用し、２本つなぎのマストの下部の長さを変えて使用します。
オリンピック種目に採用されていることから、ジュニアから一般まで幅広く普及していますが、強風時は、体力と気力の勝負になります。

国体ウインドサーフィン級(成年男子・成年女子)

【全長】：２.７～３.１ｍ　【幅】：１.００５ｍ以下
【セール面積】：８.０㎡以下

国体ウインドサーフィン級はワンデザインクラスではなく、規則に適合すれば、どこのメーカーのボード・リグ・セールも使用できます。スピード感あふれるセーリング競技の中でも、最も体力が要求されます。
サーフボードとセールのみのシンプルな構造で、風速が6ｍ／ｓを超えると、飛ぶように走ります。

セーリング競技の方法

セーリング競技は、スタートしてから決められたマークをルールに従って順番に回って、帆走する速さを競い、早くフィニッシュした艇が上位となります。

コースは、競技艇の性能や風向により、５コースあります。また、風の強さや風向の変化により、一度設置されたマークも変更されることがあります。走る距離は概ね４～６ｋｍで、１レースは３０～４５分前後です。

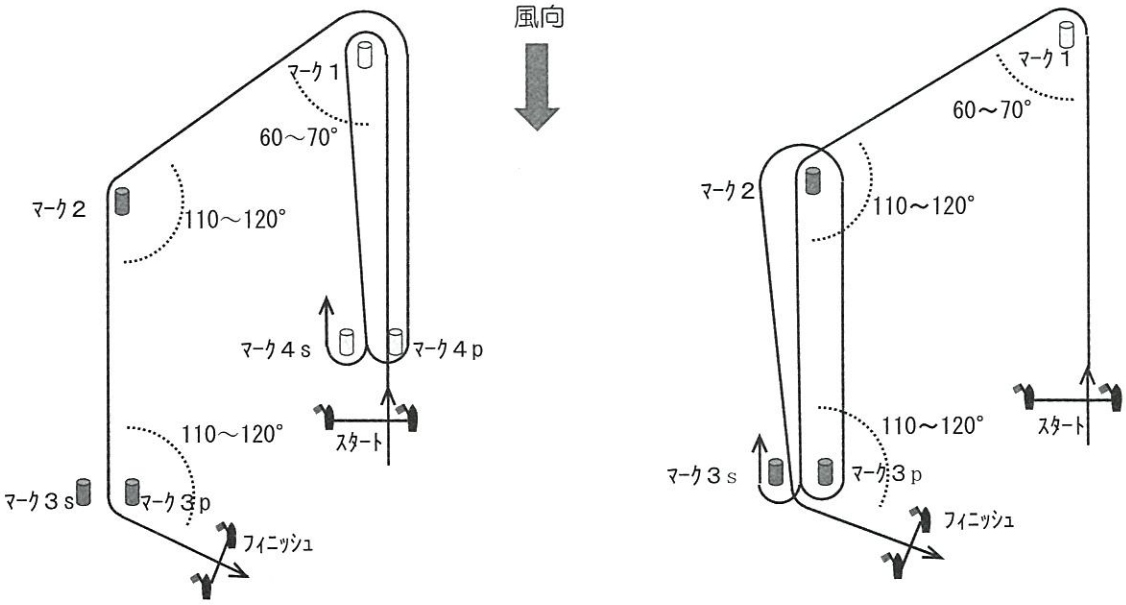
スタートしてから風上（マーク１）に向かうときは、風を斜め前方から受けて風上に向かってジグザグ（約４５度）に進んでいきます。これは、風をセールに流すことで発生する揚力（飛行機が飛ぶ揚力と同じ原理）とセンターボード（艇の下にある板）により横流れを防ぎ、風の方向に対して斜め前方に進む力が発生し、艇は風上に向かって走ることができます。

その他のマークに向かうときも、風向・風速に合わせて効率よくセールと舵をコントロールし、艇のバランスをとりながら、より速く走るようにします。

《　A海面のコース　》

コース″I″　トラペゾイド　インナーループ
Ｉ２:ｽﾀｰﾄ-1-4s/4p-1-2-3p-ﾌｨﾆｯｼｭ
Ｉ３:ｽﾀｰﾄ-1-4s/4p-1-4s/4p-1-2-3p-ﾌｨﾆｯｼｭ

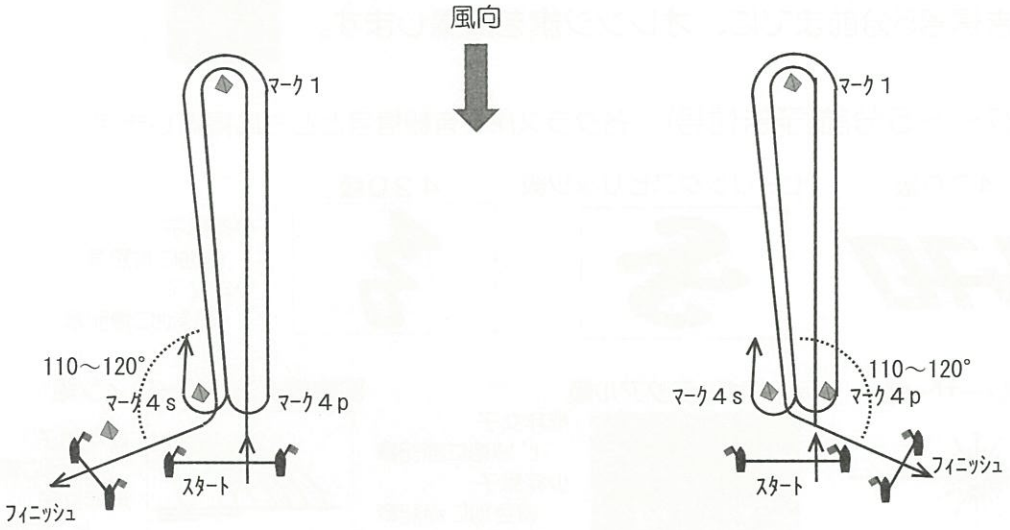
コース″O″　トラペゾイド　アウターループ
Ｏ２:ｽﾀｰﾄ-1-2-3s/3p-2-3p-ﾌｨﾆｯｼｭ
Ｏ３:ｽﾀｰﾄ-1-2-3s/3p-2-3s/3p-2-3p-ﾌｨﾆｯｼｭ



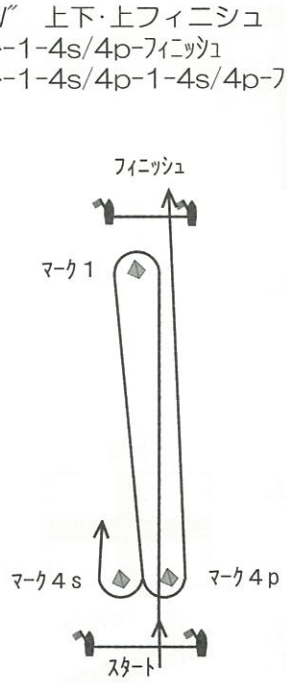
《　B海面のコース　》

コース"ＬＧ"
上下･スターボード･フィニシュ
ＬＧ２:ｽﾀｰﾄ-1-4s/4p-1-4s-ﾌｨﾆｯｼｭ
ＬＧ３:ｽﾀｰﾄ-1-4s/4p-1-4s/4p-1-4sﾌｨﾆｯｼｭ

コース"ＬＲ"
上下･ポートフィニシュ
ＬＲ２:ｽﾀｰﾄ-1-4s/4p-1-4p-ﾌｨﾆｯｼｭ
ＬＲ３:ｽﾀｰﾄ-1-4s/4p-1-4s/4p-1-4pﾌｨﾆｯｼｭ



コース"Ｗ"　上下･上フィニシュ
Ｗ２:ｽﾀｰﾄ-1-4s/4p-ﾌｨﾆｯｼｭ
Ｗ３:ｽﾀｰﾄ-1-4s/4p-1-4s/4p-ﾌｨﾆｯｼｭ



スタートの方法

各コース図のスタートラインのオレンジ旗の揚がった２艇の運営艇のポール間の見通し線を仮想のスタートラインとし、スタート時間に合わせてスタートします。右側にある運営艇から、スタートのタイミングを競技艇に旗や音響信号で伝えます。

スタートラインのどの位置からスタートするかは、レースで上位になるための重要なポイントで、最も有利な位置からスタートするためにスタート前の位置取りから戦いが始まっています。

予告信号5分前までに、オレンジ旗を掲揚します。

オレンジ旗

スタート５分前(予告信号)　各クラス旗を音響信号とともに掲揚します。

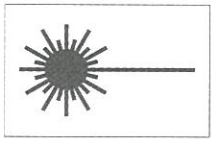
470級

セーリングスピリッツ級

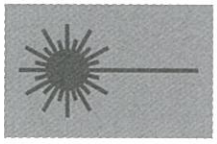
４２０級

少年男子
白地に青記章
少年女子
黄緑地に青記章

レーザー級

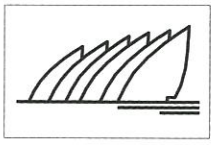


レーザーラジアル級



成年女子
ﾋﾟﾝｸ地に赤記章
少年男子
黄色地に赤記章
少年女子
黄緑地に赤記章

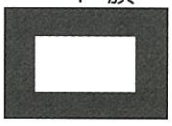
国体ウインドサーフィン級



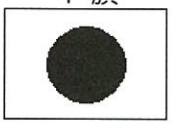
成年男子
白地に青記章
成年女子
ピンク地に青記章

スタート４分前(準備信号)　音響信号とともに掲揚します。

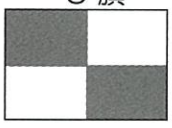
P 旗



I 旗



U 旗



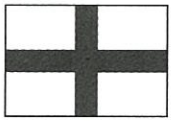
黒 色 旗

スタート１分前　準備信号を音響信号とともに降下します。

スタート　クラス旗を音響信号とともに降下します。

※スタート時刻よりも早くスタートした競技艇を特定できた場合は、
X旗を音響信号とともに掲揚して、選手に知らせます。

X旗



※どの競技艇が、早すぎるスタートをしたかが特定できない場合は、
第一代表旗を音響信号とともに掲揚してスタートをやり直します。

第一代表旗

得点と順位の決定

各種目６レースを実施する予定です。

成立したレースが３レース以下の場合は、競技艇の得点は全レースの合計得点として順位を決定します。４レース以上成立した場合は、最も悪いレースの得点を除外したレースの合計得点で順位を決定します。

各レースの合計得点がより少ない競技艇が、総合順位の上位になります。

- 都道府県別参加申込人数一覧表 -

地区	番号	都道府県	成年				少年			合計			総計
			監督		選手		監督	選手		監督		選手	
			専任	兼任	男子	女子	専任	男子	女子	専任	兼任		
北海道	1	北海道	1	( )	4	1	1	3	3	2	( )	11	13
東北	2	青森県	1	( )	3	0	1	3	3	2	( )	9	11
	3	岩手県	1	( )	4	4	1	3	3	2	( )	14	16
	4	宮城県	1	( )	4	4	1	3	3	2	( )	14	16
	5	秋田県	1	( )	4	3	1	2	2	2	( )	11	13
	6	山形県		(1)	1		1	1		1	(1)	2	3
	7	福島県		(1)	3	1	1	3		1	(1)	7	8
関東	8	茨城県	1	( )	4	2	1	3	3	2	( )	12	14
	9	栃木県	1	( )	1					1	( )	1	2
	10	群馬県	1	( )	4	1	1	1		2	( )	6	8
	11	埼玉県	1	( )	2	1	1		1	2	( )	4	6
	12	千葉県	1	( )	4	4	1	3	3	2	( )	14	16
	13	東京都	1	( )	4	4	1	3	3	2	( )	14	16
	14	神奈川県	1	( )	4	4	1	3	3	2	( )	14	16
	15	山梨県	1	( )	4	1	1	3	3	2	( )	11	13
北信越	16	新潟県	1	( )	3	2				1	( )	5	6
	17	長野県	1	( )	4	1	1	3		2	( )	8	10
	18	富山県	1	( )	2	3	1	3	3	2	( )	11	13
	19	石川県	1	( )	4	3	1	3	3	2	( )	13	15
	20	福井県	1	( )	4		1	3	3	2	( )	10	12
東海	21	静岡県	1	( )	4	2	1	3	1	2	( )	10	12
	22	愛知県	1	( )	4	4	1	3	3	2	( )	14	16
	23	三重県	1	( )	2	1	1	3	1	2	( )	7	9
	24	岐阜県	1	( )		3	1	3	3	2	( )	9	11
近畿	25	滋賀県		(1)	4	3	1	2	2	1	(1)	11	12
	26	京都府	1	( )	4	4	1	3	3	2	( )	14	16
	27	大阪府	1	( )	4	4	1	3	1	2	( )	12	14
	28	兵庫県	1	( )	4	4	1	3	3	2	( )	14	16
	29	奈良県	1	( )	3		1	3	2	2	( )	8	10
	30	和歌山県	1	( )	4	4	1	3	3	2	( )	14	16
中国	31	鳥取県	1	( )	1	2	1	3	3	2	( )	9	11
	32	島根県	1	( )	2		1	1	1	2	( )	4	6
	33	岡山県	1	( )	4	3	1	3	3	2	( )	13	15
	34	広島県	1	( )	4	3	1	3	1	2	( )	11	13
	35	山口県	1	( )	4	3	1	3	3	2	( )	13	15
四国	36	香川県	1	( )	4	2	1	3	3	2	( )	12	14
	37	徳島県	1	( )	4					1	( )	4	5
	38	愛媛県	1	( )	4	1	1	3	3	2	( )	11	13
	39	高知県	1	( )	3	3	1	3		2	( )	9	11
九州	40	福岡県	1	( )	4	4	1	3	3	2	( )	14	16
	41	佐賀県	1	( )	4	3	1	3	3	2	( )	13	15
	42	長崎県		(1)	4	3	1	3	2	1	(1)	12	13
	43	熊本県	1	( )	4	1	1	3	2	2	( )	10	12
	44	大分県	1	( )	4	4	1	3	3	2	( )	14	16
	45	宮崎県	1	( )	4	3	1	3	3	2	( )	13	15
	46	鹿児島県	1	( )	4	3	1	3	1	2	( )	11	13
	47	沖縄県	1	( )	4	2	1	3	3	2	( )	12	14
合計			43	(4)	162	108	44	121	98	87	(4)	489	576
					270			219					

※ 選手兼任監督の人数は、監督の[兼任]欄に記入し、選手数としてカウントする。

- 監督名（成年・少年）一覧表 -

No.	都道府県	成年		少年	
		氏　名	所　属	氏　名	所　属
1	北　海　道	江野　紳	株式会社アリス設計	阿部　佳苗	北海道白老東高等学校（教）
2	青　森　県	木村　訓	JAMSTEC	浅利　正	青森県立青森工業高等学校（教）
3	岩　手　県	川口　進	岩手県立宮古商業高等学校（教）	越田　幸樹	宮古市役所
4	宮　城　県	天野　宏二	宮城県仙台第二高等学校（教）	伊藤　嘉宣	宮城県塩釜高等学校（教）
5	秋　田　県	渡辺　睦雄	秋田県セーリング連盟	江幡　隆弘	本荘高等学校（教）
6	山　形　県	冨樫　力	全農ライフサポート山形（株）	佐藤　勝則	山形県立加茂水産高等学校（教）
7	福　島　県	齋藤　道明	福島県立いわき海星高等学校（教）	大平　邦夫	日本製紙株式会社
8	茨　城　県	根本　茂喜	茨城県セーリング連盟	伊勢崎　和仁	霞ヶ浦高等学校（教）
9	栃　木　県	白井　保	栃木県警察本部		
10	群　馬　県	長谷川　隆一	前橋市立元総社小学校（教）	中村　功弘	高崎市立乗附小学校（教）
11	埼　玉　県	谷　正安	川口市役所	田口　公一	埼玉県セーリング連盟
12	千　葉　県	宮野　美恵子	千葉ヨットビルダーズクラブジュニア	天貝　謙介	千葉県立生浜高等学校（教）
13	東　京　都	福井　洪一	NPO法人マリンプレイス東京	立野　幸広	NPO法人マリンプレイス東京
14	神奈川県	佐々木　共之	横浜市消防局中消防署	高橋　昌威	日本アイ・ビー・エム
15	山　梨　県	三浦　国彦	株式会社ユニマットライフ	平山　美樹	山梨県立富士北稜高等学校（教）
16	新　潟　県	小保　祥一	県立佐渡総合高等学校（教）		
17	長　野　県	笠原　賢一	長野県セーリング連盟	本山　誠	トライ・ツー・ヘルス
18	富　山　県	岡田　一広	株式会社　エイ・テック	村井　隆	富山県立新湊高等学校(教)
19	石　川　県	岩城　宏志	石川県立七尾東雲高等学校（教）	瀧川　明生	石川県立羽咋工業高等学校（教）
20	福　井　県	湯浅　健一郎	株式会社SHINDO	山﨑　太一	福井県立三国高等学校（職）
21	静　岡　県	中島　量敏	株式会社平和テクノシステム	中嶋　浩二郎	NPO法人静岡県セーリング連盟
22	愛　知　県	山田　克己	碧海冷蔵製氷株式会社	竹内　康人	アイシン・エーアイ株式会社
23	三　重　県	杉谷　典明	本田技研工業㈱鈴鹿製作所	伊藤　秀郎	三重県立津工業高等学校（教）
24	岐　阜　県	川瀬　修央	アイビー電子工業株式会社	水谷　浩也	岐阜県立海津明誠高等学校（教）
25	滋　賀　県	兵藤　和行	サン工業株式会社	城　務	滋賀硝子株式会社
26	京　都　府	坂　文彦	びわこ総合サービス株式会社	神原　里佳	日本郵便株式会社
27	大　阪　府	岩﨑　洋一	関西映興株式会社	前田　智史	オートフェイス
28	兵　庫　県	西尾　隆	伊丹市立瑞穂小学校（教）	戸嶋　博之	兵庫県セーリング連盟
29	奈　良　県	続木　政光	株式会社　タナックス	的場　秀之助	奈良県立法隆寺国際高等学校（教）
30	和歌山県	中村　和哉	株式会社和歌山放送	高橋　航	和歌山県教育庁
31	鳥　取　県	富田　博司	米子白鳳高等学校（教）	松本　充	米子工業高等専門学校（職）
32	島　根　県	中西　賢一	隠岐の島町役場	大門　伸之	隠岐水産高等学校（教）
33	岡　山　県	小西　立碁	岡山県立倉敷鷲羽高等学校（教）	西岡　正人	岡山県立邑久高等学校（教）
34	広　島　県	小菅　正幸	㈱砂原組	井川　史朗	マツダ（株）
35	山　口　県	中村　公俊	山口県スポーツ交流村	橋本　健太郎	山口県立光高等学校（教）
36	香　川　県	斉藤　修	香川県ヨット連盟	樋　聡史	県立高松商業高等学校（教）
37	徳　島　県	澳津　康賀	（株）四電技術コンサルタント		
38	愛　媛　県	木村　浩介	新居浜市役所	望月　航	愛媛県立新居浜東高等学校（教）
39	高　知　県	文野　順夫	高知県セーリング連盟	井土　晴喜	NPO法人YASU海の駅クラブ
40	福　岡　県	吉岡　岳史	株式会社　トラム	佐藤　麻衣子	福岡県セーリング連盟
41	佐　賀　県	松山　和興	公益財団法人佐賀県体育協会	中山　英弘	唐津土建工業株式会社
42	長　崎　県	松下　結	公益財団法人　長崎県体育協会	三嶋　由之	長崎県立長崎工業高等学校（職）
43	熊　本　県	中野　真澄	熊本県セーリング連盟	本田　肇	三晃精機㈱
44	大　分　県	五十川　浩司	津久見市役所	佐藤　誠	大分県立津久見高等学校海洋科学校（教）
45	宮　崎　県	橋口　昭彦	鵬翔高等学校（教）	廣池　達哉	宮崎県立宮崎海洋高等学校（教）
46	鹿児島県	橋元　幸一	K・エアーテック	勝田　哲英	鹿児島県立錦江湾高等学校（教）
47	沖　縄　県	平野　貴也	名桜大学（教）	有銘　兼一	沖縄県セーリング連盟

- 成年男子470級出場選手一覧表 -

No.	都道府県	氏　名	所　属	氏　名	所　属
1	北　海　道	町谷　泰紀	北海道大学修士1年	溝口　誠祥	北海道大学修士1年
2	青　森　県	横浜　飛鳥	むつ小川原マリンサービス株式会社	北川　翔也	ホシザキ東北株式会社
3	岩　手　県	村上　凌哉	日本大学	佐々木　彩人	日本経済大学
4	宮　城　県	森田　貴信	東北大学	北川　太郎	東北大学
5	秋　田　県	鈴木　智之	ダイニチ工業株式会社	與齊　将太	合同会社よさい
6	山　形　県	－	－	－	－
7	福　島　県	齋藤　道明	福島県立いわき海星高等学校(教)	佐藤　純一	常磐共同ガス株式会社
8	茨　城　県	井嶋　清芳	株式会社HIKオフィス	橋本　恭兵	橋本装飾
9	栃　木　県	－	－	－	－
10	群　馬　県	江原　千尋	東日本旅客鉄道株式会社	有吉　淳弥	新潟大学
11	埼　玉　県	－	－	－	－
12	千　葉　県	中村　睦宏	株式会社HIKオフィス	清原　遼	株式会社HIKオフィス
13	東　京　都	飯束　潮吹	(株)エス・ピー・ネットワーク	田中　智也	学習院大学
14	神 奈 川 県	河合　龍太郎	三井住友海上火災保険	小川　晋平	三井住友海上火災保険
15	山　梨　県	秋山　玄	野村證券株式会社	渡辺　隆蔵	ペンションノーティカオン
16	新　潟　県	市村　祥	金沢大学大学院	斎藤　優馬	藤田保健衛生大学病院
17	長　野　県	横山　卓之	新潟大学	榑沼　陽平	富山大学
18	富　山　県	－	－	－	－
19	石　川　県	山本　優志	関西大学	高柳　彬	日本経済大学
20	福　井　県	出道　耕輔	福井県立若狭高等学校(職)	中川　大河	福井県体育協会
21	静　岡　県	杉山　航一朗	同志社大学	渡辺　駿	同志社大学
22	愛　知　県	高橋　洸志	株式会社豊田自動織機	杉浦　博之	株式会社豊田自動織機
23	三　重　県	－	－	－	－
24	岐　阜　県	－	－	－	－
25	滋　賀　県	中村　滋男	オムロン株式会社	山際　晋平	同志社大学
26	京　都　府	秋田　大介	株式会社　大丸松坂屋百貨店	原田　勇毅	同志社大学
27	大　阪　府	村松　昂祐	甲南大学	上野　智央	甲南大学
28	兵　庫　県	神木　聖	ヤマハ発動機株式会社	俣江　広敬	株式会社みずほ銀行
29	奈　良　県	濱本　唯人	医療法人　康成会	橋口　修三	医療法人　康成会
30	和 歌 山 県	市野　直毅	和歌山県セーリング連盟	長谷川　孝	横浜ゴムMBジャパン株式会社
31	鳥　取　県	－	－	－	－
32	島　根　県	－	－	－	－
33	岡　山　県	沖　拓哉	岡山大学	八木　康徳	岡山大学
34	広　島　県	長野　直樹	マツダ(株)	中島　和弘	マツダ(株)
35	山　口　県	小泉　颯作	トヨタ自動車東日本株式会社	光森　慎之介	関西学院大学
36	香　川　県	赤尾　裕亮	甲南大学	太田　匠哉	関西大学
37	徳　島　県	奈良　充規	大塚倉庫(株)	中野　弘之	徳島日産自動車(株)
38	愛　媛　県	今村　亮	一宮グループ	大嶋　龍介	米谷建設株式会社
39	高　知　県	山内　智彦	みずほ銀行　高知支店	青木　真	高知大学
40	福　岡　県	磯崎　哲也	株式会社　エス・ピー・ネットワーク	野田　友哉	日本経済大学
41	佐　賀　県	岡田　奎樹	早稲田大学	宮口　悠大	中央大学
42	長　崎　県	橋本　升樹	JPツーウェイコンタクト株式会社	松原　慎弥	社会福祉法人　長崎北保育園
43	熊　本　県	高木　勝海	ソニー生命保険株式会社博多支社	山内　大輝	九州中央リハビリテーション学院
44	大　分　県	高山　大智	Rev's YAMAHA Sailing Team　/　日本大学	疋田　大晟	Rev's YAMAHA Sailing Team
45	宮　崎　県	平島　昇	宮崎県立日南振徳高等学校(教)	原竹　優弥	慶応義塾大学
46	鹿 児 島 県	元津　大地	医療法人青仁会池田病院	外薗　潤平	九州旅客鉄道株式会社
47	沖　縄　県	鳥田　亮平	富国生命保険相互会社	与那覇　一成	大阪北港マリーナ

- 成年男子レーザー級出場選手一覧表 -

No.	都道府県	氏　名	所　属
1	北　海　道	作田　洋二	石狩市役所
2	青　森　県	小笠原　規安	東北容器工業株式会社
3	岩　手　県	佐藤　嘉記	一関市体育協会
4	宮　城　県	小野寺　正一郎	S.TRADES
5	秋　田　県	齋藤　大輔	美浜株式会社
6	山　形　県	冨樫　力	全農ライフサポート山形(株)
7	福　島　県	渡辺　一弘	トーホク装美株式会社
8	茨　城　県	木村　俊介	株式会社筑波銀行
9	栃　木　県	金子　貴幸	富士重工業(株)
10	群　馬　県	大川　晃弘	群馬県セーリング連盟
11	埼　玉　県	飯塚　修太郎	川口市役所
12	千　葉　県	真田　敦史	株式会社パルーナ
13	東　京　都	大塚　邦弘	富士ゼロックス株式会社
14	神　奈　川　県	樋口　碧	神奈川県セーリング連盟
15	山　梨　県	高村　幹治	本田技研工業株式会社
16	新　潟　県	－	－
17	長　野　県	井上　瑶	上伊那広域消防本部
18	富　山　県	清水　二二男	富山大学
19	石　川　県	北原　勝祥	(株)ノリタケコーテッドアブレーシブ
20	福　井　県	藤井　章一郎	株式会社エイチアンドエフ
21	静　岡　県	杉山　武靖	静岡ガス株式会社
22	愛　知　県	永井　久規	豊田合成株式会社
23	三　重　県	南里　研二	公益財団法人三重県体育協会
24	岐　阜　県	－	－
25	滋　賀　県	兵藤　和行	サン工業株式会社
26	京　都　府	安田　真之助	京都府立宮津高等学校(教)
27	大　阪　府	伊勢　健作	株式会社ジェイテクト
28	兵　庫　県	本田　大晃	日本郵政株式会社　天王寺局
29	奈　良　県	芝　雅彦	芝　医院
30	和　歌　山　県	谷口　斉謙	株式会社島精機製作所
31	鳥　取　県	瀬川　和正	米子産業体育館
32	島　根　県	大西　隆浩	損保ジャパン日本興亜ひまわり生命
33	岡　山　県	高嶋　由紀雄	JFEスチール株式会社
34	広　島　県	前田　博志	マツダ(株)
35	山　口　県	藤村　裕二	山口県セーリング連盟
36	香　川　県	九冨　潤一郎	アグロカネショウ株式会社高松営業所
37	徳　島　県	森　　寛	海上自衛隊徳島航空隊
38	愛　媛　県	渡部　雄貴	ツネイシクラフト＆ファシリティーズ株式会社
39	高　知　県	吉川　弘樹	株式会社　泉井鐵工所
40	福　岡　県	黒田　武士	三井住友海上AG
41	佐　賀　県	渡辺　真吾	(株)唐津三共メンテナンス
42	長　崎　県	森崎　邦弘	医療法人　福田ゆたか外科医院
43	熊　本　県	岡　瑞穂	積水化学工業株式会社 環境・ライフラインカンパニー 九州支店
44	大　分　県	河野　義樹	大分市役所
45	宮　崎　県	門川　翔哉	九州測量専門学校
46	鹿　児　島　県	榮樂　洋光	鹿屋体育大学(教)
47	沖　縄　県	有銘　兼志	琉球大学

- 成年男子国体ウインドサーフィン級出場選手一覧表 -

No.	都道府県	氏　名	所　属
1	北　海　道	近川　大和	鹿屋体育大学
2	青　森　県	－	－
3	岩　手　県	伊藤　茂夫	ムラテック
4	宮　城　県	鈴木　一義	本田技研工業株式会社
5	秋　田　県	高島　知行	秋田県庁東京事務所
6	山　形　県	－	－
7	福　島　県	－	－
8	茨　城　県	齋藤　光徳	つくば都市交通センター
9	栃　木　県	－	－
10	群　馬　県	青木　佑輔	前橋市役所
11	埼　玉　県	秦　顕治	本田技研工業(株)
12	千　葉　県	奥田　順一	映画製作
13	東　京　都	倉持　大也	関東学院大学
14	神　奈　川　県	山﨑　大輔	横浜市消防局
15	山　梨　県	木内　浩平	関東学院大学
16	新　潟　県	富澤　慎	トヨタ自動車東日本(株)
17	長　野　県	中村　光樹	琉球大学
18	富　山　県	馬渕　俊輔	富山県和田川水道管理所
19	石　川　県	内海　学	(株)小松製作所
20	福　井　県	三木　康司	福井県農業試験場園芸研修センター
21	静　岡　県	市川　和典	ヤマハ発動機株式会社
22	愛　知　県	福村　拓也	株式会社豊田自動織機
23	三　重　県	河本　将一	住友電装㈱鈴鹿製作所
24	岐　阜　県	－	－
25	滋　賀　県	板庇　雄馬	立命館大学
26	京　都　府	由里　亮太	鹿屋体育大学
27	大　阪　府	山本　遼	府立守口東高等学校(教)
28	兵　庫　県	松森　玲	関西学院大学
29	奈　良　県	－	－
30	和　歌　山　県	尾川　潤	株式会社島精機製作所
31	鳥　取　県	－	－
32	島　根　県	作野　達雄	中国電力(株)島根原子力発電所
33	岡　山　県	條本　和宏	瀬戸内市役所
34	広　島　県	佐藤　誠記	三親電材㈱
35	山　口　県	鳥取　雅嗣	広和シッピング株式会社
36	香　川　県	上田　武司	株式会社タダノ
37	徳　島　県	近藤　圭三	関西医科大学(職)
38	愛　媛　県	工藤　輝	愛媛県競技力向上対策本部
39	高　知　県	－	－
40	福　岡　県	村田　高亮	株式会社レオパレス21
41	佐　賀　県	吉冨　孝博	株式会社　SUMUCO
42	長　崎　県	水田　長兵	医療法人慶和会　たなか眼科
43	熊　本　県	河野　宏和	堤歯科医院
44	大　分　県	黒石　勇次	北杵築郵便局
45	宮　崎　県	西岡　秀樹	宮崎県庁
46	鹿　児　島　県	廣津　秀治	鹿児島市消防局
47	沖　縄　県	仲宗根　幸太	(株)開邦工業

- 成年女子セーリングスピリッツ級出場選手一覧表 -

No.	都道府県	氏 名	所 属	氏 名	所 属
1	北 海 道	－	－	－	－
2	青 森 県	－	－	－	－
3	岩 手 県	高屋敷 七恵	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所	伊藤 詩子	セントラルウェルネスクラブ南小泉店
4	宮 城 県	吉田 佳織	東北学院大学	鈴木 梨奈	株式会社仙台銀行
5	秋 田 県	松田 のどか	日本経済大学	石川 千明	東京海上日動火災保険株式会社
6	山 形 県	－	－	－	－
7	福 島 県	－	－	－	－
8	茨 城 県	橋本 杏奈	一誠商事株式会社	土屋 百茄	筑波大学
9	栃 木 県	－	－	－	－
10	群 馬 県	－	－	－	－
11	埼 玉 県	－	－	－	－
12	千 葉 県	加瀬澤 千帆里	株式会社 岩瀬歯科商会	宮野 菜々	日本大学ヨット部
13	東 京 都	長堀 友香	三菱東京UFJ銀行	武井 裕子	株式会社みずほ銀行
14	神 奈 川 県	矢口 梨絵	ノースセールジャパン	馬渡 凪沙	法政大学
15	山 梨 県	－	－	－	－
16	新 潟 県	－	－	－	－
17	長 野 県	－	－	－	－
18	富 山 県	川村 凪咲	関西学院大学	本田 有咲	関西学院大学
19	石 川 県	田中 佑果梨	金沢大学	矢田 奈津美	日本経済大学
20	福 井 県	－	－	－	－
21	静 岡 県	－	－	－	－
22	愛 知 県	矢野 紗也	日本福祉大学	兵藤 麗奈	愛知工業大学
23	三 重 県	－	－	－	－
24	岐 阜 県	伊藤 有希	至学館大学	渡邉 絵美	共立ビジネスサービス株式会社
25	滋 賀 県	水野 和	京都大学大学院	井之上 晴菜	スポーツクラブNAS
26	京 都 府	柏原 ゆり	株式会社 ピノス	竹迫 裕美	日本生命保険相互会社
27	大 阪 府	村松 叶子	甲南大学	松原 なぎさ	武庫川女子大学
28	兵 庫 県	樫原 梨乃	医療法人 邦明会	尾井 恵子	関西学院大学
29	奈 良 県	－	－	－	－
30	和 歌 山 県	宮川 惠子	和歌山セーリングクラブ	髙野 芹奈	関西大学
31	鳥 取 県	平岡 沙希	日本経済大学	西尾 知美	米子工業高等専門学校
32	島 根 県	－	－	－	－
33	岡 山 県	竹広 真奈	富士ゼロックス岡山株式会社	大賀 楓	日生信用金庫
34	広 島 県	髙橋 友里	マツダ(株)	田村 愛子	(株)広島銀行
35	山 口 県	廣田 英恵	山口県立徳山高等学校鹿野分校(教)	髙橋 美晴	山口県セーリング連盟
36	香 川 県	川筋 桃果	関西大学	多田 彩乃	香川県ヨット連盟
37	徳 島 県	－	－	－	－
38	愛 媛 県	－	－	－	－
39	高 知 県	辻本 万里	高知大学	林 春凪	立命館大学
40	福 岡 県	山本 佑莉	日本経済大学	安田 真世	医療法人才全会賀茂クリニック
41	佐 賀 県	重 由美子	佐賀県ヨットハーバー	宮﨑 歩美	九州電力株式会社
42	長 崎 県	山口 祥世	長崎県セーリング連盟	松下 結	公益財団法人 長崎県体育協会
43	熊 本 県	－	－	－	－
44	大 分 県	後藤 沙季	株式会社 古城	赤嶺 華歩	法政大学
45	宮 崎 県	竹下 萌香	鹿児島医療技術専門学校	山下 美紅	日本大学
46	鹿 児 島 県	二宮 樹理	鹿児島純心女子大学	下宮 那月	原田学園 鹿児島医療技術専門学校
47	沖 縄 県	－	－	－	－

- 成年女子レーザーラジアル級出場選手一覧表 -

No.	都道府県	氏　名	所　属
1	北　海　道	松苗　幸希	北海道セーリング連盟
2	青　森　県	－	－
3	岩　手　県	小成　海舞	岩手県立大学宮古短期大学部
4	宮　城　県	大庭　彩花	東北大学
5	秋　田　県	佐藤　瑞貴	新潟大学
6	山　形　県	－	－
7	福　島　県	濱松　郁美	東北大学
8	茨　城　県	－	－
9	栃　木　県	－	－
10	群　馬　県	山本　祥子	群馬県庁
11	埼　玉　県	－	－
12	千　葉　県	杉浦　智香	千葉県セーリング連盟
13	東　京　都	林　佳奈	日本大学
14	神　奈　川　県	佐藤　春菜	法政大学
15	山　梨　県	丸山　洸	山梨大学
16	新　潟　県	太田　七海	新潟県セーリング連盟
17	長　野　県	木下　いずみ	新潟大学
18	富　山　県	笹川　莉奈	和歌山大学
19	石　川　県	中谷　梓乃	日本フィルター工業(株)
20	福　井　県	－	－
21	静　岡　県	藤巻　みちる	学校法人国際ことば学院(教)
22	愛　知　県	蛭田　香名子	株式会社豊田自動織機
23	三　重　県	河原　由佳	共栄火災海上保険(株)
24	岐　阜　県	松永　貴美	大垣共立銀行
25	滋　賀　県	－	－
26	京　都　府	安田　千秋	公益財団法人京都市体育協会
27	大　阪　府	丸田　杏	株式会社モンベル
28	兵　庫　県	鄭　愛梨	九州大学
29	奈　良　県	－	－
30	和　歌　山　県	多田　桃子	株式会社島精機製作所
31	鳥　取　県	－	－
32	島　根　県	－	－
33	岡　山　県	小林　聖乃	岡山医療技術専門学校
34	広　島　県	濵田　華帆	福山市役所
35	山　口　県	鴨川　雪代	山口県東部ヤクルト販売株式会社
36	香　川　県	－	－
37	徳　島　県	－	－
38	愛　媛　県	－	－
39	高　知　県	井上　海子	香南市役所
40	福　岡　県	牟田　琴美	日本経済大学
41	佐　賀　県	多田　緑	同志社大学
42	長　崎　県	原田　小夜子	長崎県セーリング連盟
43	熊　本　県	－	－
44	大　分　県	平原　みちる	中央大学
45	宮　崎　県	－	－
46	鹿　児　島　県	－	－
47	沖　縄　県	玉井　杏依	沖縄女子短期大学

- 成年女子国体ウインドサーフィン級出場選手一覧表 -

No.	都道府県	氏　名	所　属
1	北　海　道	－	－
2	青　森　県	－	－
3	岩　手　県	鈴木　和子	(株)シ・ワールド
4	宮　城　県	森野　杏子	石巻赤十字病院
5	秋　田　県	－	－
6	山　形　県	－	－
7	福　島　県	－	－
8	茨　城　県	－	－
9	栃　木　県	－	－
10	群　馬　県	－	－
11	埼　玉　県	錬石　恵子	富士フイルム(株)
12	千　葉　県	三石　真衣	千葉大学(職)
13	東　京　都	須長　由季	株式会社ミキハウス
14	神　奈　川　県	堀川　智江	金澤運輸
15	山　梨　県	－	－
16	新　潟　県	小菅　寧子	(公財)新潟県体育協会
17	長　野　県	－	－
18	富　山　県	－	－
19	石　川　県	－	－
20	福　井　県	－	－
21	静　岡　県	尾崎　はる奈	Black team Japan
22	愛　知　県	福村　礼	トヨタL＆Fカスタマーズセンター愛知
23	三　重　県	－	－
24	岐　阜　県	－	－
25	滋　賀　県	花田　夕貴	滋賀県立大学
26	京　都　府	相馬　佳映	滋賀県立大学
27	大　阪　府	堀野　舞歩	カゴメ株式会社
28	兵　庫　県	原　百花	武庫川女子大学
29	奈　良　県	－	－
30	和　歌　山　県	小島　真理子	和歌山県教育庁
31	鳥　取　県	－	－
32	島　根　県	－	－
33	岡　山　県	－	－
34	広　島　県	－	－
35	山　口　県	－	－
36	香　川　県	－	－
37	徳　島　県	－	－
38	愛　媛　県	小嶺　恵美	一宮グループ
39	高　知　県	－	－
40	福　岡　県	山辺　美希	株式会社サガミ
41	佐　賀　県	－	－
42	長　崎　県	－	－
43	熊　本　県	川端　貴美可	宇土市立松橋小学校(教)
44	大　分　県	山口　しぶき	大分大学
45	宮　崎　県	竹原　唯梨	大分大学
46	鹿　児　島　県	須賀　愛実	社会医療法人鹿児島愛心会　大隅鹿屋病院
47	沖　縄　県	高山　楓	琉球大学

- 少年男子420級出場選手一覧表 -

No.	都道府県	氏 名	所 属	氏 名	所 属
1	北海道	佐藤 幸一	北海道小樽水産高等学校	吉政 豊	北海道小樽水産高等学校
2	青森県	工藤 広大	青森県立青森工業高等学校	成田 宥和	青森県立青森工業高等学校
3	岩手県	佐香 将大	岩手県立宮古高等学校	長澤 慶	岩手県立宮古高等学校
4	宮城県	佐藤 圭亮	宮城県塩釜高等学校	星 太洋	宮城県塩釜高等学校
5	秋田県	斉藤 泰知	本荘高等学校	佐々木奏	本荘高等学校
6	山形県	－	－	－	－
7	福島県	小野 峻矢	福島県立いわき海星高等学校	宍戸 竣哉	福島県立いわき海星高等学校
8	茨城県	蜂須賀 晋之介	霞ヶ浦高等学校	岩田 慧吾	霞ヶ浦高等学校
9	栃木県	－	－	－	－
10	群馬県	－	－	－	－
11	埼玉県	－	－	－	－
12	千葉県	高倉 嶺	千葉県立磯辺高等学校	吉永 温	千葉県立磯辺高等学校
13	東京都	佐藤 海志	東京都立大島海洋国際高等学校	加藤 巧巳	東京都立大島海洋国際高等学校
14	神奈川県	国見 樂	逗子開成高等学校	小森 瑛祐	逗子開成高等学校
15	山梨県	堀池 春輝	山梨県立富士北稜高等学校	山崎 流楓	山梨県立富士北稜高等学校
16	新潟県	－	－	－	－
17	長野県	二木 公啓	諏訪清陵高等学校	中村 建登	大町岳陽高等学校
18	富山県	宮下 司	富山高等専門学校	佐川 拓夢	富山高等専門学校
19	石川県	河崎 聖	石川県立羽咋工業高等学校	永田 魁	石川県立羽咋工業高等学校
20	福井県	牧村 祐樹	福井県立若狭高等学校	熊谷 凌一	福井県立若狭高等学校
21	静岡県	近藤 滋	県立熱海高等学校	加藤 誠也	県立熱海高等学校
22	愛知県	生田 大賀	愛知県立半田高等学校	原 新太郎	愛知県立半田高等学校
23	三重県	谷口 龍帆	三重県立津工業高等学校	西田 侑世	三重県立津工業高等学校
24	岐阜県	田中 聡馬	岐阜県立海津明誠高等学校	野田 空	岐阜県立海津明誠高等学校
25	滋賀県	村山 航大	滋賀県立膳所高等学校	鄭 泰鎔	滋賀県立膳所高等学校
26	京都府	山本 高徳	京都府立宮津高等学校	島田 響	京都府立海洋高等学校
27	大阪府	西村 宗至朗	清風高等学校	平井 徳輝	清風高等学校
28	兵庫県	皆川 晃輝	関西学院高等部	藤井 洸輔	関西学院高等部
29	奈良県	水島 祐人	奈良県立法隆寺国際高等学校	石橋 和也	奈良県立法隆寺国際高等学校
30	和歌山県	藤木 海舟	和歌山県立向陽高等学校	津田 哲志	和歌山県立向陽高等学校
31	鳥取県	小椋 一磨	米子工業高等専門学校	山脇 亮輔	米子工業高等専門学校
32	島根県	－	－	－	－
33	岡山県	正金 勇人	岡山県立邑久高等学校	竹澤 千里	岡山県立邑久高等学校
34	広島県	槇原 覚	広島商船高等専門学校	平田 与理	広島商船高等専門学校
35	山口県	松尾 虎太郎	山口県立光高等学校	三浦 匠	山口県立光高等学校
36	香川県	石井 是壮	県立高松商業高等学校	野口 大輔	県立高松商業高等学校
37	徳島県	－	－	－	－
38	愛媛県	泉 創	新居浜工業高等専門学校	谷口 慎治	愛媛県立松山南高等学校
39	高知県	間城 大賀	高知県立城山高等学校	山中 晴記	高知工業高等専門学校
40	福岡県	倉橋 直暉	中村学園三陽高等学校	上田 健登	中村学園三陽高等学校
41	佐賀県	宮﨑 祐次郎	佐賀県立唐津西高等学校	出 翔磨	佐賀県立唐津西高等学校
42	長崎県	山本 拓光	長崎総合科学大学付属高等学校	澄川 楽人	長崎総合科学大学付属高等学校
43	熊本県	熊井 哲斗	熊本県立宇土高等学校	浅川 智哉	熊本県立宇土高等学校
44	大分県	岩下 メナード	大分県立別府青山高等学校	緒方 晃太郎	大分県立別府青山高等学校
45	宮崎県	坂本 悠大	宮崎県立宮崎海洋高等学校	松野 圭吾	宮崎県立宮崎海洋高等学校
46	鹿児島県	山下 夏輝	鹿児島県錦江湾高等学校	新村 直大	鹿児島市立鹿児島商業高等学校
47	沖縄県	城間 諒介	沖縄県立知念高校	外間 結哉	沖縄県立知念高等学校

- 少年男子レーザーラジアル級出場選手一覧表 -

No.	都道府県	氏 名	所 属
1	北海道	高橋 豪助	海星学院高等学校
2	青森県	千葉 康貴	青森県立青森工業高等学校
3	岩手県	中嶋 俊	岩手県立宮古高等学校
4	宮城県	及川 慧悟	蔵王町立遠刈田中学校
5	秋田県	-	-
6	山形県	猪狩 祐樹	山形県立加茂水産高等学校
7	福島県	平賀 健介	福島県立湯本高等学校
8	茨城県	高橋 一心	霞ヶ浦高等学校
9	栃木県	-	-
10	群馬県	宮田 一志	群馬県立高崎工業高校
11	埼玉県	-	-
12	千葉県	谷 望	千葉市立稲毛高等学校
13	東京都	桐井 航汰	明星学園高等学校
14	神奈川県	高山 颯太	県立金井高等学校
15	山梨県	高村 彪太朗	山中湖村立山中湖中学校
16	新潟県	-	-
17	長野県	原 七海	諏訪清陵高等学校
18	富山県	江渕 優希	富山高等専門学校
19	石川県	林 悠太	石川県立羽咋工業高等学校
20	福井県	濱田 芳樹	福井県立三国高等学校
21	静岡県	戸井 洋	誠恵高等学校
22	愛知県	玉山 雄大	名古屋市立鎌倉台中学校
23	三重県	上山 竜誠	三重県立津工業高等学校
24	岐阜県	吉安 慶佑	岐阜県立海津明誠高等学校
25	滋賀県	-	-
26	京都府	白須 潤	京都府立宮津高等学校
27	大阪府	蔵田 翔也	清風高等学校
28	兵庫県	水田 隆文	清風高等学校
29	奈良県	櫻井 彬弘	奈良県立法隆寺国際高等学校
30	和歌山県	西尾 拓大	和歌山県立桐蔭高等学校
31	鳥取県	谷口 央	鳥取工業高等学校
32	島根県	森 海斗	隠岐水産高等学校
33	岡山県	高原 成功	岡山県立邑久高等学校
34	広島県	豊島 以知朗	大島商船高等専門学校
35	山口県	鈴木 義弘	山口県立光高等学校
36	香川県	長谷川 真大	高松市立木太中学校
37	徳島県	-	-
38	愛媛県	近藤 潤一郎	愛媛県立新居浜東高等学校
39	高知県	松浦 立季	高知県立岡豊高等学校
40	福岡県	下石 熙	西南学院高等学校
41	佐賀県	松本 勇磨	佐賀県立唐津工業高等学校
42	長崎県	奥田 祐大	長崎県立長崎東高等学校
43	熊本県	田原 直樹	熊本県立宇土高等学校
44	大分県	宇和 千尋	大分県立津久見高等学校海洋科学校
45	宮崎県	田川 雅貴	宮崎県立宮崎海洋高等学校
46	鹿児島県	岩城 海都	鹿児島県立開陽高等学校
47	沖縄県	金城 朋輝	沖縄県立知念高等学校

- 少年女子420級出場選手一覧表 -

No.	都道府県	氏 名	所 属	氏 名	所 属
1	北 海 道	阿部 芙美花	北海道小樽水産高等学校	野地 楽花	北海道小樽水産高等学校
2	青 森 県	三橋 栞奈	青森県立青森工業高等学校	佐藤 愛美	青森県立青森工業高等学校
3	岩 手 県	佐々木 香波	岩手県立宮古商業高等学校	前川 優香	岩手県立宮古商業高等学校
4	宮 城 県	高橋 紀香	宮城県塩釜高等学校	佐藤 梨々香	宮城県塩釜高等学校
5	秋 田 県	佐々木 遥	本荘高等学校	與齊 美紀	本荘高等学校
6	山 形 県	－	－	－	－
7	福 島 県	－	－	－	－
8	茨 城 県	宇田川 真乃	霞ヶ浦高等学校	大橋 未奈	霞ヶ浦高等学校
9	栃 木 県	－	－	－	－
10	群 馬 県	－	－	－	－
11	埼 玉 県	－	－	－	－
12	千 葉 県	石井 茜	千葉県立磯辺高等学校	盛田 冬華	千葉県立磯辺高等学校
13	東 京 都	川上 茜	東京都立日本橋高等学校	岩間 里奈	東京都立日本橋高等学校
14	神 奈 川 県	桑野 絵里佳	横浜英和女学院中学高等学校	伊藤 聖夏	函嶺白百合学園高等学校
15	山 梨 県	渡邊 陸	山梨県立富士北稜高等学校	芳沢 杏	山梨県立富士北稜高等学校
16	新 潟 県	－	－	－	－
17	長 野 県	－	－	－	－
18	富 山 県	馬渡 紗希	富山県立新湊高等学校	小林 真央	富山県立新湊高等学校
19	石 川 県	高津 ちあき	石川県立羽咋工業高等学校	小作 夏未	石川県立羽咋工業高等学校
20	福 井 県	笹木 彩那	福井県立三国高等学校	片山 紗花	福井県立三国高等学校
21	静 岡 県	－	－	－	－
22	愛 知 県	稲吉 風生	愛知県立碧南高等学校	杉浦 春香	愛知県立碧南高等学校
23	三 重 県	－	－	－	－
24	岐 阜 県	堀畑 南帆	岐阜県立海津明誠高等学校	北林 風花	岐阜県立海津明誠高等学校
25	滋 賀 県	田中 穂波	滋賀県立膳所高等学校	藤岡 珠代	滋賀県立膳所高等学校
26	京 都 府	平尾 まこ	立命館高等学校	平井 亜衣子	立命館高等学校
27	大 阪 府	－	－	－	－
28	兵 庫 県	佐藤 亜海	兵庫県立芦屋高等学校	尾仲 梨央	兵庫県立芦屋高等学校
29	奈 良 県	続木 茄可	奈良県立法隆寺国際高等学校	寺脇 夢紬美	奈良県立法隆寺国際高等学校
30	和 歌 山 県	丹生 彩雲	和歌山県立星林高等学校	山田 志保美	和歌山県立星林高等学校
31	鳥 取 県	池淵 砂紀	境高等学校	福田 ゆい	境高等学校
32	島 根 県	－	－	－	－
33	岡 山 県	小林 真由	岡山県立邑久高等学校	堀口 詩織	岡山県立邑久高等学校
34	広 島 県	－	－	－	－
35	山 口 県	平石 琴美	国立大島商船高等専門学校	小西 凪	国立大島商船高等専門学校
36	香 川 県	長岡 叶子	県立高松商業高等学校	森 七海	県立高松商業高等学校
37	徳 島 県	－	－	－	－
38	愛 媛 県	伊藤 いのり	愛媛県立新居浜東高等学校	渡邊 美奈	愛媛県立新居浜東高等学校
39	高 知 県	－	－	－	－
40	福 岡 県	荒木 瑠璃	福岡県立修猷館高等学校	西嶋 乃愛	福岡県立修猷館高等学校
41	佐 賀 県	中山 由菜	佐賀県立唐津西高等学校	鶴田 希生	佐賀県立唐津西高等学校
42	長 崎 県	川口 莉子	長崎県立長崎工業高等学校	今村 瑠菜	長崎県立長崎工業高等学校
43	熊 本 県	村上 のぞみ	熊本県立宇土高等学校	野原 ひかり	熊本県立宇土高等学校
44	大 分 県	白石 美結	大分県立別府青山高等学校	ラミレス イオア アラナ	大分県立別府翔青高等学校
45	宮 崎 県	井戸 美幸	宮崎県立宮崎海洋高等学校	長尾 芽依	宮崎県立宮崎海洋高等学校
46	鹿 児 島 県	－	－	－	－
47	沖 縄 県	大城 早織	沖縄県立沖縄水産高等学校	安里 海優香	沖縄県立沖縄水産高等学校

- 少年女子レーザーラジアル級出場選手一覧表 -

No.	都道府県	氏　名	所　属
1	北　海　道	平尾　帆乃夏	北海道苫小牧総合経済高等学校
2	青　森　県	新藤　安泉	青森県立大湊高等学校
3	岩　手　県	工藤　紗弥	岩手県立宮古商業高等学校
4	宮　城　県	皆川　詩緒	宮城県仙台第二高等学校
5	秋　田　県	－	－
6	山　形　県	－	－
7	福　島　県	－	－
8	茨　城　県	青山　瑞希	土浦市立土浦第六中学校
9	栃　木　県	－	－
10	群　馬　県	－	－
11	埼　玉　県	宇佐美　明日実	神田女学園高等学校
12	千　葉　県	菅沼　汐音	渋谷教育学園幕張高等学校
13	東　京　都	池田　樹理	東海大学付属高輪台高等学校
14	神　奈　川　県	谷　美月	横浜女学院高等学校
15	山　梨　県	小屋　英美里	駿台甲府高等学校
16	新　潟　県	－	－
17	長　野　県	－	－
18	富　山　県	荒田　悠莉	富山県立新湊高等学校
19	石　川　県	室塚　早稀	石川県立羽咋工業高等学校
20	福　井　県	本堂　優香	福井県立三国高等学校
21	静　岡　県	三浦　凪砂	県立湖西高等学校
22	愛　知　県	柿元　麻衣	愛知県立碧南高等学校
23	三　重　県	新田　そら	学校法人高田学苑　高田高等学校
24	岐　阜　県	小岩　英恵	岐阜県立海津明誠高等学校
25	滋　賀　県	－	－
26	京　都　府	小林　愛	京都府立宮津高等学校
27	大　阪　府	傍士　夏来	同志社香里高等学校
28	兵　庫　県	投石　萠	啓明学院高等学校
29	奈　良　県	－	－
30	和　歌　山　県	赤松　里彩	和歌山県立桐蔭高等学校
31	鳥　取　県	増田　美悠	米子工業高等専門学校
32	島　根　県	松林　朱里	隠岐水産高等学校
33	岡　山　県	入江　美帆	岡山県立邑久高等学校
34	広　島　県	松尾　華	鈴峯女子高等学校
35	山　口　県	渡邊　純菜	山口県立光高等学校
36	香　川　県	森井　愛	県立高松商業高等学校
37	徳　島　県	－	－
38	愛　媛　県	堤　虹葉	愛媛県立新居浜東高等学校
39	高　知　県	－	－
40	福　岡　県	川野　真依	福岡県立福岡高等学校
41	佐　賀　県	荒木　陽菜	佐賀県立唐津東高等学校
42	長　崎　県	－	－
43	熊　本　県	－	－
44	大　分　県	上園田　明真海	大分県立別府翔青高等学校
45	宮　崎　県	鈴木　身祐希	宮崎県立日南振徳高等学校
46	鹿　児　島　県	五嶋　杏莉	鹿児島市立長田中学校
47	沖　縄　県	大城　彩可	沖縄県立沖縄水産高等学校

プログラム記載事項訂正届

レース委員会　御中

チーム名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

監督名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

下記のとおり、記載事項に誤りがありましたので、訂正をお願いいたします。

頁	行	誤	正

提出先：レース委員会
提出期限：平成２８年１０月１日（土）１５時厳守

過去の成績（種目別成績）

回数	開催地・開催年	全日本選手権		府県対抗ｽﾀｲﾌﾟ	日本選手権ｽﾀｲﾌﾟ級	10呎帆走リレー	学生選手権	水域対抗
1回	滋賀県琵琶湖 柳ヶ崎沖 1946年	堀江喜三 塩田克巳 岩田幸彰・吉村憲治				京滋代表 阪神代表 関東代表	東京帝大 関西学院 大阪商大	
2回	石川県七尾市 和倉湾 1947年	高岡治夫 養田隆一 吉村憲治				府県対抗 大　阪 京　都 和歌山	学生対抗 関　西 関　東 中　部	関　西 関　東 中　部
3回	福岡県志賀島 1948年	府県対抗１２呎 和歌山 滋　賀 宮　城	実業団12呎 九州ヨット 不二兄焼ヨット 横浜ヨット	兵　庫 神奈川 東　京	中　部 関　西 関　東	全日本選手権12呎 犬　伏 高　岡 村　上	関　東 関　西 九　州	関　西 関　東 東　北
4回	神奈川県横浜市 本牧沖ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ 1949年	京　都 山　口 滋　賀	大　阪 岩　手 宮　城	神奈川 京　都 東　京	12呎 関　東 関　西 九　州	公開帆走18呎 横浜ＳＣ 淡　青Ｃ 法　政Ｃ	学連水域ｽﾀｲﾌﾟ 関　西 関　東 中　部	関　西 関　東 中　部
5回	愛知県半田市 1950年	一般Ａ-12呎 京　都 大　阪 滋　賀		一般ｽﾀｲﾌﾟ 福　岡 大　阪 東　京	実業団ｽﾀｲﾌﾟ 兵　庫 東　京 神奈川		高校Ａ-12呎 神奈川 北海道 東　京	
6回	広島県宮島町 1951年	一般男子Ａ 京　都 大　阪 兵　庫		一般男子ｽﾀｲﾌﾟ 兵　庫 京　都 大　阪	愛　知 京　都 大　阪		高校Ａ 東　京 愛　知 北海道	
7回	宮城県塩竈市 松島湾 1952年	千　葉 大　阪 愛　知	実業団Ａ 京　都 宮　城 大　阪	滋　賀 東　京 京　都	京　都 愛　媛 神奈川	一般女子Ａ 広　島 愛　知 宮　城	広　島 北海道 滋　賀	高校ｽﾀｲﾌﾟ 東　京 宮　城 大　阪
8回	香川県高松市 大的堤ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ 1953年	一般男子12呎 大　阪 兵　庫 千　葉	実業団12呎 京　都 宮　城 和歌山	広　島 静　岡 宮　城	福　岡 宮　城 京　都	一般女子12呎 香　川 京　都 宮　城	高校12呎 兵　庫 広　島 大　阪	広　島 宮　城 滋　賀
9回	北海道小樽市 祝津ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ 1954年	神奈川 滋　賀 大　阪	大　阪 神奈川 千　葉	滋　賀 京　都 宮　城	大　阪 広　島 神奈川	神奈川 愛　知 福　岡	神奈川 北海道 兵　庫	京　都 兵　庫 香　川
10回	神奈川県 葉山ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ 1955年	東　京 大　阪 滋　賀	東　京 京　都 滋　賀	大　阪 東　京 兵　庫	東　京 大　阪 山　口	神奈川 広　島 滋　賀	香　川 静　岡 神奈川	滋　賀 福　岡 大　阪
11回	兵庫県西宮湾 1956年	神奈川 大　阪 滋　賀		滋　賀 京　都 神奈川	東　京 香　川 兵　庫	滋　賀 神奈川 広　島	東　京 愛　知 滋　賀	東　京 愛　知 滋　賀
12回	静岡県伊東市 伊東湾 1957年	東　京 福　岡 京　都		京　都 静　岡 大阪・埼玉	大　阪 滋　賀 鹿児島	神奈川 兵　庫 滋　賀	東　京 京　都 神奈川	神奈川 東　京 滋賀・宮城
13回	滋賀県 大津ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ 1958年	一般男子Ａ-12呎 京　都 神奈川 埼　玉		兵　庫 千　葉 埼　玉	実業団ｽﾀｲﾌﾟ 東　京 神奈川 京　都	一般女子Ａ-12呎 神奈川 兵　庫 広　島	高校Ａ 神奈川 香　川 滋　賀	兵　庫 香　川 福　岡
14回	神奈川県 横浜市ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ 1959年	京　都 香　川 神奈川		大　阪 埼　玉 神奈川	福　岡 神奈川 東　京	静　岡 兵　庫 東　京	東　京 神奈川 静　岡	滋　賀 神奈川 香　川
15回	鹿児島県 鴨池ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ 1960年	香　川 滋　賀 神奈川		神奈川 福　岡 京　都	神奈川 香　川 静　岡	千　葉 埼　玉 愛　媛	福　岡 香　川 滋　賀	兵　庫 宮　城 滋　賀
16回	宮城県塩竈市 七ヶ浜町 吉田浜ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ 1961年	一般男子ﾌｨﾝ 東　京 静　岡 福　岡		滋　賀 神奈川 兵　庫	実業団ｽﾀｲﾌﾟ 千　葉 香　川 愛　知	千　葉 宮　城 埼　玉	高校12呎 神奈川 福　岡 東　京	福　岡 兵　庫 宮　城
17回	岡山県玉野市 渋川ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ 1962年	一般男子Ａﾌｨﾝ 兵　庫 東　京 山　口	一般男子Ｂﾌｨﾝ 静　岡 香　川 東　京		一般男子Ｂｽﾀｲﾌﾟ 愛　知 長　崎 千　葉	一般女子ｽﾀｲﾌﾟ 岡　山 広　島 東　京	高校ﾌｨﾝ 岡　山 香　川 神奈川	神奈川 岡　山 千　葉
18回	山口県光市 室積ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ 1963年	香　川 兵　庫 愛　知	兵　庫 福　岡 山　口		兵　庫 新　潟 岡　山	長　崎 山　口 東　京	香　川 岡　山 千　葉	山　口 千　葉 愛　知
19回	新潟県 両津市ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ 1964年	福　岡 岡　山 東　京	京　都 大　分 千　葉		愛　知 新　潟 兵　庫	静　岡 東　京 岡　山	山　口 千　葉 静　岡	千　葉 香　川 静　岡
20回	愛知県 蒲郡ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ 1965年	岡　山 兵　庫 福　岡	愛　知 大　分 千　葉		新　潟 岩　手 福　岡	長　崎 福　岡 香　川	宮　城 山　口 神奈川	山　口 愛　知 神奈川

回数	開催地・開催年	一般男子Aﾌｨｯﾄ	一般男子Bﾌｨｯﾄ	一般男子ｽﾅｲﾌﾟ	一般男子Bｽﾅｲﾌﾟ	一般女子ｽﾅｲﾌﾟ	高校ﾌｨｯﾄ	高校ｽﾅｲﾌﾟ
21回	大分県 別府北浜ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ 1966年	大分 山口 広島	大分 愛知 静岡		愛知 岐阜 山口	愛知 広島 静岡	大阪 愛知 岡山	大分 兵庫 愛知
22回	茨城県 土浦ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ 1967年	広島 大分 岡山	東京 大分 広島		山口 茨城 三重	茨城 愛知 広島	岡山 茨城 山口	茨城 大分 香川
23回	福井県 三国ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ 1968年	東京 神奈川 大分	大分 三重 福岡	山口 香川 和歌山		神奈川 大分 山口	山口 静岡 岡山	香川 神奈川 岐阜
24回	長崎県長崎市 福田ﾖｯﾄ競技場 1969年	大分 岐阜 愛知	大分 山口 愛知	滋賀 東京 山梨		岡山 長崎 滋賀	山口 長崎 香川	福岡 広島 滋賀
25回	岩手県宮古市 宮古湾ﾖｯﾄ競技場 1970年	神奈川 京都 大分	東京 岐阜 山口	京都 山口 福井		広島 大分 福井	愛知 山口 香川	京都 福岡 山口
26回	和歌山県和歌山市 和歌浦湾 1971年	大分 和歌山 愛知	大阪 岐阜 愛知	愛知 福岡 山梨		静岡 京都 福井	新潟 茨城 福井	福岡 茨城 香川
27回	鹿児島県鹿児島市 平川ﾖｯﾄ競技場 1972年	大分 神奈川 鹿児島	神奈川 鹿児島 山口	大分 広島 愛媛		大分 滋賀 山口	鹿児島 大分 神奈川	香川 山口 広島
28回	千葉県館山市 館山ﾖｯﾄ競技場 1973年	愛知 神奈川 埼玉	神奈川 大分 千葉	千葉 広島 山口		京都 千葉 岐阜	大分 茨城 千葉・三重	千葉 茨城 岐阜・福岡
29回	茨城県 土浦ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ 1974年	福岡 三重 鹿児島	三重 福岡 茨城	島根 千葉 三重		兵庫 大阪 和歌山	山口 広島 茨城	青森 千葉 京都
30回	三重県津市伊勢湾 海洋ｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ 1975年	成男Aﾌｨｯﾄ 山口 大阪 鹿児島	成男Bﾌｨｯﾄ 三重 佐賀 神奈川	成男ｽﾅｲﾌﾟ 三重 福岡 千葉		成女ｽﾅｲﾌﾟ 兵庫 佐賀 岐阜	少男ｽﾅｲﾌﾟ 三重 茨城 山口	少女ｽﾅｲﾌﾟ 三重 山口 愛知
31回	佐賀県唐津市 唐津ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ 1976年	成男A－470 滋賀 山口 長崎	成男B－470 三重 愛知 東京	山梨 千葉 和歌山		佐賀 愛知 福岡	青森 神奈川 和歌山	滋賀 青森 佐賀
32回	青森県青森市 浅虫ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ 1977年	香川 神奈川 佐賀	東京 佐賀 香川	千葉 鹿児島 東京		佐賀 千葉 愛知	香川 佐賀 長崎	佐賀 愛知 青森
33回	長野県諏訪市 諏訪湖ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ 1978年	神奈川 長野 和歌山	福岡 長野 香川	宮崎 佐賀 東京		佐賀 神奈川 和歌山	岐阜 静岡 山口	青森 岐阜 長野
34回	宮崎県日南市 日南海岸ﾖｯﾄ競技場 1979年	佐賀 静岡 千葉	静岡 福岡 東京	岩手 佐賀 鹿児島		佐賀 宮崎 千葉	和歌山 宮崎 佐賀	佐賀 愛知 長崎
35回	千葉県千葉市 稲毛ﾖｯﾄ競技場 1980年	島根 佐賀 東京	静岡 香川 東京	神奈川 鹿児島 京都		佐賀 神奈川 和歌山	佐賀 青森 神奈川	千葉 佐賀 青森
36回	滋賀県大津市 膳川ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ 1981年	島根 長崎 佐賀	神奈川 愛媛 滋賀	長崎 兵庫 広島		宮崎 岐阜 滋賀	京都 滋賀 茨城	岐阜 山口 千葉
37回	島根県隠岐市 西郷ﾖｯﾄ競技場 1982年	島根 静岡 神奈川	静岡 福岡 神奈川	茨城 佐賀 京都		岐阜・佐賀 － 青森	山口 京都 島根	佐賀 千葉 山口
38回	東京都江東区 東京１５号地 海浜公園用地 1983年	成男470 静岡 福岡 群馬		神奈川 滋賀 福岡	少男ＦＪ 滋賀 島根 和歌山	千葉 佐賀 神奈川	千葉 佐賀 和歌山	少女ＦＪ 鳥取 佐賀 岡山
39回	兵庫県芦屋市 兵庫県立 海洋体育館 1984年	佐賀 福岡 新潟		京都 鳥取 茨城	滋賀 茨城 岩手	佐賀 奈良 鳥取	青森 茨城 滋賀	岩手 茨城 千葉
40回	鳥取県境港市 境港公共ﾏﾘｰﾅ 1985年	滋賀 神奈川 福岡	茨城 鳥取 京都	千葉 香川 鳥取	神奈川 茨城 滋賀	鳥取 山口 神奈川		鳥取 山口 島根

回数	開催地・開催年	成男470	成男ｽﾅｲﾌﾟ	少男ｽﾅｲﾌﾟ	少男FJ	成女ｽﾅｲﾌﾟ	成女ｽﾅｲﾌﾟ		少女FJ	
41回	山梨県山中湖村 山中湖村ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ 1986年	宮崎 和歌山 三重	神奈川 三重 兵庫	岐阜 静岡 山梨	千葉 神奈川 佐賀	岐阜 佐賀 鳥取			山梨 千葉 沖縄	
42回	沖縄県宜野湾市 宜野湾港ﾏﾘｰﾅ 1987年	佐賀 沖縄 京都	京都 山口 滋賀	神奈川 京都 佐賀	山口 茨城 島根	山口 沖縄 京都			千葉 愛知 滋賀	
43回	京都府宮津市 宮津ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ 1988年	滋賀 神奈川 愛媛	京都 千葉 香川・茨城	成男ｼｰﾎｯﾊﾟｰ 京都 山口 神奈川	少男ｽﾅｲﾌﾟ 山口 長崎 兵庫	少男FJ 島根 京都 神奈川	山口 千葉 京都		山梨 岩手 山口	
44回	北海道江差町 江差港ﾏﾘｰﾅ 1989年	滋賀 福岡 熊本	静岡 香川 神奈川	山口 福岡 東京	茨城 山口 北海道	千葉 和歌山 鳥取	岐阜 山口 福岡		佐賀 岩手・岐阜 —	
45回	福岡県福岡市 福岡市立ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ ｼｰｻｲﾄﾞももち 海浜公園 1990年	京都・佐賀 — 広島	福岡 東京 静岡	福岡 静岡 岡山・山口	福岡 岐阜 長崎	茨城 岩手 鳥取	成女ｽﾅｲﾌﾟ 福岡 佐賀 岐阜	成女SR 石川 福岡 佐賀	岐阜 静岡 山形	
46回	石川県羽咋市 石川県滝港ﾏﾘｰﾅ 1991年	三重 山口 滋賀	静岡 大阪 神奈川	静岡 京都 岐阜・石川	茨城 神奈川 石川	福岡 三重 宮城	鳥取 島根 福岡	佐賀 石川 神奈川	石川 福岡 和歌山	
47回	山形県温海町 山形県鼠ヶ関ﾏﾘｰﾅ 1992年	三重 神奈川 山口	長崎 広島 福岡	京都 神奈川 千葉	山形・千葉 — 香川	宮城 山梨 宮崎	茨城 山口 島根	福岡 岐阜 山口	香川 山口・千葉 —	
48回	香川県仁尾町 仁尾ﾏﾘｰﾅ 1993年	東京 埼玉 福岡	熊本 福岡 神奈川	香川 山口 京都	香川・福岡 — 岐阜	茨城 滋賀 山口・宮崎	愛知 香川 岐阜	山口 佐賀 岐阜	茨城 岩手 青森	
49回	愛知県蒲郡市 海陽ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ 1994年	熊本 徳島 三重	熊本 鳥取 滋賀	国体ﾎﾞｰﾄﾞ 神奈川 福島 東京	少男SR 佐賀 福岡 茨城	愛知 滋賀 山梨・福岡	滋賀 神奈川 静岡	愛知 岐阜 山口	少女FJ 福岡 愛知 神奈川	少女SR 福岡 神奈川 香川
50回	福島県いわき市 いわきﾏﾘｰﾅ 1995年	長崎 大阪 徳島	広島 香川 千葉・神奈川	神奈川 福島 新潟	神奈川 佐賀 山口	千葉 山梨 茨城	香川 山口 愛知	神奈川 岐阜 奈良	千葉 佐賀 山口	福岡 神奈川 福島
51回	広島県呉市阿賀 ﾏﾘﾉﾎﾞﾘｽ地区ﾏﾘｰﾅ 1996年	大阪 宮城 三重	山口 佐賀 神奈川	福島 奈良 群馬	佐賀 愛知 兵庫	佐賀 岐阜 山梨	香川 山口 鳥取	広島 山口・香川 —	岩手 愛知 広島	福岡 山口 神奈川
52回	大阪府岬町・淡輪 ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ大阪府立 青少年海洋ｾﾝﾀｰ 1997年	山口 徳島 三重	静岡 鳥取 神奈川・北海道	山口 神奈川 千葉	大阪・佐賀 — 福岡	神奈川 大阪 山口	福岡 島根 神奈川	福岡 山口 高知	佐賀 千葉 福岡	東京 岐阜 福島
53回	神奈川県藤沢市 湘南港ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ 葉山町 葉山港ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ 1998年	徳島 滋賀 神奈川	成男ｼﾝｸﾞﾙ 和歌山 愛知 青森	山口 福島 徳島	福岡 佐賀 神奈川	少男FJ 佐賀 茨城 岐阜	成女ｽﾅｲﾌﾟ 福岡 香川 滋賀	成女SR 福岡 熊本 香川	成女ｸｲﾝﾄﾞ 熊本 高知 香川	静岡 岐阜 山梨	佐賀 北海道 京都
54回	熊本県宇土市 宇土ﾏﾘｰﾅ 1999年	香川 富山 三重	熊本 山口 山梨	神奈川 山口 愛知	京都 佐賀 福岡	神奈川・岐阜 — 広島	千葉・香川 — 佐賀・熊本・ 鹿児島	福岡 香川・高知 —	鹿児島 高知 熊本	岐阜 青森・佐賀 —	福岡 京都 鳥取
55回	富山県新湊市 新湊ﾏﾘｰﾅ 2000年	神奈川 富山 静岡・徳島	熊本 広島 滋賀	成男ｳｲﾝﾄﾞ 宮城 神奈川 富山	神奈川・佐賀 — 福岡	静岡 千葉 石川	京都 香川 鹿児島	京都 鳥取 山口	富山 神奈川 鹿児島	福岡 鳥取 佐賀	富山 東京 福岡
56回	宮城県名取市 閖上特設ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ 2001年	山口 宮城 徳島	熊本 和歌山 愛知・広島	山口 宮城・富山 —	東京・佐賀 — 福島	茨城 佐賀 香川	成女SS 東京 山口 香川	京都 滋賀 東京	鹿児島 宮城・香川 —	静岡 秋田 茨城・山口	広島 山口 福岡
57回	高知県夜須町 夜須特設 ｾｰﾘﾝｸﾞ会場 2002年	三重 宮城 静岡	埼玉 愛知 和歌山	山口 富山 埼玉	長崎 佐賀 静岡	静岡 茨城 千葉	高知 和歌山 佐賀	高知 京都 香川	富山 香川 愛知	福岡 岩手 静岡	鳥取 京都 千葉
58回	静岡県 御前崎町・相良町 御前崎港特設ﾏﾘｰﾅ 2003年	福岡 静岡 和歌山	愛知 静岡 福岡	京都 鳥取 愛知	京都 茨城 静岡	岡山 長崎 山口	岡山 佐賀 静岡	京都 高知 香川	神奈川 高知 兵庫	静岡 宮城 大分	佐賀 静岡 神奈川
59回	埼玉県 北川辺町 渡良瀬貯水池 （谷中湖） 2004年	山口 神奈川 広島	愛媛 和歌山 岡山	山口 新潟 京都	広島 静岡 福岡	山梨 福岡 広島	山口 岡山 滋賀	岡山 愛知 山梨	香川 富山 鹿児島	福岡 神奈川 佐賀	岐阜 香川 大分
60回	岡山県 瀬戸内市 岡山県牛窓ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ 2005年	山口 滋賀 静岡	三重 岡山 鹿児島	新潟 山口 愛知	佐賀 北海道 千葉	佐賀 静岡 香川	佐賀 岡山 宮城	愛知 長崎 岡山	富山 鹿児島 東京	岩手 香川 岐阜	長崎 佐賀 石川

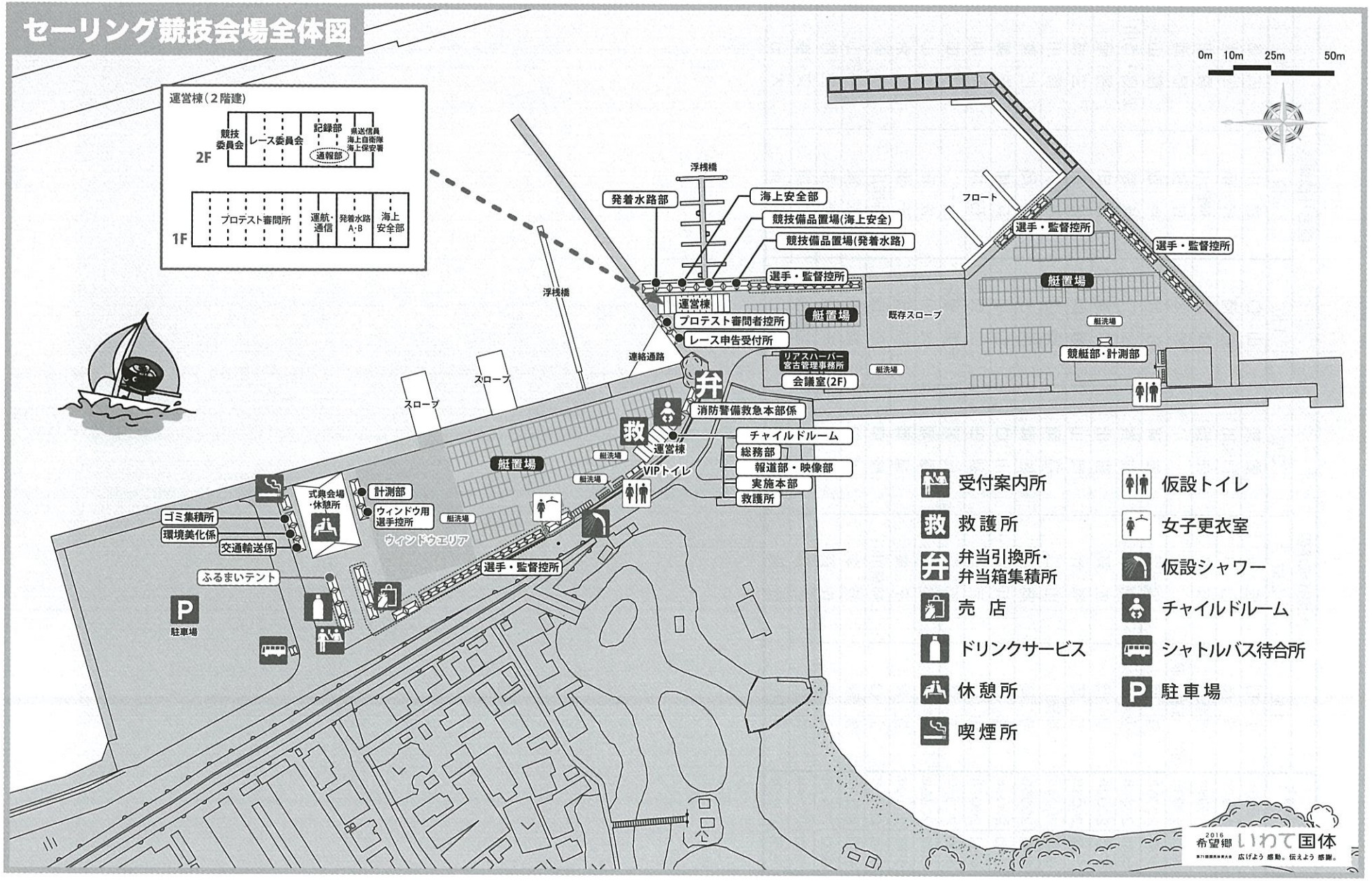
回数	開催地・開催年	成男470	成男ｼﾝｸﾞﾙ	成男ｳｲﾝﾄﾞ	少男SR	少男FJ	成女SS	成女SR	成女ｳｲﾝﾄﾞ	少女FJ	少女SR
61回	兵庫県 西宮市 新西宮ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ 2006年	滋賀 福岡 鹿児島	愛知 鹿児島 東京	愛知 山口 新潟	兵庫 埼玉 千葉	福岡 愛知 兵庫	東京 福岡 山口	愛知 岡山 鳥取	香川 山口 富山	静岡 兵庫 佐賀	山口 佐賀 福岡
62回	秋田県 男鹿市 船川港特設 ｾｰﾘﾝｸﾞ競技場 2007年	福岡 山口 三重	鹿児島 京都 愛知	新潟 兵庫 山口	成女SS 山口 秋田 東京	成女SR 岡山 山口 石川	成女ｳｲﾝﾄﾞ 山口 滋賀 沖縄	少男SS 兵庫 秋田 茨城	少男SR 佐賀 京都 滋賀	少女SS 石川 岡山 大分	佐賀 滋賀 岐阜
63回	大分県 別府市 北浜ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ 2008年	鹿児島 徳島 和歌山	東京 京都 佐賀	愛知 埼玉 神奈川	岡山 東京 福岡	沖縄 石川 静岡	秋田 香川 鹿児島	千葉 佐賀 大分	佐賀 京都 鹿児島	千葉 大分 山口	佐賀 神奈川 東京
64回	新潟県 聖籠町 網代浜特設 ｾｰﾘﾝｸﾞ競技場 2009年	愛知 三重 山口	愛知 京都 秋田	新潟 山口 福岡	岡山 福岡 東京	山口 愛知 東京	新潟 山口 香川	兵庫 福岡 千葉	佐賀 大分 静岡	大分 千葉 佐賀	佐賀 新潟 大分
65回	千葉県 千葉市 稲毛ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ 2010年	和歌山 神奈川 千葉	愛知 秋田 東京	新潟 愛知 神奈川	東京 千葉 佐賀	愛知 福井 北海道	岐阜 滋賀 神奈川	福岡 長崎 佐賀	佐賀 長崎 福岡	佐賀 千葉 東京	佐賀 神奈川 静岡
66回	山口県 光市 山口県ｽﾎﾟｰﾂ交流村 及び光井港特設会場 2011年	岐阜 山口 神奈川	東京 佐賀 和歌山	新潟 岐阜 神奈川	山口 佐賀 長崎	山口 福井 石川	岐阜 山口 新潟	山口 千葉 愛媛	福岡 佐賀 神奈川	神奈川 山口 愛知	佐賀 静岡 山口
67回	愛知県 蒲郡市 海陽ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ 2012年	福岡 鹿児島 東京	愛知 佐賀 和歌山	岐阜 大阪 新潟	岡山 和歌山 岐阜	東京 和歌山 長崎	岐阜 新潟 東京	佐賀 山口 神奈川	佐賀 静岡 神奈川	鳥取 佐賀 岐阜	佐賀 東京 静岡
68回	東京都江東区 若洲海浜公園 ヨット訓練所 2013年	東京 福岡 愛知	佐賀 京都 和歌山	新潟 大分 東京	和歌山 千葉 大阪	東京 石川 北海道	新潟 滋賀 東京	山口 佐賀 大分	佐賀 静岡 和歌山	佐賀 千葉 東京	兵庫 佐賀 神奈川
69回	長崎県 長崎市 長崎ｻﾝｾｯﾄﾏﾘｰﾅ 2014年	佐賀 福岡 和歌山	佐賀 京都 愛知	新潟 福岡 和歌山	和歌山 鳥取 大分	長崎 愛知 石川	東京 新潟 滋賀	山口 和歌山 千葉	和歌山 愛知 神奈川	佐賀 山口 岐阜	神奈川 千葉 東京
70回	和歌山県 和歌山市 和歌山ﾋｰﾘﾝｸﾞｾﾝﾀｰ 2015年	福岡 長崎 佐賀	成男ﾚｰｻﾞｰ 静岡 愛知 三重	新潟 和歌山 山口	和歌山 大分 大阪	成女ﾚｰｻﾞｰﾗｼﾞｱﾙ 和歌山 愛知 福岡	愛媛 東京 新潟	少男420 山口 和歌山 佐賀	少男ﾚｰｻﾞｰﾗｼﾞｱﾙ 山口 和歌山 広島	少女420 茨城 和歌山 佐賀	少女ﾚｰｻﾞｰﾗｼﾞｱﾙ 千葉 東京 佐賀

過去の成績（総合成績）

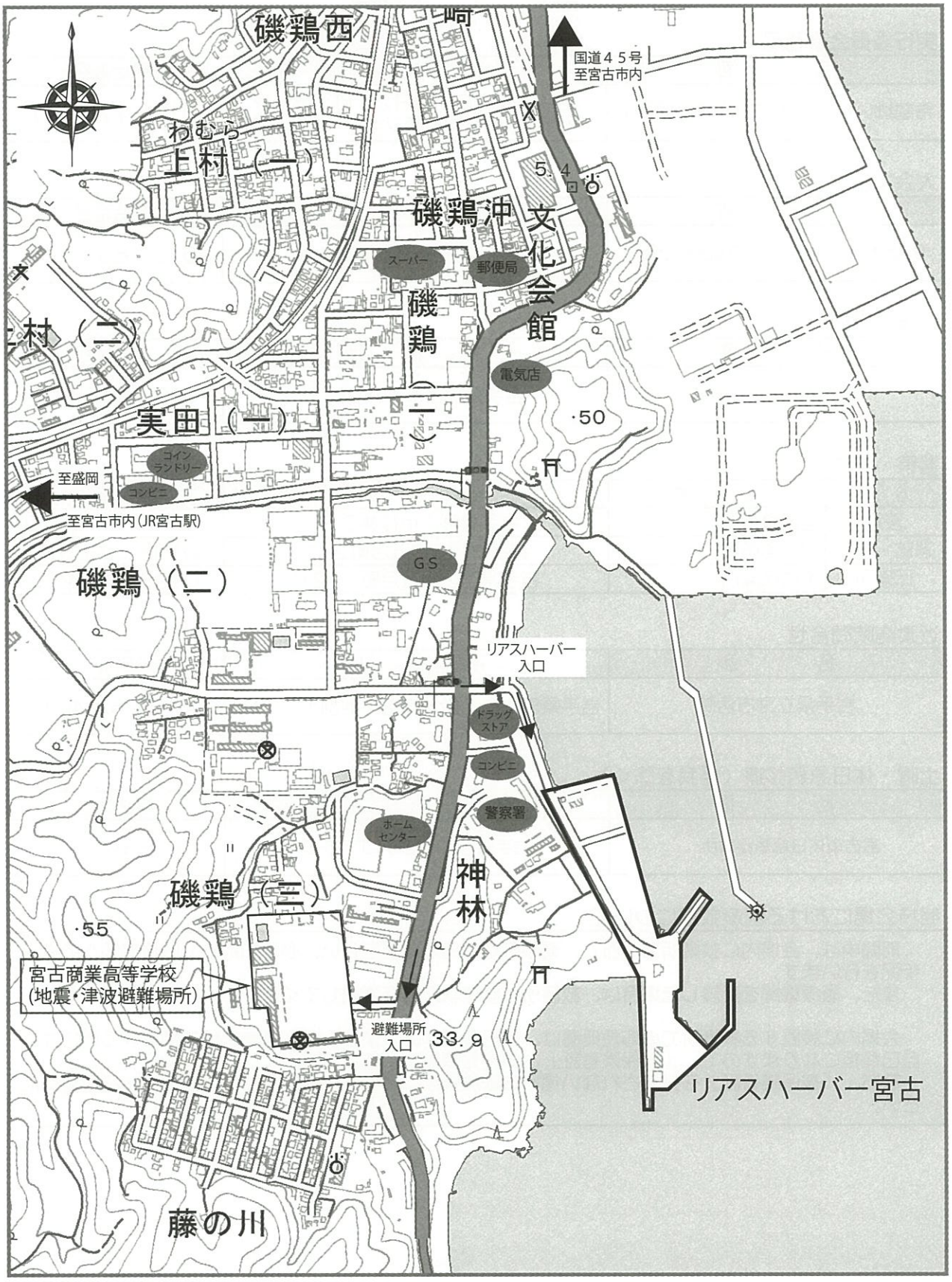
回数	開催年	天皇杯成績表			皇后杯成績表		
		1位	2位	3位	1位	2位	3位
3回	1948年	神奈川	東　京	兵　庫	―	―	―
4回	1949年	京　都	大　阪	宮　城	―	―	―
5回	1950年	神奈川	東　京	福　岡	―	―	―
6回	1951年	京　都	大　阪	神奈川	―	―	―
7回	1952年	京　都	大　阪	東　京	―	―	―
8回	1953年	京　都	香　川	大　阪	―	―	―
9回	1954年	神奈川	大阪・広島	―	神奈川	愛　知	福　岡
10回	1955年	大　阪	神奈川	東　京	神奈川	広　島	滋　賀
11回	1956年	滋　賀	東　京	神奈川	滋　賀	神奈川	広　島
12回	1957年	神奈川	滋　賀	京　都	神奈川	兵　庫	滋　賀
13回	1958年	神奈川	兵　庫	京　都	神奈川	兵　庫	広　島
14回	1959年	神奈川	東　京	兵　庫	静　岡	兵　庫	東　京
15回	1960年	神奈川	福　岡	滋　賀	千　葉	埼　玉	愛　知
16回	1961年	千　葉	東　京	福　岡	千　葉	宮　城	埼　玉
17回	1962年	岡　山	神奈川	香　川	岡　山	広　島	東　京
18回	1963年	山　口	兵　庫	岡　山	長　崎	山　口	東　京
19回	1964年	岡　山	千　葉	愛　知	静　岡	東　京	岡　山
20回	1965年	愛　知	山　口	新　潟	福岡・長崎	―	香　川
21回	1966年	愛　知	大　分	兵　庫	愛　知	広　島	静　岡
22回	1967年	茨　城	山　口	大　分	茨　城	愛　知	広　島
23回	1968年	山　口	神奈川	大　分	神奈川	大　分	山　口
24回	1969年	山　口	大　分	岐　阜	岡　山	長　崎	滋　賀
25回	1970年	京　都	山　口	神奈川	広　島	大　分	福　井
26回	1971年	愛　知	和歌山	静　岡	静　岡	京　都	福　井
27回	1972年	鹿児島	大　分	山　口	大　分	滋　賀	山　口
28回	1973年	千　葉	神奈川	大　分	京　都	千　葉	岐　阜
29回	1974年	福　岡	鹿児島	茨　城	兵　庫	大　阪	和歌山
30回	1975年	三　重	広　島	和歌山・佐賀	広　島	三重・兵庫	―
31回	1976年	佐　賀	青　森	山　口	佐　賀	滋　賀	愛　知
32回	1977年	佐　賀	香　川	鹿児島	佐　賀	愛　知	千葉・山口
33回	1978年	佐　賀	長　野	岐　阜	佐　賀	青　森	神奈川・岐阜・滋賀
34回	1979年	佐　賀	和歌山	宮　崎	佐　賀	長　崎	宮　崎
35回	1980年	佐　賀	千　葉	神奈川	佐　賀	千　葉	神奈川
36回	1981年	滋　賀	京　都	岐阜・長崎	岐　阜	滋　賀	宮　崎
37回	1982年	佐　賀	島　根	静　岡	佐　賀	岐　阜	青　森
38回	1983年	佐　賀	神奈川	千　葉	佐　賀	千　葉	鳥　取
39回	1984年	茨　城	滋　賀	佐　賀	岩　手	佐　賀	千　葉
40回	1985年	鳥　取	滋　賀	茨　城	鳥　取	山　口	佐　賀
41回	1986年	岐　阜	神奈川	山　梨	山　梨	岐　阜	鳥　取
42回	1987年	山　口	京　都	佐　賀	山　口	千　葉	沖　縄
43回	1988年	京　都	山　口	千　葉	山　口	千　葉	京　都
44回	1989年	佐　賀	山　口	千　葉	岐　阜	山　口	福　岡
45回	1990年	福　岡	佐　賀	岐　阜	福　岡	佐　賀	石　川
46回	1991年	石　川	静　岡	神奈川	鳥　取	石　川	佐　賀
47回	1992年	千　葉	山　口	神奈川	山　口	茨　城	福　岡
48回	1993年	香　川	福　岡	山　口	岐阜・香川	―	奈　良
49回	1994年	神奈川	愛　知	滋　賀	神奈川	愛　知	滋　賀
50回	1995年	神奈川	千　葉	山　口	山　口	神奈川	福　岡

回数	開催年	天皇杯成績表			皇后杯成績表		
		1位	2位	3位	1位	2位	3位
51回	1996年	山　口	佐　賀	愛　知	山　口	香　川	広　島
52回	1997年	福　岡	山　口	神奈川	福　岡	岐　阜	佐　賀
53回	1998年	神奈川	岐　阜	佐　賀	岐　阜	神奈川	香　川
54回	1999年	福岡・佐賀・熊本	―	―	熊　本	佐　賀	福　岡
55回	2000年	静　岡	神奈川	佐　賀	佐　賀	鳥　取	富　山
56回	2001年	山　口	東　京	佐　賀	山　口	東　京	広島・香川
57回	2002年	静　岡	佐　賀	富　山	京　都	高　知	福　岡
58回	2003年	静　岡	福　岡	岡　山	静　岡	佐　賀	宮　城
59回	2004年	神奈川	山　口	福　岡	岡　山	神奈川	香　川
60回	2005年	静　岡	岡　山	佐　賀	岡　山	静　岡	佐　賀
61回	2006年	福　岡	兵　庫	山　口	山　口	兵　庫	佐　賀
62回	2007年	山　口	兵　庫	秋　田	山　口	石　川	岡　山
63回	2008年	千　葉	東　京	佐　賀	千葉・東京	―	岡　山
64回	2009年	佐　賀	愛　知	福　岡	大　分	佐　賀	岡　山
65回	2010年	佐　賀	千　葉	福　岡	佐　賀	千　葉	東　京
66回	2011年	山　口	神奈川	岐　阜	山　口	神奈川	岐　阜
67回	2012年	佐　賀	岐　阜	山　口	岐　阜	佐　賀	和歌山
68回	2013年	千　葉	佐　賀	東　京	千　葉	東　京	佐　賀
69回	2014年	和歌山	佐　賀	山　口	和歌山	佐　賀	東　京
70回	2015年	和歌山	佐　賀	福　岡	和歌山	佐　賀	大　分

セーリング競技会場全体図



セーリング競技会会場（リアスハーバー宮古）周辺図



大会関係連絡先一覧

実行委員会事務局

名　　称	所　在　地	電話番号
希望郷いわて国体宮古市実行委員会	岩手県宮古市小山田２丁目１番１号 宮古市民総合体育館フォーラム棟３階	0193-77-5117

大会本部

名　　称	所　在　地	電話番号
実施本部（セーリング競技会場）	岩手県宮古市神林９―１	0193-65-7195

競技会場施設

名　　称	所　在　地	電話番号
リアスハーバー宮古	岩手県宮古市神林９―１	0193-71-1120

警察・消防など

分　類	名　　称	所　在　地	電話番号
警察	宮古警察署	岩手県宮古市神林３-１	0193-64-0110
消防・救急	宮古消防署	岩手県宮古市五月町２-１	0193-62-5533
保健所	宮古保健所	岩手県宮古市五月町１-２０	0193-64-2218

近隣病院問合せ

名　　称	所　在　地	電話番号
岩手県立宮古病院	岩手県宮古市崎鍬ヶ崎第１地割１１-２６	0193-62-4011

土曜・休日急病診療（怪我を除く）

名　　称	所　在　地	電話番号
宮古市休日急患診療所	岩手県宮古市西町1丁目6-2	0193-64-0113

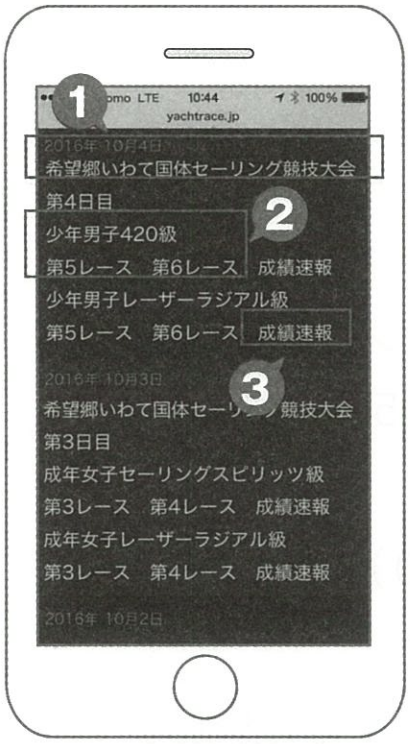
競技会場における医療救護について

期間中は、会場内に救護所を設置し、看護師等が応急処置を行い、必要に応じて医療機関への搬送手配を行います。
また、医療機関を受診した場合は、救護所へ診療状況等を連絡してください。

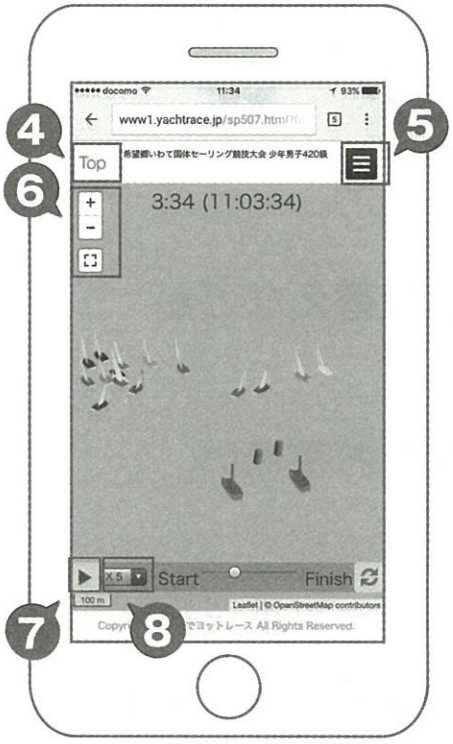
会場内に設置する救護所での応急処置は、自己負担がありませんが、医療機関で受診する場合は、自己負担になりますので、「被保険者証」とお金を持参してください。
なお、「被保険者証」を持参されない場合の医療費は、全額自己負担となりますので、ご注意ください。

スマホでヨットレースの観戦方法

観戦に特殊なアプリやプラグインは必要ありません。
PC、タブレット端末、スマートフォンのブラウザだけで観戦できます。webブラウザのアドレスバーに
http://yachtrace.jp/
と打ち込むか、検索サイトで「スマホでヨットレース」と検索してください。下のQRコードからでもOK!



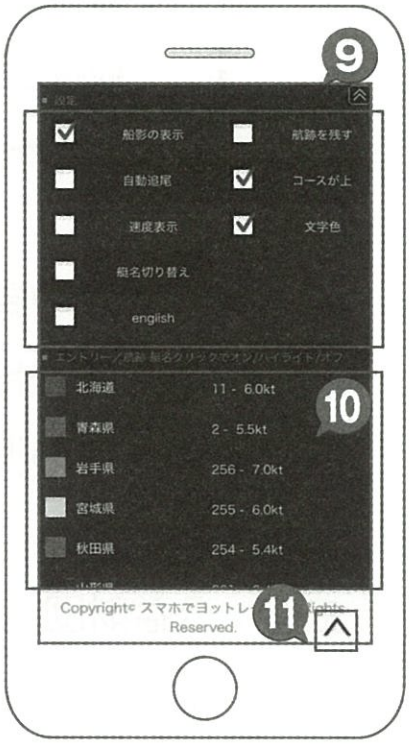
1. 中継しているレースの名称です。日付ごとに並んでいます。
2. レース名のほかにクラス（艇種別）やレース番号がありますのでクリックすると、このサイトへ移動します。
3. 成績速報がある場合のみリンクが表示されます。



4. レース名が並んだ前のページにもどります。
5. 操作パネルやエントリー名へ移動します。
6. 地図の縮尺を変更できます。画面を指で拡大することもできます。
7. 再生 / 一時停止ボタンです。スライダーで早送り / 巻き戻しをする時は一時停止してから行ってください。
8. 再生スピードが調節できます。

画面の表示設定です。 9

船影表示：船影大 / 船影小 / 点 に選択できます。
自動追尾：船団すべてを画面内に表示します。画面の縮尺を変えるときは使えません。
航跡を残す：航跡の表示 / 非表示を選択できます。
コースが上：風上を画面上方にする設定です。



エントリー名と進行方位 / スピードです。クリックすると画面から表示が消えます。 10

中継画面への移動ボタンです。中継画面に戻る際に押してください。 11

2016 希望郷いわて国体

第 71 回国民体育大会セーリング競技

チャイルドルームのご案内

場　　所：リアスハーバー宮古（仮設ユニットハウス内）

実 施 日：平成２８年１０月1日（土）～5日（水）

利用期間：９：００～１６：３０

（１０／5は9：００～１６：００）

対象年齢：０～６歳程度

参加する選手・大会関係者・大会役員

競技を観覧する方もご利用いただけます

●乳幼児の食事及び授乳・着替え・おむつ替えなどが出来るお部屋をご用意

●休憩中の児童・乳幼児の一時的な託児をお手伝い

主催：公益財団法人日本セーリング連盟　レディース委員会

協力：希望郷いわて国体宮古市実行委員会、岩手県ヨット連盟

ヨットの帆でトリプルエコバッグを作ってみませんか？

残念ながら不要となってしまったヨットの帆も捨ててしまったらゴミになってしまいます。

そんな帆をリサイクルし、一緒にエコバッグを作ってみませんか？

リサイクル、リメイク、リユース、トリプルでエコなバッグです。小学校で一番最初に習う波縫いができれば、誰でも作れる簡単なバッグです。

道具はすべて用意してあります。

どうぞ、手ぶらでご参加ください。

参加費無料

日時：１０月２日（日）

第１回：１１：００　先着２０名

第２回：１４：００　先着２０名

場所：リアスハーバー宮古　休憩所テント

※　尚、参加人数に限りがあるため、当日直接会場で先着順に受け付け致します。

主催：公益財団法人日本セーリング連盟　環境委員会

「スポーツ界における暴力行為根絶に向けたスローガン」

～ 暴力０（ゼロ）　心でつなぐスポーツの絆 ～

スポーツ界における暴力行為根絶宣言

【はじめに】

本宣言は、スポーツ界における暴力行為が大きな社会問題となっている今日、スポーツの意義や価値を再確認するとともに、我が国におけるスポーツ界から暴力行為を根絶するという強固な意志を表明するものである。

スポーツは私たち人類が生み出した貴重な文化である。それは自発的な運動の楽しみを基調とし、障がいの有無や年齢、男女の違いを超えて、人々が運動の喜びを分かち合い、感動を共有し、絆を深めることを可能にする。さらに、次代を担う青少年の生きる力を育むとともに、他者への思いやりや協同精神、公正さや規律を尊ぶ人格を形成する。

殴る、蹴る、突き飛ばすなどの身体的制裁、言葉や態度による人格の否定、脅迫、威圧、いじめや嫌がらせ、さらに、セクシュアルハラスメントなど、これらの暴力行為は、スポーツの価値を否定し、私たちのスポーツそのものを危機にさらす。フェアプレーの精神やヒューマニティーの尊重を根幹とするスポーツの価値とそれらを否定する暴力とは、互いに相いれないものである。暴力行為はたとえどのような理由であれ、それ自体許されないものであり、スポーツのあらゆる場から根絶されなければならない。

しかしながら、極めて残念なことではあるが、我が国のスポーツ界においては、暴力行為が根絶されているとは言い難い現実がある。女子柔道界における指導者による選手への暴力行為が顕在化し、また、学校における運動部活動の場でも、指導者によって暴力行為を受けた高校生が自ら命を絶つという痛ましい事件が起こった。勝利を追求し過ぎる余り、暴力行為を厳しい指導として正当化するような誤った考えは、自発的かつ主体的な営みであるスポーツとその価値に相反するものである。

今こそ、スポーツ界は、スポーツの本質的な意義や価値に立ち返り、スポーツの品位とスポーツ界への信頼を回復するため、ここに、あらゆる暴力行為の根絶に向けた決意を表明する。

【宣言】

現代社会において、スポーツは「する」、「みる」、「支える」などの観点から、多くの人々に親しまれている。さらに21世紀のスポーツは、一層重要な使命を担っている。それは、人と人との絆を培うスポーツが、人種や思想、信条などの異なる人々が暮らす地域において、公正で豊かな生活の創造に貢献することである。また、身体活動の経験を通して共感の能力を育み、環境や他者への理解を深める機会を提供するスポーツは、環境と共生の時代を生きる現代社会において、私たちのライフスタイルの創造に大きく貢献することができる。さらに、フェアプレーの精神やヒューマニティーの尊重を根幹とするスポーツは、何よりも平和と友好に満ちた世界を築くことに強い力を発揮することができる。

しかしながら、我が国のスポーツ界においては、スポーツの価値を著しく冒瀆し、スポーツの使命を破壊する暴力行為が顕在化している現実がある。暴力行為がスポーツを行う者の人権を侵害し、スポーツ愛好者を減少させ、さらにはスポーツの透明性、公正さや公平をむしばむことは自明である。スポーツにおける暴力行為は、人間の尊厳を否定し、指導者とスポーツを行う者、スポーツを行う者相互の信頼関係を根こそぎ崩壊させ、スポーツそのものの存立を否定する、誠に恥ずべき行為である。

私たちの愛するスポーツを守り、これからのスポーツのあるべき姿を構築していくためには、スポーツ界における暴力行為を根絶しなければならない。指導者、スポーツを行う者、スポーツ団体及び組織は、スポーツの価値を守り、21世紀のスポーツの使命を果たすために、暴力行為根絶に対する大きな責務を負っている。このことに鑑み、スポーツ界における暴力行為根絶を以下のように宣言する。

一．指導者

○指導者は、スポーツが人間にとって貴重な文化であることを認識するとともに、暴力行為がスポーツの価値と相反し、人権の侵害であり、全ての人々の基本的権利であるスポーツを行う機会自体を奪うことを自覚する。

○指導者は、暴力行為による強制と服従では、優れた競技者や強いチームの育成が図れないことを認識し、暴力行為が指導における必要悪という誤った考えを捨て去る。

○指導者は、スポーツを行う者のニーズや資質を考慮し、スポーツを行う者自らが考え、判断することのできる能力の育成に努力し、信頼関係の下、常にスポーツを行う者とのコミュニケーションを図ることに努める。

○指導者は、スポーツを行う者の競技力向上のみならず、全人的な発育・発達を支え、21世紀におけるスポーツの使命を担う、フェアプレーの精神を備えたスポーツパーソンの育成に努める。

二．スポーツを行う者

○スポーツを行う者、とりわけアスリートは、スポーツの価値を自覚し、それを尊重し、表現することによって、人々に喜びや夢、感動を届ける自立的な存在であり、自らがスポーツという世界共通の人類の文化を体現する者であることを自覚する。

○スポーツを行う者は、いかなる暴力行為も行わず、また黙認せず、自己の尊厳を相手の尊重に委ねるフェアプレーの精神でスポーツ活動の場から暴力行為の根絶に努める。

三．スポーツ団体及び組織

○スポーツ団体及び組織は、スポーツの文化的価値や使命を認識し、スポーツを行う者の権利・利益の保護、さらには、心身の健全育成及び安全の確保に配慮しつつ、スポーツの推進に主体的に取り組む責務がある。そのため、スポーツにおける暴力行為が、スポーツを行う者の権利・利益の侵害であることを自覚する。

○スポーツ団体及び組織は、運営の透明性を確保し、ガバナンス強化に取り組むことによって暴力行為の根絶に努める。そのため、スポーツ団体や組織における暴力行為の実態把握や原因分析を行い、組織運営の在り方や暴力行為を根絶するためのガイドライン及び教育プログラム等の策定、相談窓口の設置などの体制を整備する。

スポーツは、青少年の教育、人々の心身の健康の保持増進や生きがいの創出、さらには地域の交流の促進など、人々が健康で文化的な生活を営む上で不可欠のものとなっている。また、オリンピック・パラリンピックに代表される世界的な競技大会の隆盛は、スポーツを通した国際平和や人々の交流の可能性を示している。さらに、オリンピック憲章では、スポーツを行うことは人権の一つであり、フェアプレーの精神に基づく相互理解を通して、いかなる暴力も認めないことが宣言されている。

しかしながら、我が国では、これまでスポーツ活動の場において、暴力行為が存在していた。時と場合によっては、暴力行為が暗黙裏に容認される傾向が存在していたことも否定できない。これまでのスポーツ指導で、ともすれば厳しい指導の下暴力行為が行われていたという事実を真摯に受け止め、指導者はスポーツを行う者の主体的な活動を後押しする重要性を認識し、提示したトレーニング方法が、どのような目的を持ち、どのような効果をもたらすのかについて十分に説明し、スポーツを行う者が自主的にスポーツに取り組めるよう努めなければならない。

したがって、本宣言を通して、我が国の指導者、スポーツを行う者、スポーツ団体及び組織が一体となって、改めて、暴力行為根絶に向けて取り組む必要がある。

スポーツの未来を担うのは、現代を生きる私たちである。こうした自覚の下にスポーツに携わる者は、スポーツの持つ価値を著しく侵害する暴力行為を根絶し、世界共通の人類の文化であるスポーツの伝道者となることが求められる。

【おわりに】

これまで、我が国のスポーツ界において、暴力行為を根絶しようとする取組が行われなかったわけではない。しかし、それらの取組が十分であったとは言い難い。本宣言は、これまでの強い反省に立ち、我が国のスポーツ界が抱えてきた暴力行為の事実を直視し、強固な意志を持って、いかなる暴力行為とも決別する決意を示すものである。

本宣言は、これまで、あらゆるスポーツ活動の場において、暴力行為からスポーツを行う者を守り、スポーツ界の充実・発展に尽力してきた全てのスポーツ関係者に心より敬意を表するとともに、それらのスポーツ関係者と共に、スポーツを愛し、豊かに育んでいこうとするスポーツへの熱い思いを受け継ぐものである。そして、スポーツを愛する多くの人々とともに、日本体育協会、日本オリンピック委員会、日本障害者スポーツ協会、全国高等学校体育連盟、日本中学校体育連盟は、暴力行為の根絶が、スポーツを愛し、その価値を享受する者が担うべき重要な責務であることを認識し、スポーツ界におけるあらゆる暴力行為の根絶に取り組むことをここに宣言した。

この決意を実現するためには、本宣言をスポーツに関係する諸団体及び組織はもとより、広くスポーツ愛好者に周知するとともに、スポーツ諸団体及び組織は、暴力行為根絶の達成に向けた具体的な計画を早期に策定し、継続的な実行に努めなければならない。

また、今後、国際オリンピック委員会をはじめ世界の関係諸団体及び組織とも連携協力し、グローバルな広がりを展望しつつ、スポーツ界における暴力行為根絶の達成に努めることが求められる。

さらに、こうした努力が継続され、結実されるためには、我が国の政府及び公的諸機関等が、これまでの取組の上に、本宣言の喫緊性、重要性を理解し、スポーツ界における暴力行為根絶に向けて、一層積極的に協力、支援することが望まれる。

最後に、スポーツ活動の場で起きた数々の痛ましい事件を今一度想起するとともに、スポーツ界における暴力行為を許さない強固な意志を示し、あらゆる暴力行為の根絶を通して、スポーツをあまねく人々に共有される文化として発展させていくことをここに誓う。

平成25年4月25日

公益財団法人日本体育協会
公益財団法人日本オリンピック委員会
公益財団法人日本障害者スポーツ協会
公益財団法人全国高等学校体育連盟
公益財団法人日本中学校体育連盟

宣言しよう、フェアプレイ。

公益財団法人
日本体育協会

宣言しよう。
全力をつくし、挑戦し、
楽しむことを。

宣言しよう。
仲間を信じ、思いやることを。

宣言しよう。
約束を守り、応援してくれる人への
感謝を忘れないことを。

その誓いは、スポーツを
もっと楽しいものにしてくれる。
日々の生活を
もっとすがすがしいものにしてくれる。

そして多くの人々を活気づけ、
今の日本を元気にするチカラにも
なってくれる。

さあ、あなたも手を胸に。
フェアプレイの誓いを。

国体パートナー

わたしたちは、2016 希望郷いわて国体を応援しています。

LAWSON　北日本銀行　大塚製薬　三井住友海上 MS&AD INSURANCE GROUP

asics　耕そう、大地と地域のみらい。JAいわてグループ　岩手銀行　MIZUNO

FOR THE REAL CHAMPION

“PLAY TRUE”とは、チームワーク、楽しみ、喜び、フェアプレーなど
スポーツの様々な価値をつなぎ合わせ、尊重する精神。
PLAY TRUE精神のもとに、アンチ・ドーピング活動が推進されています。

希望郷いわて国体
希望郷いわて大会 は、PLAY TRUE を推進します

アンチ・ドーピング活動とは、公正公平なスポーツに参加する
アスリートの権利とスポーツの価値をまもり、育む活動です。

JADA Japan Anti-Doping Agency　アンチ・ドーピングに関する大切なお知らせ

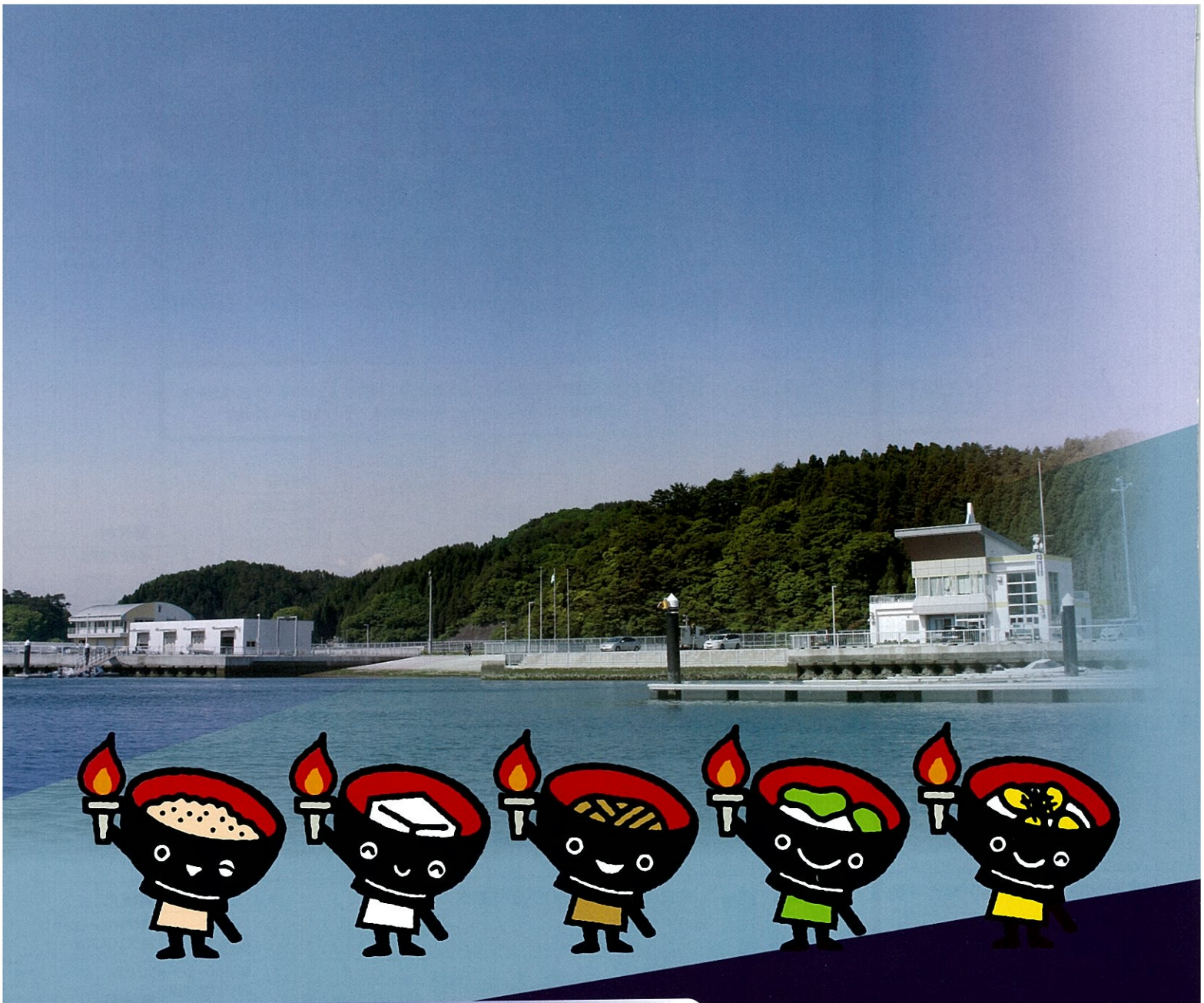
global DRO　使用可能薬の検索 アスリート自身で確認！

SPORTS MACIST　薬の正しい使い方を薬の専門家に相談！

JADA　Global DRO　スポーツファーマシスト

公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構（JADA）
〒115-0056 東京都北区西が丘3-15-1 国立スポーツ科学センター内

スポーツ庁委託事業



競技記録結果

第71回国民体育大会の正式競技、特別競技の
競技記録結果を掲載しています。

掲載期間
平成28年９月１日(木)～10月31日(月)

●ＰＣ版　http://kirokukensaku.net/5NS16/index.html
●携帯版　http://kirokukensaku.net/5NS16/mob/index.html

PC版 QR コード　携帯版 QR コード

希望郷いわて国体・希望郷いわて大会実行委員会
お問い合わせデスク

設置期間
平成28年10月11日(火) まで ※土、日、祝日を除く
(ただし、９月４日～11日、10月１日～11日は毎日開設)

電話番号　019－653－5080
運営時間　９時～17時